十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假釋シ其姓名ヲ記シタル木牌ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條　刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論説ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條　囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條　囚人獄則ヲ違守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞擧セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ

賞表ハ假出獄免囹閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條　賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條　囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一　屏禁　晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課ス

二　減食　一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三　閉室　閉室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス」

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜以内トス

第四十三條　囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一　獨慎　晝夜一室ニ獨居セシム

二　減食　一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條　減食若クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ認スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條　無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一月以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鈦ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈦ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條　施鈦中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鈦ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施鈦期限ニ算入セス

第四十七條　賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條　獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコト

ヲ得

第四十九條　免囹圄ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘置スルコトヲ得

第五十條　四人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情狀ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閲ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第五十二條　此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○

朕工兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第九十四號（官報七月十三日）

工兵方面條例

第一條　工兵方面ハ要塞堡壘砲臺及附屬營造物ノ建築修繕監視其他之ニ關スル工兵事業ヲ掌リ歩工兵ノ工具材料ヲ調辨シ且工兵所屬地ノ事ヲ管轄スル所トス

第二條　工兵方面ハ之ヲ分テ二トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二第三ノ師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第四第五第六師管ヲ管轄ス

各管内要塞及重要ノ砲臺ニハ支署ヲ置ク但支署ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示スヘシ

第三條　工兵方面ニ左ノ職員ヲ置ク

本署

提理　工兵大中佐一人

副提理　工兵少佐一人

署員　工兵大中尉四人

軍吏　一人

支署

支署長　工兵少佐或ハ工兵大中尉一人

署員　工兵大中少尉一人若クハ二人

軍吏　一人

第四條　要塞砲臺ノ位置ニ依リ大中尉ヲ支署長ト爲ストキハ他ノ士官及軍吏ヲ置カサルコトヲ得

第五條　第三條ニ掲クル職員ノ外本支署ニ工兵上等監護工兵監護技手及軍吏部書記若干人ヲ置ク

第六條　提理ハ陸軍大臣ニ隷シ方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ共責ニ任ス

第七條　副提理ハ提理ヲ補佐シ方面ノ事務ヲ整理ス

第八條　支署長ハ提理ニ屬シ要塞砲臺ニ在テ工兵方面ノ事務ヲ分擔ス

第九條　署員軍吏ハ提理及署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分掌ス

第十條　支署長ハ戰時及事變ニ在テハ要塞若クハ砲臺司令官ノ指揮ヲ受ケ工兵諸般ノ勤務ニ從事スヘシ

第十一條　要塞堡壘砲臺ノ改築其他防禦上必要ト認ムル事項アルトキハ提理ハ要塞若クハ砲臺司令官ト熟議ノ後陸軍大臣ニ上申スルコトヲ得

第十二條　工兵隊ヲ以テ工業ニ從事セシムヘキ命アルトキハ提理ハ該隊長ニ工事施設ノ方法ヲ指示スヘシ

第十三條　提理ハ工事ニ關シ必要ト認ムルトキハ本支署ノ官僚ヲ彼此應用スルコトヲ得

第十四條　方面本署及支署ニハ各其所管ノ要塞堡壘砲臺ノ圖面竝ニ其周圍ノ地圖ヲ備フヘシ

○

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第九十五號（官報七月十三日）

會計年度開始前現金支出規則

第一條　各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未ダ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作リ大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條　大藏大臣前條ノ計算書ヲ檢視シ現金前渡ヲ正當ト認メタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三條　前各條ニ定メタルモノヽ外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

○

朕地方遞信官官制ヲ廢シ更ニ郵便及電信局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第九十六號（官報七月十六日）

郵便及電信局官制

第一條　郵便電信ノ業務ヲ執行スル爲地方ニ郵便電信局郵便局及電信局ヲ置キ遞信大臣ノ管轄ニ屬セシム

第二條　郵便電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

郵便電信局長

郵便電信書記

東京及大阪郵便電信局ニ限リ事務官二人ヲ置ク

第三條　郵便局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

郵便局長

郵便書記

第四條　電信局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

電信局長

電信書記

第五條　郵便電信局郵便局及電信局ノ等級ヲ分テ各一等二等三等トス

第六條　一等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ奏任又ハ判任トス其ノ奏任ヲ以テ局長ニ任スル局ノ位置及其ノ局長ノ官等ヲ定ムル左ノ如シ

東京　大阪

以上局長奏任四等以上トス

京都　横濱　神戸　長崎　函館

新潟　名古屋　熊本　仙臺　廣島

以上局長奏任三等以下トス

二等三等郵便電信局郵便局電信局ノ局長ハ判任トス但三等ノ各局長ハ遞信大臣別ニ定ムル採用規則ニ依リ任用スルモノトス

郵便電信局長郵便局長電信局長ハ遞信大臣ノ指揮監督ヲ受ケ局中全部ノ事ヲ管理ス

第七條　事務官ハ奏任トス其ノ官等ハ現任局長ノ次等以下トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便電信業務ヲ掌理シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第八條　郵便電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便電信業務ニ從事シ事務官ヲ置カサル局ニ於テハ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第九條　郵便書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ郵便業務ニ從事シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十條　電信書記ハ判任トス局長ノ指揮ヲ受ケ電信業務ニ從事シ局長事故アルトキ其ノ事務ヲ代理ス

第十一條　書記ノ事務ハ書記ノ外便宜雇員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十二條　一等郵便電信局一等郵便局一等電信局ハ遞信大臣ノ指定スル區域内ノ郵便電信局郵便局及電信局ノ業務ヲ監督ス

○

朕海軍上等技工技工及工夫手當金加給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第九十七號（官報七月十七日）

海軍上等技工技工及工夫ヲ定時間外ニ服務セシムルトキ及潛水器ヲ用フル事業ニ從事セシムルトキハ一時間ニ付等級相當技術手當金ノ五分ノ二ヲ最上限トシ加給スルコトヲ得

○

朕明治二十一年十一月三十日北米合衆國華盛頓府ニ於テ朕カ全權委員ト墨西哥合衆國全權委員ノ記名調印シタル修好通商條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月十七日（官報七月十八日）

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

外務大臣伯爵大隈重信

日本皇帝陛下及墨西哥合衆國大統領ハ兩國間竝ニ其臣民及人民間ノ修好通商ニ關シ永久堅固ノ基礎ヲ定メンコトヲ欲シ修好通商條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ亞米利加合衆國華盛頓府ニ駐劄スル日本皇帝陛下ノ特命全權公使從四位勳三等陸奥宗光ヲ其全權委員ニ命シ墨西哥合衆

國大統領ハ亞米利加合衆國華盛頓府ニ駐劄スル墨西哥合衆國ノ特命全權公使マチアス、ロメロ、ヲ其全權委員ニ命シタリ因テ雙方ノ全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ其正實適當ナルヲ確認シ左ノ條々ヲ合議決定セリ

第一條　日本帝國ト墨西哥合衆國トノ間竝ニ兩國臣民及ヒ人民ノ間ニ永遠無窮ノ平和親睦アルヘシ

第二條　日本皇帝陛下ハ其便宜ニ從ヒ其外交官ヲ墨西哥合衆國ニ駐劄セシムルコトヲ得墨西哥合衆國政府モ亦其便宜ニ從ヒ其外交官ヲ日本國ニ駐劄セシムルコトヲ得又兩締約國ハ各々通商上便宜ノ爲メ他ノ一方ノ領地ニ於テ最惠國領事官ノ駐在シ得ヘキ各港各所ニ總領事、領事、副領事及ヒ領事代理ヲ駐在セシムルノ權ヲ有スヘシ然レトモ右總領事、領事、副領事及ヒ領事代理ハ其職務ヲ行フニ先チ定式ニ從ヒ其赴任國政府ノ認可ヲ經ヘキモノトス而シテ兩締約國ノ一方ノ外交官及ヒ領事官ハ本條約ノ各條款ニ抵觸セサル外他ノ一方ノ領地內ニ於テ最惠國ノ同格ノ外交官及領事官ニ現ニ許與シ若クハ將來許與スヘキ一切ノ權利特權及ヒ免除ヲ享有スヘシ

第三條　兩締約國ノ領地及ヒ其所屬地ノ間ニハ相互ニ通商及ヒ航海ノ自由アルヘシ兩締約國ノ一方ノ臣民若クハ人民ハ他ノ一方ノ領地及ヒ所屬地ニシテ最惠國ノ臣民若クハ人民ノ到リ得ヘキ各所各港ヘハ其船舶貨物ヲ以テ自由安全ニ到ルコトヲ得且ツ最惠國ノ臣民若クハ人民ノ滯在住居シ得ヘキ各所各港ニ滯在住居スルコトヲ得又右臣民若クハ人民ハ其住居地ニ在テ家屋倉庫ヲ借受ケ總テ正業ニ屬スル天產物、製造品及ヒ其他商品ノ卸賣若クハ小賣營業ニ從事スルコトヲ得

第四條　日本皇帝陛下ハ本條約前條ニ依リ日本國ニ渡來スル墨西哥國人民ニ附與シタル特權ノ外茲ニ此條約ニ記載セル數箇ノ條款ニ對シ別ニ同國人民ニ許與スルニ皇帝陛下ノ領地內及ヒ其所屬地各所ニ入來シ又ハ滯在住居シ同所ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ又ハ總テ正業ニ屬スル天產物、製造品及ヒ各種商品ノ卸賣若クハ小賣營業及ヒ其他一切合法ノ職業ニ從事スルノ特權ヲ以テス

第五條　兩締約國ハ其一方ノ領地ニ於テ通商航海旅行及ヒ住居ノ事ニ關シ他ノ外國ノ臣民若クハ人民ニ現ニ許與シ若クハ將來許與スヘキ一切ノ殊遇、特權及ヒ免除ハ他ノ一方ノ臣民若クハ人民ニモ之ヲ許與シ而シテ右殊遇、特權及ヒ免除ハ報酬ヲ要セスシテ他ノ外國ノ臣民若クハ人民ニ許與シタルモノニ係レハ又均シク報酬ヲ要セスシテ之ヲ許與シ若シ別段ノ約束ニ依テ許與シタル者ニ係レハ則チ同一ノ約束又ハ之ト同一ノ價値ヲ有スル報酬ニ對シテ之ヲ許與スヘキコトヲ約ス

第六條　噸稅、燈稅、港稅、水先案內費、難破救助費及ヒ其他ノ諸稅ニ就キテハ日本各港ニ於ケル墨西哥合衆國ノ船舶又墨西哥合衆國各港ニ於ケル日本國ノ船舶ニ對シ最惠國ノ船舶ニ現ニ賦課シ又ハ將來賦課スヘキ諸稅ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅金ヲ賦課スルコトナカルヘシ

第七條　墨西哥合衆國ノ天產物及ヒ製造品ヲ日本國ニ輸入シ又ハ日本國ノ天產物及ヒ製造品ヲ墨西哥合衆國ニ輸入スルトキハ他ノ外國ノ產出若クハ製造ニ係ル同種類ノ物品ニ對シ現ニ賦課シ若クハ將來賦課スヘキ輸入稅ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締約國ノ一方ノ領地若クハ所屬地ヘ向ケ輸出スル物品ニ就テハ他ノ外國ヘ向ケ輸出スル同種類ノ物品ニ對シ現ニ賦課シ若クハ將來賦課スヘキ諸稅金ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締約國ノ一方ノ領地ノ天產物若クハ製造品ヲ他ノ一方ノ領地若クハ所屬地ニ輸入スルヲ禁スルハ他ノ外國ノ產出若クハ製造ニ係ル同種類ノ物品ノ輸入ヲ禁スル場合ニ限ルヘシ又兩締約國ノ一方ノ領地ヨリ他ノ一方ノ領地若クハ所屬地ヘ向ケ物品ヲ輸出スルヲ禁スルハ他ノ外國ノ領地ヘ向ケ同種類ノ物品ノ輸出ヲ禁スル場合

ニ限ルヘシ

第八條　日本國又ハ其領海ニ來ル墨西哥合衆國ノ人民及ヒ船舶ハ日本國又ハ其領海ニ在ル間ハ墨西哥合衆國及ヒ其領海ニ到ル日本皇帝陛下ノ臣民及ヒ船舶カ墨西哥國ノ法律及ヒ其裁判管轄ニ服從スルト同樣日本國ノ法律ヲ遵奉シ且ツ其裁判管轄ニ服從スヘキモノトス

第九條　本條約ハ共批准書交換後直ニ實行スヘシ而シテ兩締約國ノ一方ヨリ本條約ヲ廢棄スルノ意ヲ他ノ一方ヘ通知シタル日ヨリ六箇月間其効力ヲ有シ此期限ヲ經過シタル上ハ直ニ其効力ヲ失フヘシ

第十條　本條約ハ日本文、西班牙文及ヒ英文ノ三國文ニ記スヘシ若シ日本文ト西班牙文トノ間ニ文意相異ナルトキハ英文ニ從リ之ヲ斷定スヘキコトヲ雙方政府約束ス

第十一條　本條約ハ可成丈ケ早キ時期ニ兩締約國ニ於テ互ニ批准シ亞米利加合衆國華盛頓府ニ於テ其批准書ヲ交換スヘシ

右證據トシテ雙方ノ全權委員本條約六通ニ記名調印スルモノ也

日本明治二十一年十一月三十日
西暦千八百八十八年十一月三十日

華盛頓府ニ於テ
陸奥宗光　印
エム、ロメロ　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

帝國ト墨西哥合衆國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメンコトヲ欲シ明治二十一年十一月三十日北米合衆國華盛頓府ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好通商條約文ノ各條目ヲ朕親レク閲覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百四十九年明治二十二年一月二十九日東京宮城ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵大隈重信　印

○

朕海軍武官官等表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治二十二年七月二十三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第九十八號（官報　七月二十四日）

海軍武官官等表中判任ノ部左ノ通改正ス

判任						
一等	二等	三等	四等			
准士官	一等	二等	三等	士官	下等	
上等兵曹	一等兵曹	二等兵曹	三等兵曹			

軍樂師	一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手
機技部准士官	機技部下士		
機關師	一等機關手	二等機關手	三等機關手
上等技工	一等技工	二等技工	三等技工
船匠師	一等船匠手	二等船匠手	三等船匠手
	一等鍛冶手	二等鍛冶手	三等鍛冶手
	軍醫部下士		
	一等看護手	二等看護手	三等看護手
主計部准士官	主計部下士		
上等主帳	一等主帳	二等主帳	三等主帳

朕軍艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○

御名御璽

明治二十二年七月二十三日

勅令第九十九號（官報　七月二十四日）

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

海軍大臣伯爵西鄕從道

軍艦條例

第一條　軍艦ハ鎭守府ヲ本營トス

第二條　軍艦艦隊ニ編入中ハ艦隊司令長官ニ屬スト雖モ其本營ヲ變セス艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解隊シタルトキハ別ニ命令ナクシテ其本營ニ歸スルモノトス

第三條　軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ豫備練習測量其他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱ス

第四條　軍艦戰鬪航海ノ準備整頓シ役務ノ命ヲ待ツトキハ之ヲ豫備艦ト稱ス

第五條　軍艦製造艤裝修理中ニ在ルトキ又ハ戰鬪航海ノ準備整ハサルトキハ之ヲ非役艦ト稱ス

第六條　軍艦ノ定員ハ上長官士官準士官下士及卒ヲ以テ組織ス

第七條　軍艦ニハ定員ノ外少尉候補生少主計候補生ヲ乘組マシム

第八條　軍艦鎭守府司令長官又ハ艦隊司令長官司令官ノ旗艦タルトキハ定員ニ下士卒若干員ヲ增加スルコトヲ得

第九條　軍艦在役艦タルトキハ定員ヲ充實シ他ノ軍艦ニ屬シタルトキ又ハ豫備艦或ハ非役艦タルトキハ定員中適宜ノ人員ヲ置キ或ハ之ヲ置カサルコトアリ

第十條　軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之ニ補ス

艦長　大佐若クハ少佐若クハ大尉
副長　少佐若クハ大尉
砲術長　大尉
水雷長　大尉
航海長　大尉
分隊長　大尉
機關長　機關少監若クハ大機關士
軍醫長　大軍醫
主計長　大主計
航海士　少尉
分隊士　少尉
水雷主機　機關士
機關士　大機關士若クハ少機關士
軍醫　大軍醫若クハ少軍醫
主計　大主計若クハ少主計

職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應シ別ニ之ヲ定ム

練習測量其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ本條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトアリ

第十一條　艦長ハ所管長官ニ隸シ乘員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ一切ノ艦務ヲ統理ス

少佐若クハ大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス

同上

水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス

艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ軍醫少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ主計少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス水雷ノ裝置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス

第十二條　艦長ハ部下職員事故アリ代理者ナキトキ臨時他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十三條　副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦內ノ定則ヲ維持シ一切ノ艦務ヲ整理ス

第十四條　砲術長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十五條　水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

第十六條　航海長ハ航海及水路嚮導ヲ擔任シ主管ノ器具物品ヲ整頓シ艦內貯積ノ方法ヲ監督ス

第十七條　分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ誘掖訓練シ戰鬪運用防火其他各部署ノ主務ヲ掌理シ分擔ノ兵器及要具ヲ整頓ス

第十八條　砲術長水雷長航海長分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官ト稱シ其主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

第十九條　機關長ハ機關ヲ整頓シ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ機關部諸員ヲ誘掖訓練ス

第二十條　軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル

第二十一條　主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第二十二條　航海士ハ航海長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十三條　分隊士ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十四條　航海士分隊士ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十五條　水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ魚形水雷及電氣燈ニ係ル機關ヲ管理ス

第二十六條　機關士ハ機關長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十七條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十八條　主計ハ主計長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十九條　艦長缺員中ハ副長其職務ヲ執リ艦長事故アルトキハ副長其代理ヲ爲ス又副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將校其代理ヲ爲ス

第三十條　副長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲シ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將校副長ノ職務ヲ攝任ス

第三十一條　航海長事故アルトキハ航海士其代理ヲ爲シ分隊長事故アルトキハ分隊士其代理ヲ爲シ機關長事故アルトキハ機關士其代理ヲ爲シ軍醫長事故アルトキハ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ主計其代理ヲ爲ス

第三十二條　艦隊隊附屬ノ軍艦ニ在テハ乘組將校又ハ本艦隊ヨリ臨時乘組メル將校ノ中先任者其艦一切ノ命令ヲ掌トリ艦ノ保安ヲ負擔スルモノトス

○

朕艦隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月二十三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第百號（官報七月二十四日）

艦隊條例

第一條　艦隊ハ軍艦三艘以上ヲ以テ編制ス

第二條　艦隊ハ常置シ又ハ臨時編制ス

艦隊ノ名稱ハ編制ノ目的又ハ差遣スル所ノ海洋若クハ地方ノ名ヲ冠シ某艦隊ト稱ス

第三條　艦隊ニ司令長官ヲ置キ其勢力ニ應シ大將中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

第四條　大將若クハ中將ノ司令スル艦隊艦數多キトキハ其下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補スルコトアリ

第五條　艦隊司令長官司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

	參謀長	參謀	司令長官司令官傳令使	祕書
大將司令長官ルトキノ幕僚	少將若クハ大佐一	少佐大尉一	主計少監大主計一	
中將司令長官ルトキノ幕僚	大佐一	大尉一	大主計一	
少將司令長官ルトキノ幕僚	少佐一	大尉一	大主計一	
司令官ノ幕僚	大尉一	大尉一	大主計一	

艦隊外國ニ航スルトキ時宜ニ依リ譯官トシテ奏任官又ハ判任官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第六條　艦隊司令長官ハ

天皇ニ直隸シ麾下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第七條　艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ檢閱シ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ

奏上ス可シ

第八條　艦隊司令長官ハ沿海ノ地方長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スルトキ事急ナレハ直ニ之ニ應シテ後海軍大臣ニ報告ス可シ若シ其事急激危險ニシテ地方長官ヨリ請求ノ暇ナキトキハ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條　艦隊司令長官ハ麾下ノ軍艦ヲ分遣スルトキハ部下司令官若クハ先任艦長ヲシテ其指揮ヲ掌トラシメ其職權内ノ事ヲ委任スルコトヲ得

第十條　艦隊司令長官ハ部下職員事故アルトキ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十一條　艦隊司令官ハ司令長官麾下ノ軍艦ヲ分轄シ之ヲ訓練シ軍備ヲ整頓ス

第十二條　艦隊司令長官司令官ハ部下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲ク之ヲ旗艦ト稱ス

第十三條　艦隊司令長官司令官ハ旗艦ノ艦長機關長軍醫長主計長ヲシテ其機務ニ參與セシムルコトヲ得

第十四條　參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ輔佐シ其機務ニ參シ參謀傳令使祕書ヲ指揮監督シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス

第十五條　參謀長アラサル艦隊ノ參謀ハ司令長官司令官ノ機務ニ參シ傳令使祕書ヲ指揮監督シ軍事ニ係ル諸件ヲ整理ス

第十六條　參謀長アル艦隊ノ參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ軍事ニ係ル諸件ヲ分掌ス

第十七條　司令長官司令官傳令使ハ常ニ司令長官司令官ニ隨從シ命令傳達及信號施行ヲ掌トリ臨時司令長官司令官若クハ參謀長ノ命ヲ受ケ參謀又ハ祕書ノ事務ヲ助ク

第十八條　祕書ハ艦隊ノ庶務ヲ整理ス

○

朕官吏非職條例中改正ノ件ヲ裁可ス

御名御璽

明治二十二年七月二十三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百一號（官報七月二十四日）

官吏非職條例第七條第一項左ノ通改正ス

第七條　非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ市町村及學校病院會社其他法人ノ業務ニ從事シ其役員ト爲ルコトヲ得

○

朕屯田兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年七月二十九日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第百二號（官報七月三十日）

屯田兵條例

總則

第一條　屯田兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ北海道ノ兵備完整ニ至ル迄該地ニ配從シ其警備ニ充ツ

第二條　屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ家屋ニ居住シ開墾耕稼ノ事ニ從ハシメ且軍事上ノ訓練ヲ爲ス

第三條　屯田兵ハ志願兵ニシテ年齡十七歲以上三十歲以下ノ者ヨリ選用ス

第四條　屯田兵ハ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住シ服役スルモノトス

編制

第五條　屯田兵ハ平時ハ數箇ノ獨立大隊ニ編成シ戰時ハ野戰隊ニ編成ス其編制ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六條　屯田兵司令部ハ之ヲ概要ノ地ニ置ク

第七條　屯田兵司令部ノ編成左ノ如シ

一　參謀部
二　副官部
三　法官部
四　會計部
五　軍醫部

第八條　屯田兵所在地ニ監獄ヲ置ク

職務

第九條　司令部ニ屯田兵司令官一人ヲ置キ少將ヲ以テ之ニ補シ陸軍大臣ニ隸シ屯田兵ヲ統率シ軍事並ニ開墾耕稼ニ係ル諸件ヲ總理シ監獄ヲ管轄ス

第十條　司令官ハ北海道廳長官ヨリ地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ若クハ變災事故等ニテ兵隊ヲ要シ援助ヲ請求スル時ハ直チニ之ニ應シテ後之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條　司令官ハ隨時屯田兵隊ヲ檢閲シ毎年一回其狀況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十二條　司令官ハ部下兵員家族ノ取締及其督勵上ニ就キ便宜適當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第十三條　司令部ニ屯田兵副司令官一人ヲ置キ屯田兵大佐ヲ以テ之ニ補ス但之ヲ置クト否トハ事務ノ繁閑ニ從フ

第十四條　參謀部ニ參謀二人ヲ置キ中(少)佐一人大尉一人ヲ以テ之ニ補シ其下ニ下士若干人ヲ置ク

第十五條　副官部ニ副官四人ヲ置キ屯田兵少佐一人同大、中尉二人ヲ以テ之ニ補シ其下ニ下士、屬及技手若干人ヲ置ク

第十六條　法官部ニ理事二人及錄事若干人ヲ置ク

第十七條　會計部ニ部長一人及部員三人ヲ置キ部長ハ屯田兵少佐部員ハ屯田兵大、中尉ヲ以テ之ニ補シ其下ニ下士若ノハ屬若干人ヲ置ク

第十八條　軍醫部ニ軍醫長一人及部員二人ヲ置キ軍醫長ハ一、二等軍醫正部員ハ一、二、三等軍醫及同藥劑官ヲ以テ之ニ補シ其下ニ下士若クハ屬若干人ヲ置ク

第十九條　監獄ニ監獄長一人醫官一人ヲ置キ監獄長ハ屯田兵大(中)尉醫官ハ一等軍醫ヲ以テ之ニ補シ其下ニ下士及卒若干人ヲ置ク

士官下士補充

第二十條　屯田兵現役士官ハ陸軍武官進級令ニ依ルノ外札幌農學校卒業生徒及各兵科現役士官ノ內ヨリ適任ノ者ヲ以テ補充ス

第二十一條　札幌農學校生徒ヨリ屯田兵士官トナスヘキモノハ該校ニ於テ普通農學ヲ修メタルモノニシテ屯田兵士官出身志願ノ者ヲ選定シ一箇年間特別ノ軍事學ヲ教授シ屯田兵隊ニ於テ上等兵以上一等軍曹迄ノ勤務ニ服セシメ尚ホ該校ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

第二十二條　前條ノ卒業者ヲ屯田兵士官ニ補充セントスルトキハ直チニ各隊ニ配賦シ見習士官ヲ命シ尚ホ少クモ六箇月以上隊務ニ服セシメ將校會議ヲ經テ少尉ニ任ス

第二十三條　屯田兵下士ハ屯田兵上等兵ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上其職ヲ率シ學術才能屯田兵下士ニ適當ナル者及各兵科現役下士ノ內ヨリ適任ノ者ヲ以テ補充ス

兵役

第二十四條　屯田兵下士ノ兵役ハ二種ニ分ツ卽チ左ノ如シ

一　屯田兵上等兵ヨリ出身ノ者ハ年齡四十歲ニ至ル迄服役セシム

二　各兵科現役下士ヨリ轉科シタル者ハ轉科ノ日ヨリ更ニ七箇年間服役セシム

但尚ホ服役志願ノ者ハ更ニ三箇年間再服役ヲ許スコトアルヘシ

第二十五條　屯田兵卒ノ兵役期限ハ之ヲ定メス但服役者死亡スルカ若クハ事故アリテ免役スルトキ又ハ年齢四十歳ニ至ルトキハ其子弟ヲシテ兵役ヲ相續セシム

其子弟幼年ニシテ未タ兵役ニ堪ヘサル者ハ成長ヲ待テ服役セシム

第二十六條　屯田兵ノ將校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトキハ原兵科ニ復スルモノトス

其原兵科ナキ者ハ歩兵科トス

第二十七條　士官下士ノ補充及下士兵卒兵役ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○

朕帝國憲法發布記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年八月二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百三號（官報　八月三日）

第一條　大日本帝國憲法發布記念章ハ金銀ノ兩種トス

第二條　記念章ヲ賜與スルハ憲法發布式ニ關リタル親王以下ノ諸員ニ限ル（判任官以下ヲ除ク）

第三條　記念章ノ圖式左ノ如シ

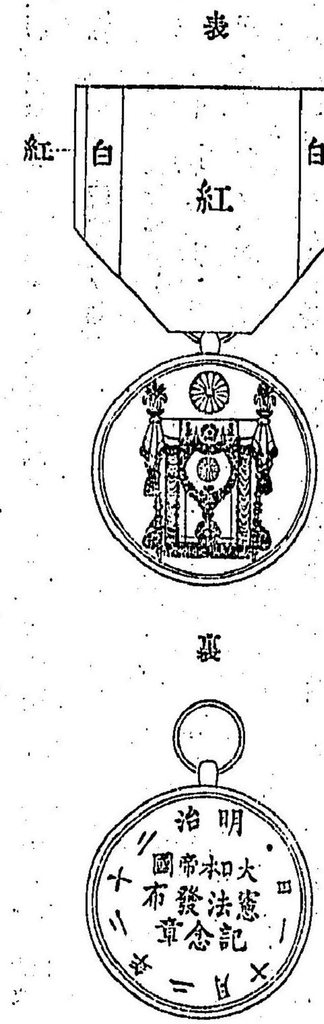
章　圓形（徑九分餘）金若クハ銀（輪廓内表面ニ菊御紋ト高御座位大勳位菊花頸飾章ノ圖裏面ニ明治二十二年二月十一日大日本帝國憲法發布記念章ノ二十三字ヲ識ス）

環　圓形金若クハ銀

綬　幅一寸二分旭日桐花章ノ綬ヲ用フ

第四條　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルヲ許ス其ノ之ヲ沒收スルノ事項ハ明治十四年第六十三號布告褒章條例ニ依ル

記念章ノ圖



佩用式

一　綬ヲ用テ左胸ニ佩フ

一　記念章ヲ四等以下ノ勳章若クハ記章褒章ト併佩スル時ハ勳章ノ左記章褒章ノ右ニ列シテ佩フヘシ

○

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年八月八日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百四號（官報八月九日）

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年八月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

一　長門國下ノ關　　一　筑前國博多

一　肥前國口ノ津　　一　後志國小樽

○

朕札幌農學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年八月十七日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百五號（官報八月十九日）

明治十九年十二月勅令第八十四號札幌農學校官制中左ノ通改正ス

第一條　札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技藝ヲ教授スル所トス

本校ハ生徒中ヨリ屯田兵士官出身志願ノ者ヲ選定シ軍事ニ關スル學術技藝ヲ教授ス

第六條　教授十人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

○

朕會計檢査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年九月二十四日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百六號（官報　九月二十五日）

會計檢査院事務章程

第一章　部課

第一條　會計檢査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ク

各課ノ課長ハ檢査官ヲ以テ之ニ充テ檢査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條　會計檢査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章　會議

第三條　會計檢査院ノ會議ハ會計檢査官ヲ以テ組織ス

第四條　總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條　總會議ハ現員會計檢査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セス

出席會計檢査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ檢査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

檢査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計檢査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條　總會議及部會議ハ課長ノ査閲ヲ經タル檢査官補ノ報告書若ハ會計檢査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章　職員及權限

第七條　院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條　院長ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ敍位敍勳昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ增俸賞與ヲ行フ

第九條　檢査官ハ奏任四等以上トシ檢査官補ハ奏任四等以下トス

第十條　會計檢査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條　左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一　各部及各課管理ノ事務ヲ定ム

第二　職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三　檢査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四　臨時屬官ニ指命シテ檢査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス

第五　特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

第六　奏任以下ノ官吏ニ派出檢査ヲ命ス

第七　檢査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム

第八　議事ニ關ル細則ヲ定ム

第九　會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

第十　庶務及會計ニ關ル規定ヲ定ム

第十二條　院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十三條　院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以內ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條　總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條　院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條　院長ハ檢査ノ結翌ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽査ヲ行フヘシ

第十八條　左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一　所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽査シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二　檢査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三　部中檢査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幹助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四　部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長

ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條　部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以內ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條　部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長專ラ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條　部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條　課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條　課長ハ課中檢査官補ノ調製スル文書ヲ查閱シ其ノ適當ヲ認シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ檢査官補ノ責任ニ屬スルモノヽ外ハ院長及部長ニ對シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條　課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條　課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍內ニ於テ會計檢査院法第十四條及第十五條ニ依リ同院ヨリ提出スヘキ檢査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條　檢査官補ハ計算書證憑書ノ檢査報告ヲ爲シ審理書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル

檢査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ檢査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條　檢査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ辯明ヲ爲ス

第三十條　檢査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ檢査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條　書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條　屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第四章　行務

第三十三條　會計檢査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條　會計ノ檢査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一　命令官決算ノ檢定

第二　出納官吏計算ノ檢査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各省決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ檢査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

右ノ外會計檢査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ檢査判決ハ其ノ主管若ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條　會計檢査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ檢査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條　會計檢査院ハ檢査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條　會計檢査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ル

モ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條　審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一　不合規ノ件ニ對スル批難

第二　將來ノ措置ニ對スル注意

第三　不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條　會計檢査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

檢査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條　出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計檢査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條　判決書ヲ發シタルトキハ會計檢査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條　會計檢査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條　會計檢査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

第一　計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二　脫漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三　新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ

第四　正當ナラサル證憑書ニ據リ判決シタリトスルトキ

第五　判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條　再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ檢査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第四十五條　會計檢査院ハ檢査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

○

朕明治十年第八十號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年九月二十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百七號（官報　九月二十七日）

明治十年十一月第八十號布告本年限廢止ス

（參照）第八十號布告（明治十年十一月二十二日）

地租金ノ内四分ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額共府縣ノ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候也

○

朕帝國遞信省ト加那太政廳トノ間ニ郵便爲替規約ヲ締結セシメタルニ依リ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年九月二十八日（官報　九月三十日）

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
遞信大臣伯爵後藤象二郎

日本帝國遞信省ト加那太國郵政廳トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替規約

第一條　日本帝國ト加那太國トノ間ニ郵便ヲ以テ爲替ヲ執行スヘシ

第二條　爲替金ハ雙方共加那太貨幣ヲ以テ記載スヘシ但兩國ノ間貨幣ノ相場ニ時々昇降アルカ爲メニ日本遞信省ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金ヲ引直スヘキコトヲ茲ニ約束ス即チ加那太ヘ爲替ヲ取組ム爲メ日本遞信省ニ於テ受領シタル金額ハ爲替ヲ振出ス時ノ相場ヲ以テ加那太貨幣ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ加那太ヨリ振出シタル爲替ノ金額ハ日本遞信省ニ於テ爲替目錄ノ到達シタル日ノ相場ヲ以テ日本貨幣ニ引直スヘシ

第三條　爲替一口ノ金額ハ雙方共五拾弗ヲ超過スヘカラス

第四條　壹仙未滿ノ端數金額ハ爲替トナスヘカラス

第五條　爲替金額ハ差出人ヨリ拂込ミ並ニ受取人ヘ拂渡シ共金貨又ハ金貨ト同樣ノ價アル他ノ通貨タルヘシ

若シ兩國ノ一ニ於テ金貨ヨリ低價ナル紙幣ヲ通貨トシテ使用スルトキハ該國ノ郵政廳ハ其紙幣ヲ以テ人民ト爲替ノ受拂ヲナスコトヲ得但相場ノ差異ニ隨テ計算ヲナスヘシ

第六條　日本遞信省並ニ加那太郵政廳ハ雙方共共振出ス爲替手數料ノ割合ヲ時々更正スルノ權ヲ有ス此手數料ハ振出局ノ收入トス但日本遞信省ハ日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ノ千分ノ五ノ歩合金ヲ加那太郵政廳ヘ拂ヒ加那太郵政廳ハ加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替金總額ヨリ前同樣ノ歩合金ヲ日本遞信省ヘ拂フヘシ

第七條　爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名住所又差出人若クハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ住所ヲ差出人ヨリ申立ツルニ非レハ之ヲ振出サヽルヘシ但差出人若クハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其陳述スル通リヲ爲替目錄ニ記載スヘシ

第八條　兩國間郵便爲替ノ事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ日本ニ於テハ東京ヲ以テ交換局ト定メ加那太ニ於テハ英領「コロンビア」州「ヴヰクトリア」ヲ以テ交換局ト定ムヘシ

第九條　加那太ヨリ日本ヘ振出シタル爲替ノ要件ハ「ヴヰクトリア」交換局ニ於テ附錄甲號雛形ニ因テ調製セシ目錄ニ記入シ且ツ其金額ハ一々加那太貨幣ニテ之ヲ登記シ「ヴヰクトリア」ノ日付印ヲ押シ東京遞信省（外信局）ヘ遞送スヘシ該局ハ之ニ日付印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

日本ヨリ加那太ヘ振出シタル爲替ノ要件モ前同樣ノ手續ヲ以テ東京遞信省（外信局）ニ於テ附錄乙號雛形ニ因テ調製シタル目錄ヘ記入シ且ツ其金額ハ一々兩國ノ貨幣ニテ之ヲ登記シ其局ノ日付印ヲ押シ「ヴヰクトリア」交換局ヘ遞送スヘシ該局ハ之ニ日付印ヲ押シ拂渡ノ手續ヲナスヘシ

目錄及ヒ目錄中記載ノ件々ハ差立ノ順序ニ從ヒ永久番號ヲ付シ且ツ甲國ノ目錄乙國ニ達スルトキハ乙國ハ其後初メテ遞送スヘキ目錄中ニ甲國ノ目錄領收ノ旨ヲ記載スヘシ

前記目錄ハ兩國互ニ報知スヘキ爲替アル時ノミニ限リ送付スヘシ且ツ目錄ノ紛失等ヨリ不都合ノ生セサル爲メ兩國互ニ次便ヲ以テ前便遞送セシ目錄ノ副書ヲ送致スヘシ

毎年六月三十日ニ終ル一期間（一期間トハ一年ヲ三箇月ツヽ四期ニ分タル其一ヲ指ス以下同之）加那太ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ「ヴヰクトリア」交換局ヘ到達セル爲替ハ六月中最後ニ遞送スヘキ目錄ノ補缺目錄ニ記入

スヘシ又同期間日本ニ於テ振出シ六月三十日後ニ至リ東京交換局ニ到達セル爲替モ同樣六月中最後ニ遞送スヘキ目錄ノ裏面目錄ニ記入スヘシ

第十條　差立局ノ目錄受取交換局ヘ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人ヘ宛內國爲替ヲ振出シ內國爲替規則ニ隨ヒ之ヲ無稅ニテ受取人或ハ拂渡局ヘ配達スヘシ

目錄中受取交換局ニ於テ改正シ難キ誤謬アルトキハ差立局ヘ照會シ其說明ヲ請フヘシ差立局ハ可成丈ケ速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中內國拂渡爲替ノ振出ヲ停止スヘシ

爲替目錄ハ一通ヅヽ受取交換局ヨリ差立交換局ヘ返還スヘシ尤モ其返還前受取交換局ニ於テ目錄ニ記載ノ爲替拂渡局ノ名ヲ記入スヘシ且ツ日本ヨリ返還スル加那太目錄ヘハ日本遞信省ニ於テ引直シタル割合ニ依リ日本貨幣ヲ以テ爲替金額ヲ一々記入スヘシ

第十一條　甲國ヨリ乙國ニ向ケ振出シタル爲替ノ拂渡方ハ都テ拂渡國ノ內國爲替規則ニ隨ヒ取扱フヘシ

拂濟證書ハ雙方共其金額ヲ拂渡シタル國ニ保存スヘシ

第十二條　爲替受取人若クハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請願セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出セシ國ノ郵政廳ヘ申立ツヘシ

再度ノ爲替ハ初度ノ爲替振宛局ノ郵政廳ニ限リ之ヲ振出シ其手續ハ都テ其國ニ於テ既ニ制定シ又ハ新ニ制定スヘキ規則ニ隨フヘシ

第十三條　爲替ハ初度ノ振出シト再度ノ振出シトヲ論セス拂渡國ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡サス且ツ拂渡サヽル旨ヲ拂渡國ノ郵政廳ヨリ通知アリテ其旨ヲ證明シタル後ニ非レハ振出國ニ於テ之ヲ差出人ニ拂戻サヽルヘシ

第十四條　爲替ハ振出シタル月ヨリ十二箇月間ニ受取ラサレハ其効用ヲ失ヒ其金額ハ振出國ニ屬シ其處分ニ任スヘシ故ニ日本遞信省ハ加那太ヨリ受取タル目錄中ノ爲替ニテ右ニ定メタル期限中拂渡サヽルモノハ加那太ノ貸金トシテ每一期間ノ計算書中ニ記入スヘシ

又加那太郵政廳ハ日本遞信省每一期間計算書ニ記載ノ爲メ該局ヨリ到達セル目錄中爲替金ノ本條ニ因リ効用ヲ失ヒタルモノヲ記載シタル明細書ヲ每月末遞送スヘシ

第十五條　每一期間ノ末ニ於テ日本遞信省ハ該期中兩國ヨリ振出シタル爲替ノ詳細ヲ記スル各目錄ノ總額及ヒ右ヨリ生スル差引殘額ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製スヘシ

右計算書二通ヲ在「オリタワ」府加那太郵政廳ヘ送達シ其差引殘額ハ證明ノ上日本遞信省借方トナルトキハ計算書ヲ送付スルト同時ニ「ニウヨルク」ヘ宛加那太貨幣ヲ以テ仕拂ヲナシ又加那太郵政廳借方トナルトキハ計算書ノ寫ヲ返付スルト同時ニ加那太貨幣ヲ以テ當時ノ相場ニ依リ買得ヘキ丈ケノ日本通貨ヲ買入レ横濱宛銀行爲替券ヲ以テ仕拂フヘシ

此每一期間計算書用紙ハ附錄丙丁及ヒ戊號ノ雛形ニ依ルヘシ

計算決定前日本遞信省及ヒ加那太郵政廳ノ中一方ヨリ他方ヘ對シ五千弗餘ノ殘額ヲ生スルトキハ速ニ右殘額ノ見積高ヲ拂フヘシ

第十六條　日本遞信大臣及ヒ加那太郵政長官ハ前規約ノ旨趣ニ牴觸スルニ非サレハ詐僞ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ增設スルノ權アルヘシ但甲國ニテ增加セシ條目ハ之ヲ乙國郵政廳ヘ通知スヘシ

第十七條　日本若クハ加那太商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ日本遞信省若クハ加那太郵政廳ハ適宜ニ其手數料ヲ增加シ若クハ一時全ク其振出

ヲ停止スルノ權アルヘシ

第十八條　此規約ハ明治二十二年十月一日即チ千八百八十九年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲナシタル日ヨリ十二箇月間効力ヲ有スヘシ

此規約ハ二通ヲ製シ一通ハ明治二十二年五月十六日東京ニ於テ記名調印シ又一通ハ一千八百八十九年六月二十七日「オランダワ」ニ於テ記名調印スルモノナリ

日本帝國遞信大臣
後藤象二郎

加那太郵政長官
ジョン、ハッガード

甲號

日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄第　號御差越相成正ニ領收致候當局ヨリ最後ノ目錄第　號差進候後加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替ノ爲メ當局ニ於テ領收致候金額ノ明細計算書今便差進候條御査收有之度候也

千八百八十　年
東京
遞信省

ツ井クトリア
郵便爲替交換局長

追テ本文目錄御領收ノ旨御回答有之度候也

甲號

加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄

局印

月日	內國爲替ノ番號	外國爲替ノ番號	振出局名	差出人住所氏名	受取人住所氏名	加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄				此欄ハ東京局ニテ使用ス	
						受取人ノ請求金額	本金	賞與金	總額	振出局名	仕拂局
						弗仙	円銭	円銭	円銭		
										東京局	
										國番	附註

此ノ目錄ニ記載セル加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ金額總計　弗ニ相成候爲替第　號ヨリ第　號迄調査候處左記ノ件々ヲ除クノ外ハ都テ正當ノモノト見認候也

、、、

千八百八十　年　　外信局長

ヴィクトリア
郵便爲替送換局長殿

乙　號

加那太ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フベキ爲替目錄　號御差戻正ニ領收致候當局ヨリ振戻ノ目錄　號御差戻致候日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フベキ爲替ノ爲メ當局ニ於テ領收致候金額ノ明細書　號御差戻致候御差收有之度候也

東京
遞信省
外信局長

千八百八十　年

ヴィクトリア
郵便爲替送換局長殿

追テ本文目錄御差收ノ旨御回答有之度候也

目錄第　號　　乙　號

局印

日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ爲替目錄

月日	內國爲替ノ番號	外國爲替ノ番號	振出局名	差出人氏名	差出人住所	受取人氏名	受取人住所 郵便局名 郡名 州名 共ニ記載スヘシ 可成ハ郵便局名郡名記載スヘシ	加那太金貨幣額	日本金貨幣額	此欄ハヴィクトリアニ於テ使用ス 內國爲替番號	仕拂局名	附註
								弗　仙	圓　錢			

此乙號ヨリノ目錄ニ記載セル日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フベキ金額總計　號迄調査致候處左記ノ件々ヲ除クノ外ハ都テ正當ノモノト認候也　非ニ相成候爲替目錄　號

ヴィクトリア郵便爲替送換局長

千八百八十　年
東京
遞信省
外信局長殿

丙　號

千八百八十　年　期
ニ於テ送出人ヘ拂渡シタル爲替目錄

シヨル爲替		加那太ヨリ振出シタル爲替			
爲替金額		目錄番號	目錄月日	外國爲替ノ番號	爲替金額
弗	仙				弗　仙
				總計	

期中提出國	日本ヨリ提出	目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	總計

丁號

受取人ナクシテ振出局ヘ返附スヘキ爲替

日本ニ於テ振出シタル爲替					加那太ニ於テ振出シタル爲替				
目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額		目錄番號	目錄月日	外國爲替番號	爲替金額	
			弗	仙				弗	仙
		總計					總計		

戊號

千八百八十　年第　期

日本ト加那太トノ間ニ交換シタル爲替總計表

日本ノ貸高	金額		加那太ノ貸高	金額	
加那太ヨリ振出日本ニ於テ仕拂フヘキ爲替	弗	仙	日本ヨリ振出シ加那太ニ於テ仕拂フヘキ爲替	弗	仙
目錄第　號	弗	仙	目錄第　號	弗	仙
〃　〃			〃　〃		
〃　〃			〃　〃		
〃　〃			〃　〃		
〃　〃			〃　〃		
〃　〃			〃　〃		
歩合金千分ノ五			歩合金千分ノ五		
拂戻爲替			拂戻爲替		
受取人ナキ爲替			受取人ナキ爲替		
日本ノ貸高總計			加那太ノ貸高總計		
差引加那太ヨリ受取ルヘキ高			差引日本ヨリ受取ルヘキ高		

○

陸軍憲兵用式追加ノ件ヲ親可シ裁ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月一日　　内閣總理大臣伯爵黒田清隆

勅令第百八號（官報十月二日）

明治二十一年勅令第七十六號憲兵用式第一條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但新花塩ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶一等章ヲ佩ヒ佩ルコトヲ得

○

陸軍裁判所構成條例職官表並派遣司令部條例及海軍裁判所構成條例職官表中改正ノ件ヲ親可シ裁ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月二日　　内閣總理大臣伯爵黒田清隆
陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百九號（官報十月四日）

陸軍裁判所構成條例職官表中法官部並合計ノ區別及備考ノ二派遣司令部條例第七條中並構成條例職官表及其補充ノ欄改正ス

	法官部		現役		予備		後備		合計
合計	一	四	十三		十九	四		八	三十七

備考　二　理事錄事ノ定員ハ前記ノ外第一師團ニ於テハ理事二名錄事四名第四師團ニ於テハ錄事一名ヲ增加シ旅營ニ特ニ理法會議ノ設ケアル師團ニ於テハ理事一名ヲ減ス

旅團司令部條例第七條中「錄事二名」ヲ「錄事三名」ニ改ム

衛戍條例監獄職官表及其備考中「青森金澤」ノ四字ヲ削ル

○

朕東京農林學校及醫駒場農學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百十號（官報十月四日）

東京農林學校及醫駒場農學校本科卒業生ハ高等試驗ヲ要セス共修メタル學科ニ關スル行政官試補ニ同校別科醫速成科醫術易科及醫駒場農學校別科卒業生ハ普通試驗ヲ要セス共修メタル學術ニ關スル判任官見習ニ採用スルコトヲ得

○

朕海軍旗章條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月七日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第百十一號（官報十月八日）

海軍旗章條例

第一條　海軍旗章ノ名稱ハ左ノ如シ

第一　天皇旗
第二　皇后旗
第三　皇太子旗
第四　親王旗
第五　海軍大臣旗
第六　將旗
第七　代將旗
第八　先任旗
第九　軍艦旗
第十　艦首旗
第十一　長旗
第十二　營直旗
第十三　運送船旗
第十四　要招水先旗
第十五　海軍病院旗

海軍旗章ノ制式ハ別圖ノ如シ

第二條　天皇旗ハ

天皇乘御ノ艦船ニ於テ大檣頂ニ掲ク

天皇旗ヲ掲ケタル艦船ニ於テハ區別旗旗（海軍大臣旗將旗代將旗先任旗ヲ云フ以下同シ）及長旗ハ總テ降下ス可シ

天皇乘御ノ端舟ニ於テハ天皇旗ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク

第三條　皇后旗ハ
皇后乘御ノ艦船ニ於テ大檣頂ニ掲ク
皇后旗ヲ掲ケタル艦船ニ於テハ區別旗旒及長旒ハ總テ降下ス可シ
皇后乘御ノ端舟ニ於テハ皇后旗ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク
太皇太后皇太后艦船又ハ端舟ニ乘御ノトキハ前諸項ニ同シ

第四條　皇太子旗ハ
皇太子乘御ノ艦船ニ於テ大檣頂ニ掲ク
皇太子旗ヲ掲ケタル艦船ニ於テハ區別旗旒及長旒ハ總テ降下ス可シ
皇太子乘御ノ端舟ニ於テハ皇太子旗ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク
皇太子妃艦船又ハ端舟ニ乘御ノトキハ前諸項ニ同シ

第五條　親王旗ハ親王乘御ノ艦船ニ於テ大檣頂ニ掲ク又端舟ニ乘御ノトキハ舟首ノ旗竿ニ之ヲ掲ク但親王武官ノ資格ヲ以テ乘艦若クハ乘舟ノトキハ前諸項ニ同シ
內親王及親王妃艦船若クハ端舟ニ乘御ノトキハ前諸項ニ同シ

第六條　海軍大臣旗ハ海軍大臣公務ヲ帶ヒ乘艦シタルトキ大檣頂ニ掲ク又公務ヲ帶ヒ端舟ニ乘ルトキハ之ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク

第七條　將旗ハ司令長官司令官タル將官指揮權ヲ帶ヒ乘艦シタルトキ大將ニ在テハ大檣頂ニ之ヲ掲ケ中將ニ在テハ前檣頂ニ之ヲ掲ケ少將ニ在テハ後檣頂ニ之ヲ掲ク
少將二檣艦ニ乘艦シタルトキハ將旗ヲ前檣頂ニ掲ク
中將二檣以下ノ艦ニ乘艦シタルトキハ將旗風上ノ上隅ニ紅球一箇ヲ附シ少將二檣以下ノ艦ニ乘艦シタルトキハ將旗風上ノ上下隅ニ紅球各一箇ヲ附ス將旗ヲ陸上ノ旗竿ニ掲クルトキモ亦同シ
司令長官司令官タル將官公務ヲ帶ヒ端舟ニ乘ルトキハ將旗ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク但中將及少將ニ在テハ紅球ヲ附スルコト前項ニ同シ

第八條　代將旗ハ司令官タル大佐指揮權ヲ帶ヒ乘艦シタルトキ大檣頂ニ掲ク
司令官タル大佐公務ヲ帶ヒ端舟ニ乘ルトキハ代將旗ヲ舟首ノ旗竿ニ掲ク

第九條　先任旗ハ同港內ニ二艘以上ノ軍艦碇泊シ司令長官司令官不在ノトキ先任艦長之ヲ後檣頂ニ掲ク但二檣艦ニ於テハ前檣頂ニ之ヲ掲ク

第十條　軍艦旗ハ在役艦ニ於テ後檣縱帆架若クハ艦尾ノ旗竿ニ掲ク

第十一條　艦首旗ハ在役艦碇泊中艦首ノ斜檣若クハ艦首ニ掲ク但風雨又ハ操練等ノ節ハ時宜ニ依リ之ヲ掲ケサルコトヲ得

第十二條　長旒ハ在役艦ノ大檣頂ニ掲ク但二檣艦船ニ於テハ後檣頂ニ之ヲ掲ク
長旒ハ海軍所屬運送船ニ於テ船長海軍將校ナルトキモ亦前項ニ依リ之ヲ掲ク
先任旒ヲ除キ他ノ區別旗旒ヲ掲クルトキハ長旒ヲ掲ケサルモノトス
長旒ハ艦船長公務ヲ帶ヒ端舟ニ乘ルトキ又ハ訪問使他ノ艦船ヲ訪問スルトキ舟首ノ旗竿ニ掲ク

第十三條　豫備艦非役艦軍港外ニ在ルトキハ第十條第十一條第十二條ニ依リ軍艦旗艦首旗長旒ヲ掲クルモノトス但軍港內ニ在ルトキ雖モ時宜ニ依リ之ヲ掲クルコトヲ得

第十四條　當直旗ハ當直艦ニ於テ後檣頂ニ掲ク

第十五條　運送船旗ハ海軍所屬運送船又ハ運送ノ用ニ供スル爲メ傭役スル船舶ノ大檣頂ニ掲ク但海軍所屬運送船ニ於テ船長海軍將校ナルトキハ之ヲ掲ケス

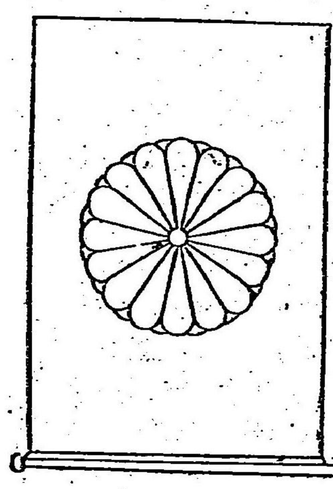
第十六條　要招水先旗ハ海軍艦船ニ於テ水路嚮導者ヲ要招スルトキ前檣頂若クハ他ノ見ヱ易キ所ニ掲クルモノトス但普通信號ヲ以テ水路嚮導者ヲ要招スルトキハ之ヲ掲ケサルモ妨ナシ

第十七條　海軍病院旗ハ戰時若クハ事變ノ際海軍病院若クハ病院船ニ之ヲ掲ク又病院附屬ノ物品ヲ運送スル舟車等ニ之ヲ用ユルコトヲ得

附則

第十八條　軍艦旗ハ明治二十二年十一月三日ヨリ用フ

天皇旗

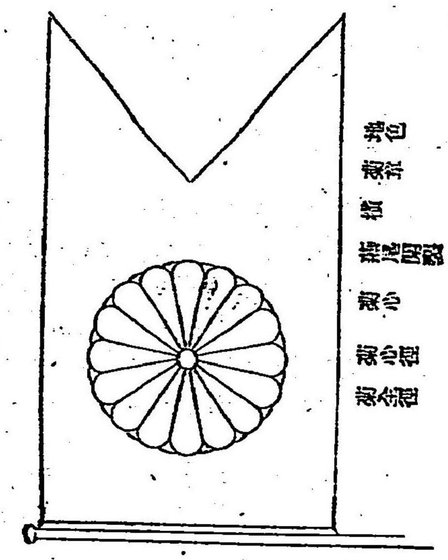


地色　紅
縁飾　金
竿　縦ハ一メートル二分一
縁巾　横面ハ二分
縁巾距　縦ハ十九分一
縁金距　縦ハ三分二

竿頭ハ皇室ニ於テ使用スル旗竿ニ付スル飾ニ倣フ

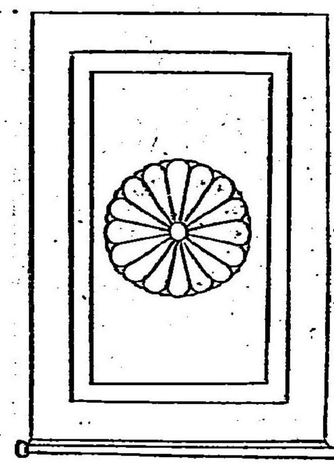
竿頭ハ皇后旗皇太子旗親王旗ニ付テハ別ニ定ム

皇后旗　（皇太后旗皇太后旗共通ノ）



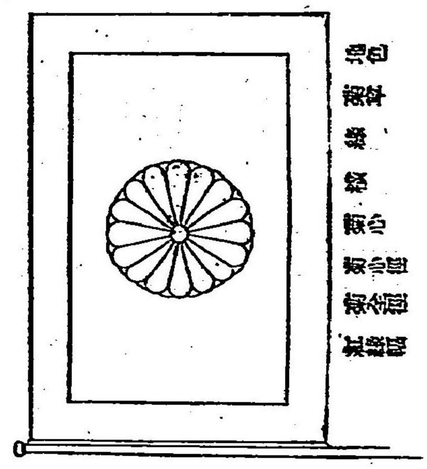
地色　紅
縁飾　金
竿　縦ハ一メートル四分三
竿頭飾　竿頭面ハ三分一上下
縁巾　竿頭面ハ中心ヨリ
縁巾距　縦ハ十九分一
縁金距　縦ハ三分二

皇太子旗　（皇太子妃旗共通ノ）



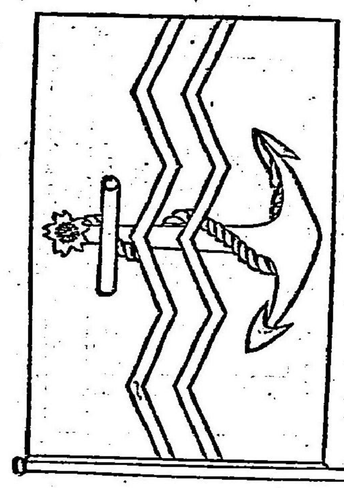
地色　紅
縁飾　金
鉾頭　白
竿　紅
竿　縦ハ一メートル二分一
縁巾　竿面ハ中心
縁巾距　縦ハ二十六分一
縁金距　縦ハ二分一
白鉾距　縦ハ十五分一
紅鉾距　縦ハ十五分二

親王旗　（内親王女王旗共通ノ）



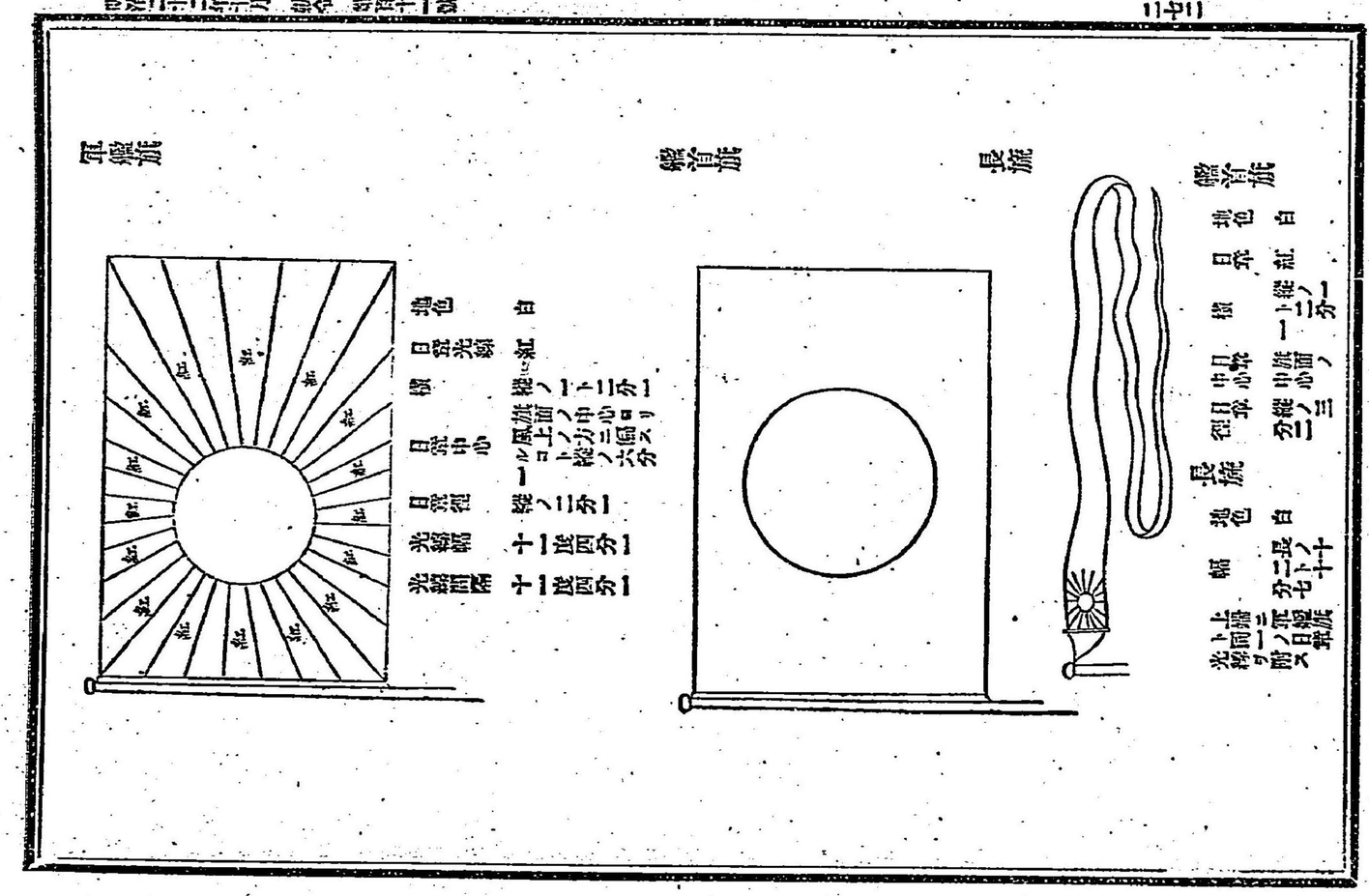
地色　白
縁飾　金
竿　紅
竿　縦ハ一メートル二分一
縁巾　竿面ハ中心
縁巾距　縦ハ二十六分一
縁金距　縦ハ二分一
紅鉾距　縦ハ十五分二

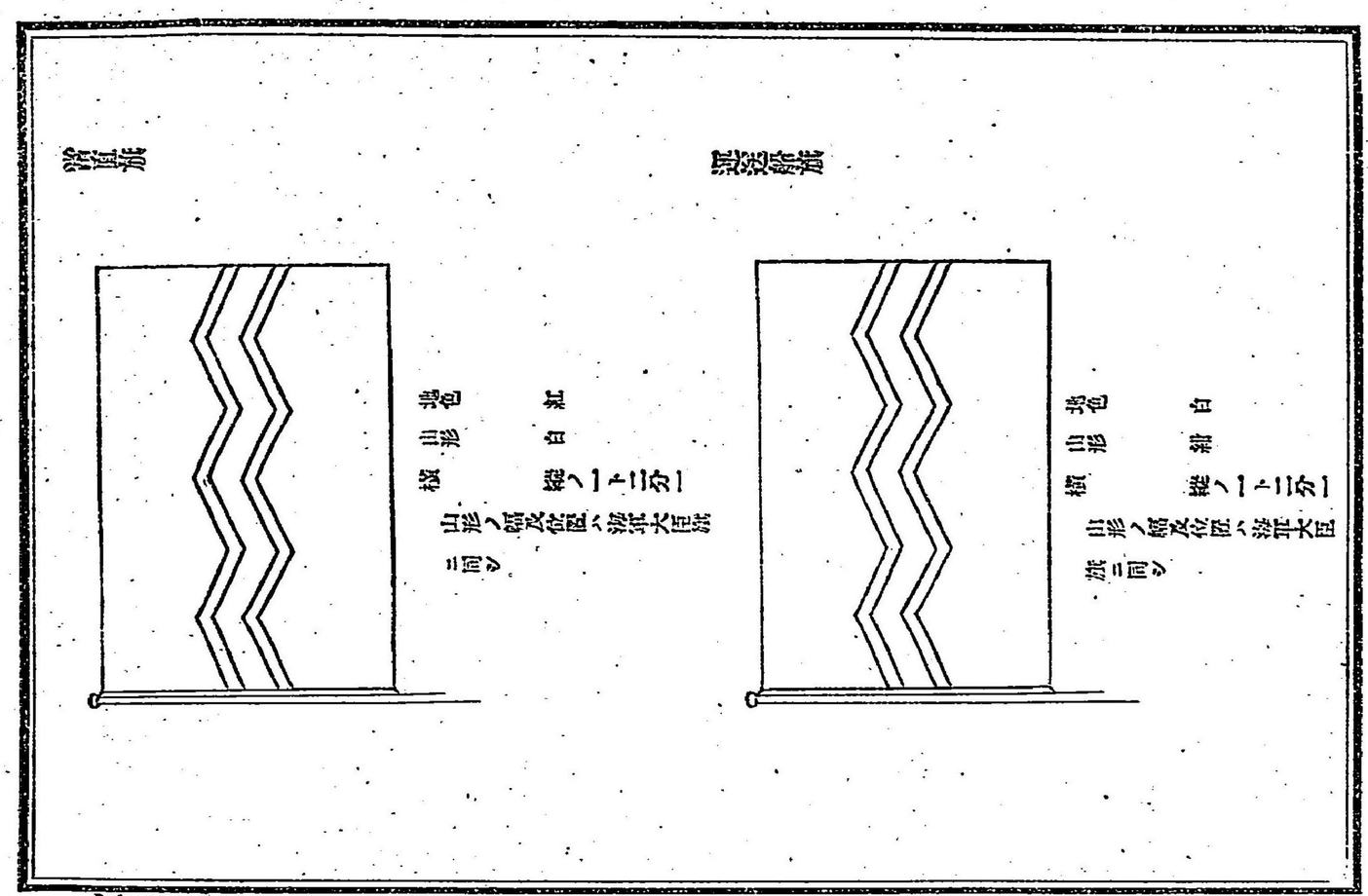
海軍大臣旗



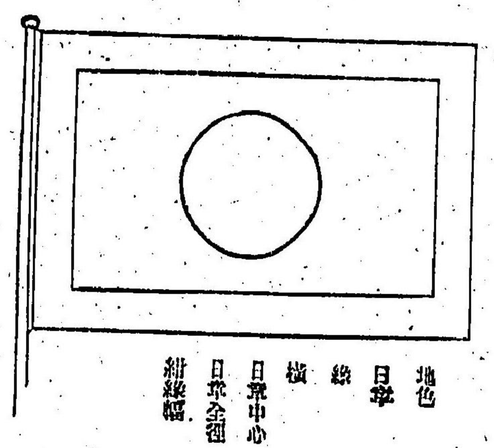
地色　白
日光光線　紅
線　線ヘ一ト二分一
日光中心　縦四ヘ中心
日光廻　線ヘ二分一
光線幅　十一縦四分一
光線四隅　三十二縦四分三
光線數　八線

二線式ヲ以テ縦横ヲ八等分シ縦ヘ四分一ヲ除キ横ヘ四分一ヲ除キ縦ヘ十四分二ヲ除キ横ヘ十四分二ヲ除キ縦ヘ二分一ヲ除キ横ヘ二分一

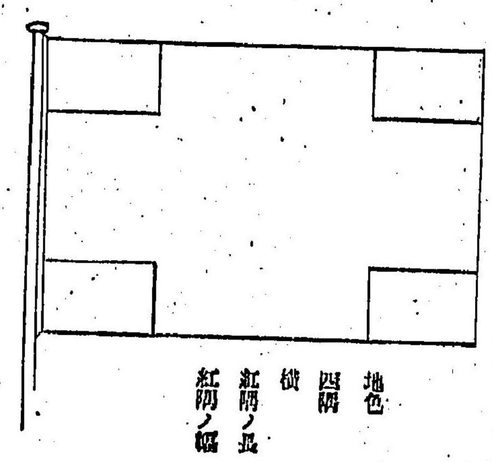

軍艦旗
地色　白
横　日出光線　紅
日出中心　一ノ風旗横ノ上面ニ一トノ横ノ中心ニ六個ノ分スリ
日出径　横ノ三分一
光線幅　十一ノ四分一
光線間隔　十一ノ四分一
艦首旗
長旗
艦尾旗
地色　白
横　日出光線　紅
日出中心　横ノ中心ニ一ノ分一
日出径　横ノ三分一
光線幅　地色　白　長旗ノ十分ノ二
光線間隔　長旗ノ十分ノ二ト一ノ日出径


消防旗
地色　紅
横　山形　白
山形ノ幅及位置ハ海軍大臣ノ定ニ同シ
横　縦　縦ノ一ト二分一
海軍大臣旗
地色　白
横　山形　紅
山形ノ幅及位置ハ海軍大臣ノ定ニ同シ
横　縦　縦ノ一ト二分一

要招水先旗



海軍病院旗



○

朕明治十八年度歳入歳出ノ總決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月七日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆

火藏大臣伯爵松方正義

勅令第百十二號（官報十月九日）

第一條　會計檢査院ノ檢査ヲ經明治十八年度ノ歳入額ヲ六千貳百拾五萬六千八百三十四圓八拾七錢七厘歳出額ヲ六千百拾壹萬五千三百拾三圓貳拾五錢九厘ニ確定ス

第二條　前條歳入歳出ノ差額百四萬千五百貳拾壹圓六拾壹錢八厘ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ同年度ノ歳入ニ編入セシム

明治十八年度歳入歳出總決算

歳入

經常歳入

第一款　租税　金五千貳百五拾八萬千貳百六拾三圓六錢壹厘

第一項　海關税　金貳百八萬五千貳百四拾九圓八拾六錢四厘

第二項　地租　金四千三百三萬三千六百七拾九圓貳拾四錢

第三項　鑛山税　金壹萬八千三百四拾五圓九拾貳錢九厘

第四項　北海道物産税　金五拾五萬四千七百七拾七圓五拾七錢五厘

第五項　酒造税　金百五萬三千四百六拾五圓八錢八厘

第六項　營業稅　金貳萬七千四百拾圓
第七項　烟草稅　金九拾萬五千八拾六圓九拾六錢三厘
第八項　證券印稅　金四拾三萬五千八百四圓七拾貳錢三厘
第九項　郵便稅　金百五拾九萬九千貳百五拾五圓三拾九錢九厘
第十項　訴訟用印紙料　金貳拾七萬三千八百九拾六圓貳拾八錢九厘
第十一項　代言免許料　金七千六百三拾圓
第十二項　船稅　金貳拾三萬八千三百三拾三圓八拾八錢貳厘
第十三項　車稅　金四拾八萬四千貳拾九圓三拾壹錢三厘
第十四項　會社稅　金三拾五萬四千六百貳拾七圓拾五錢五厘
第十五項　銃獵稅　金五萬拾七圓七拾五錢
第十六項　牛馬賣買免許稅　金六萬六千百三拾圓貳拾八錢壹厘
第十七項　賣藥稅　金貳拾八萬貳千百貳拾七圓四拾五錢六厘
第十八項　度量衡稅　金八百六拾八圓九拾五錢三厘
第十九項　醬油稅　金六拾四萬百七拾九圓三拾六錢八厘
第二十項　菓子稅　金四拾三萬七千八百九拾貳圓九拾九錢四厘
第二十一項　版權免許料　金貳千九百八拾七圓拾六錢九厘
第二十二項　商標登錄手數料　金六千七百九拾五圓
第二十三項　專賣免許料　金貳千八百貳拾圓
第二十四項　海外旅券其他免許手數料　金壹萬九千貳百拾五圓四拾八錢
第二十五項　舊稅追納　金六百三拾七圓拾九錢

第二款　作業益金

第一項　大藏省造幣　金貳百貳拾九萬七千六百九拾七圓五拾錢五厘
第二項　大藏省鑛山　金百四拾五萬九千百貳圓三拾四錢四厘
第三項　陸軍省兵器製造　金拾五萬貳千六百八拾六圓九錢五厘
第四項　海軍省造船　金三萬七千七百拾七圓拾八錢七厘
第五項　海軍省石炭　金七萬七千九百五圓八拾三錢九厘
第六項　農商務省製作　金四千四百拾九圓七拾錢七厘
第七項　農商務省造船　金七萬七千五百貳圓六錢六厘
第八項　工部省鑛山　金三千四百六拾四圓三拾九錢八厘
第九項　工部省工作　金貳萬六千百七拾圓五拾貳錢
第十項　工部省採油　金貳千五百四拾圓六拾七錢
第十一項　遞信省電信　金三百圓
第十二項　鐵道局鐵道　金千九百三拾三圓拾壹錢六厘
第十三項　廣島縣鑛山　金四拾五萬三千八百九拾四圓四拾六錢三厘

第三款　減債繰入　金六拾五圓拾錢

第四款　雜收入　金百拾壹萬三千百五拾四圓八拾壹錢三厘

第一項　森林收入　金四拾三萬七千五百六圓貳拾三錢三厘
第二項　官有物貸下料　金貳拾四萬六百九拾六圓六拾錢貳厘
第三項　開市場官地貸下料　金八萬九千七百圓三拾四錢三厘
第四項　雜入　金六萬百六拾壹圓九拾三錢三厘
　　金四萬六千九百四拾七圓三拾五錢五厘

經常歲入合計金五千六百四拾貳萬九千六百貳拾壹圓六拾壹錢貳厘

臨時歲入

第一款　雜收入

第一項　官有物拂下代　金百三拾九萬八千百貳拾四圓貳拾六錢五厘

第二項　雜入　金三拾九萬四千百九拾四圓貳拾八錢五厘

第二款　軍備繰入　金百萬三千九百貳拾九圓九拾八錢

第三款　借入金　金三百六萬六千貳百五圓

臨時歲入合計金五百七拾貳萬七千貳百拾三圓貳拾六錢五厘

歲入總計金六千貳百拾五萬六千八百三拾四圓八拾七錢七厘

歲出

經常歲出

第一款　國債償還　金五百貳拾七萬六千貳拾五圓

第一項　內國債償還　金四百六拾六萬九千四百貳拾五圓

第二項　外國債償還　金六拾萬六千六百圓

第二款　國債利子竝雜費　金八百八拾貳萬五千三百五拾貳圓四拾六錢貳厘

第一項　內國債利子　金八百四拾七萬三百四拾五圓五拾七錢壹厘

第二項　內國債雜費　金壹萬九千五百六拾七圓三拾八錢四厘

第三項　外國債利子　金三拾三萬五千三百八拾五圓三拾六錢六厘

第四項　外國債雜費　金五拾四圓拾四錢壹厘

第三款　帝室費　金百七拾九萬七千貳百四拾六圓

第四款　年金恩給賞祿

第一項　賞勳年金　金三拾三萬四千六百四拾六圓六拾六錢四厘

第二項　文官恩給　金七萬八百六拾八圓四拾六錢七厘

第三項　軍人恩給　金六拾壹圓貳拾五錢

第四項　沖繩縣士族金祿　金拾壹萬八百六拾九圓拾三錢

第五款　一時賜金　金拾五萬貳千八百四拾七圓八拾壹錢七厘

第六款　官省院局費　金六萬五千貳百拾五圓三拾七錢七厘

第一項　內閣　金貳千五拾萬三千四拾六圓六拾錢七厘

第二項　太政官　金拾七萬四千貳百七拾六圓三拾壹錢三厘

第三項　外務省　金三拾三萬九千五百八拾六圓拾貳錢五厘

第四項　內務省　金拾四萬七千九百九拾六圓九拾三錢壹厘

第五項　大藏省　金三拾八萬六千五百三拾六圓三拾九錢貳厘

第六項　陸軍省　金四拾九萬四百拾六圓七拾貳錢貳厘

第七項　海軍省　金九百六拾萬六千貳百三拾七圓四拾貳錢

第八項　文部省　金貳百六拾三萬四千六百五拾七圓九拾三錢五厘

第九項　農商務省　金六拾九萬五千九百九拾六圓貳拾貳錢壹厘

第十項　工部省　金五拾五萬三千三百四拾壹圓五錢五厘

第十一項　司法省　金貳拾貳萬三千八百六拾貳圓八拾三錢五厘

第十二項　遞信省　金百六拾七萬三千七百三圓九拾壹錢九厘

金百九拾萬六千五百四拾圓六錢壹厘

第十三項　元老院　金貳拾壹萬千三拾五圓三拾七錢六厘
第十四項　會計檢査院　金六萬八千四百六拾五圓五拾四錢五厘
第十五項　在外公館　金四拾六萬貳百五拾圓
第十六項　主税局　金五拾五萬五千五百拾四圓八錢九厘
第十七項　鐵道局　金四千九百拾三圓四拾錢六厘
第十八項　工部大學校　金貳萬三千百七拾六圓七拾七錢九厘
第十九項　北海道事業管理局　金三拾四萬六千五百三拾九圓四拾八錢三厘

第七款　營繕土木費　金百八拾壹萬六千百七拾貳圓拾錢五厘
第一項　營繕　金八萬貳千貳百貳拾貳圓七拾八錢貳厘
第二項　土木　金百七拾三萬三千九百四拾九圓三拾貳錢三厘

第八款　廳府縣費　金三百九拾貳萬五千四百四拾八圓七錢九厘
第九款　府縣徵税費　金百四拾五萬三百七拾八圓五拾八錢
第十款　警察費　金百九拾萬貳千百八拾六圓四錢八厘
第一項　警視廳　金貳拾九萬三千八百三拾九圓拾三錢九厘
第二項　三府各縣　金百六拾萬八千三百四拾六圓九拾錢九厘

第十一款　集治監　金四拾貳萬五千四百七拾七圓六拾九錢六厘
第一項　東京集治監　金七萬九千九百九拾四圓七拾七錢四厘
第二項　宮城集治監　金六萬七千七百拾貳圓六拾八錢壹厘
第三項　三池集治監　金三萬七千九百六拾七圓四拾壹錢七厘
第四項　樺戸集治監　金九萬六千百六拾八圓三錢七厘

第五項　空知集治監　金九萬三千百七圓九拾六錢四厘
第六項　釧路集治監　金八千九百拾六圓貳拾四錢三厘
第七項　兵庫假留監　金貳萬三千五百五拾壹圓三拾六錢九厘
第八項　在府縣獄囚徒費　金壹萬八千五拾九圓貳拾壹錢壹厘

第十二款　神社費　金拾貳萬七千五百八拾貳圓九拾貳錢九厘
第十三款　備荒儲蓄　金九拾萬圓
第十四款　雜支出　金貳拾九萬四千貳百五拾九圓拾九錢九厘
第一項　皇城周圍修繕費　金八拾貳圓七拾五錢
第二項　勳章賞牌及賜金費　金貳萬千五百八拾五圓八拾四錢七厘
第三項　雜出　金貳拾七萬貳千五百九拾圓六拾錢貳厘

經常歲出合計金四千七百六拾四萬三千三拾六圓七拾四錢六厘

臨時歲出

第一款　興業費　金三拾六萬百六拾七圓四拾七錢七厘
第一項　大藏省鑛山　金四萬三千四百八圓九拾三錢壹厘
第二項　陸軍省砲兵工廠　金四萬八千百七圓
第三項　海軍省造船　金貳拾四萬貳千百貳拾五圓八拾八錢五厘
第四項　農商務省造船　金四千貳百九拾九圓九拾七錢五厘
第五項　遞信省電信　金貳萬貳千貳百貳拾五圓六拾八錢六厘

第二款　鐵道建設費　金壹萬貳千七百圓

第一項　東京横濱間　金壹萬貳千七百圓
第三款　朝鮮事件費　金六千九百五拾五圓四錢四厘
第四款　雜支出　金七百六拾九萬貳千四百五拾三圓九拾九錢貳厘
第一項　假皇居御造營費　金五拾萬圓
第二項　軍艦製造費　金貳百四拾壹萬七千六百七拾八圓貳拾四錢
第三項　砲臺建築費　金四拾八萬六千三拾三圓七拾八錢七厘
第四項　神宮式年御造營費　金九千六百八拾五圓拾六錢貳厘
第五項　紙幣改造費　金壹萬九千七百八拾八圓三拾七錢四厘
第六項　金札引換無記名公債證書製造費　金千百九拾貳圓八拾八錢
第七項　貨幣鑄造基金　金百貳拾五萬三千四百七圓拾錢
第八項　西南從軍士一時賜金　金壹萬千八百圓
第九項　日本鐵道會社補助金　金七萬貳千四百貳拾壹圓拾七錢八厘
第十項　陸軍省砲兵工廠營業資本　金三萬七千七百拾七圓拾八錢七厘
第十一項　海軍省造船營業資本　金三萬九千六百六拾八圓五拾貳錢八厘
第十二項　農商務省千住製絨所營業資本　金六萬九千貳百四拾六圓六拾錢四厘
第十三項　舊工部省殘務費　金八千貳百九拾七圓四拾五錢九厘
第十四項　雜出　金貳百七拾六萬五千五百拾七圓四拾九錢三厘
第五款　紙幣銷却元資繰入　金五百四拾萬圓
臨時歲出合計金千三百四拾七萬貳千貳百七拾六圓五拾壹錢三厘
歲出總計金六千百拾壹萬五千三百拾三圓貳拾五錢九厘

○

朕臨時帝國議會事務局設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勅令第百十三號（官報十月十四日）

内閣ニ臨時帝國議會事務局ヲ置キ帝國議會開會ニ係ル事務ヲ掌ラシム職員左ノ如シ

總裁　一人　勅任
書記官　十人　奏任
試補
屬　判任

○

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十月三十日

内閣總理大臣公爵三條實美
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百十四號（官報十月三十一日）

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年十一月十五日ヨリ該規則

ヲ施行ス

一 伊勢國四日市
一 豐前國門司
一 肥前國唐津
一 肥後國三角
一 越中國伏木

○

朕西洋形船海員雇入雇止手數料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月一日

内閣總理大臣公爵三條實美
内務大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第百十五號（官報十一月二日）

西洋形船海員雇入雇止規則ニ依リ雇者被雇者ヨリ徵收スル手數料ハ明治二十二年一月勅令第一號ヲ以テ指定シタル島嶼ニ在テハ東京府管轄小笠原島伊豆七島ヲ除クノ外其町村ノ收入トス

○

朕第三回内國勸業博覽會事務局官制中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月六日

内閣總理大臣公爵三條實美

勅令第百十六號（官報十一月七日）

明治二十年十二月勅令第八十號第三回内國勸業博覽會事務局官制第三條中審査官ハノ下及第七條發
任官ノ上ニ「勅任官」ノ三字ヲ追加ス

○

朕陸軍戸山學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月十五日

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百十七號（官報十一月十六日）

陸軍戸山學校條例中左ノ通改正削除ス

第五條　削除以下各條繰上ク

第十三條　「中尉」ヲ「士官」ニ改メ「大尉及」ノ三字ヲ削ル

第十四條　「中少尉」ヲ「士官」ニ改ム

第十七條ヲ左ノ如ク改ム

戰術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概ネ九月ニ始マリ三月若クハ四月ニ終ル

射擊科學生ノ學期ハ一年一回トシ概ネ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル

體操科學生ノ學期ハ一年二回トシ其第一回ハ概ネ九月ニ始マリ一月ニ終リ其第二回ハ概ネ二月ニ始マリ六月ニ終ル但劍術學生ノ學期ハ一年一回ニシテ概ネ九月ニ始マリ六月ニ終ル

第二十四條　削除以下各條繰上ク

第二十五條ヲ左ノ如ク改ム

學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニアリテハ科目列序ヲ定メ都督、師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス但成績優等ノ者ハ別ニ褒賞ヲ與ルコトアルヘシ

校長ハ更ニ學生修學ノ成績ヲ監軍ニ報告シ且ツ下士ニアリテハ某學術修學ノ証ヲ附與ス

第二十八條第二十九條「服役」ヲ「現役」ニ改ム

○

朕陸軍懲罰令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月十五日

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百十八號（官報十一月十六日）

陸軍懲罰令第四條中「陸軍大學校長」ノ下ニ「砲工學校長」ノ五字及ヒ「幼年學校長」ノ下ニ「要塞砲兵幹部練習所長」ノ十字ヲ加ヘ「軍醫學舍長」トアルヲ「軍醫學校長」ト改ム

○

朕參謀職制中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月十八日

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百十九號（官報十一月十九日）

參謀職制參謀官定員表備考第一項中左ノ通追加ス

「各國公使館附將校」ノ下「東宮武官佐尉官各一名」ノ十字ヲ加フ

○

朕茲ニ海軍生徒手當金規則ヲ裁可ス

御名御璽

明治二十二年十一月十九日

内閣總理大臣公爵三條實美

海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第百二十號（官報十一月二十日）

海軍生徒手當金規則

第一條　海軍兵學校生徒ニハ一日貳拾錢ノ手當金ヲ給シ海軍軍醫學校及主計學校生徒ニハ一日拾八錢ノ手當金ヲ給ス

第二條　手當金ハ被服其他日用物品ノ費用ニ充ツルモノトス

第三條　傷痍疾病ニ罹リ病院ニ入ル者若クハ昇校セサル者ニハ手當金十分ノ一ヲ給ス

第四條　處刑前留置收禁拘留逃亡若クハ遞傳護送中ノ者其他事故ヲ以テ在校セス若クハ昇校セサル者ニハ手當金ヲ給セス

第五條　品行不正課業怠惰又ハ試驗成績不良ニ因リ生徒ヲ免レタル者ハ既ニ給與シタル手當金ヲ償還セシム

第六條　海軍兵學校生徒ヲ命シタルトキハ一度限リ被服費トシテ四拾五圓ヲ給ス

第七條　海軍兵學校生徒天災其他避ク可カラサル場合ニ於テ被服ヲ亡失シタルトキハ四拾五圓ヲ

最上限トシ被服費ヲ給ス

第八條　本則ハ明治二十二年十二月一日ヨリ施行ス

○

朕旅費其外概算渡前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十一月二十日

内閣總理大臣公爵三條實美

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十一號（官報十一月二十一日）

第一條　内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第二條　外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及諸手當ハ給額半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

第三條　地方税ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費運帶支辨金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第四條　本令ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

朕警察官及消防官帶劒ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二日

内閣總理大臣公爵三條實美

内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第百二十二號（官報十二月三日）

警察官及消防官帶劒ノ制左ノ通定ム

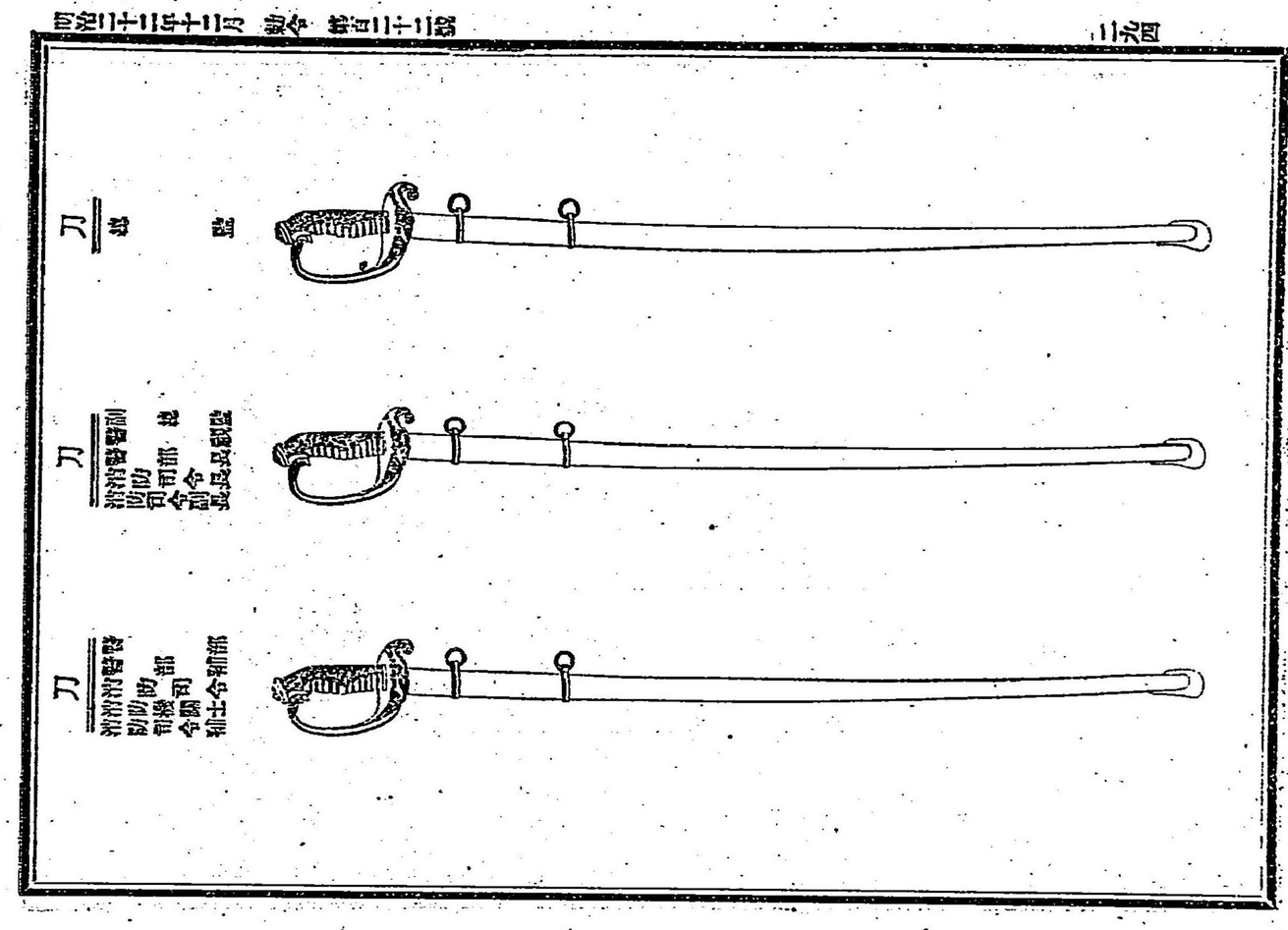
但明治二十四年一月迄ハ從來用フル所ノ刀劒ヲ佩用スルコトヲ得

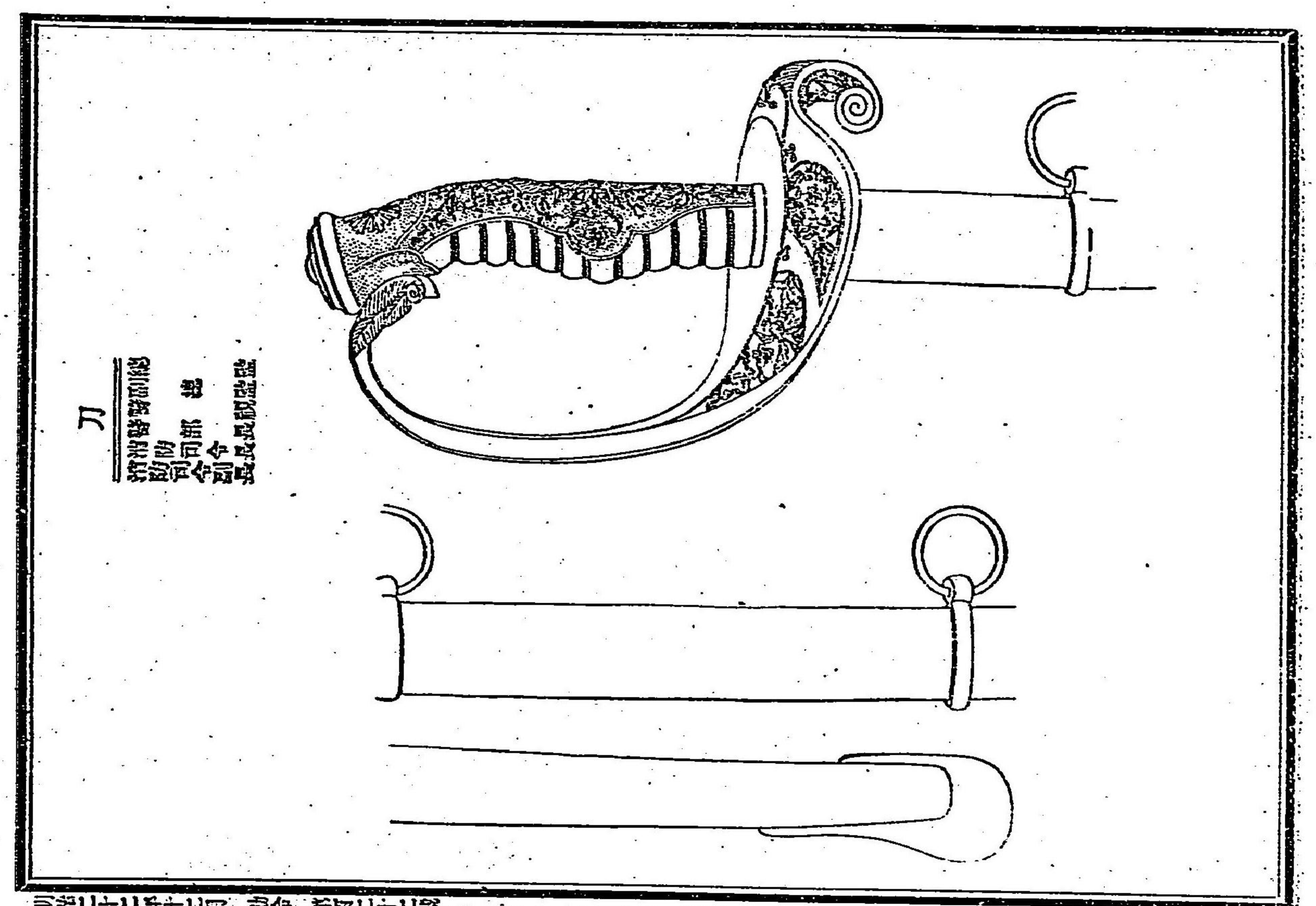
劒制圖例

名稱	中身	鍔	柄	鞘	形狀
刀					
副警視總監 警視總監 消防司令長 消防司令副長	鐵	金色櫻唐草	鮫皮ニ金糸三條背面ヲ覆フタル金具ハ金色地ハ石目櫻唐草ヲ附ク	鐵	如圖
同		同	同	同	同

名稱	品質	前金具	製式
短劍			
警部補 消防司令 消防機關士 消防司令補	同	同	同
消防司令長 消防司令副長 消防司令 消防機關士 消防司令補	同	同	同
消防機關士 消防司令 消防司令副長	同	白鞣 綿刀ニ同シ	同
刀帶			
總監 副總監 警視 警部 消防司令長 消防司令副長	表 黑鞣調革 裏 藍革	金色徑一寸三分五厘中央日章ヲ置キ其周圍ハ櫻花章トス	長サ凡ソ三尺五寸幅一寸鈎革長サ第一ノ分八寸第二ノ分二尺二寸ニシテ幅七分其下端菊子鋲ヲ附ス締メ輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス其他金具總テ金色トス
警部 消防司令 消防機關士 消防司令補	同	同	同上 但菊子鋲ヲ付セス
短劍帶			
消防司令長 消防司令副長 消防司令 消防機關士 消防司令補	同	同	同上 但長適宜鈎革六寸五分

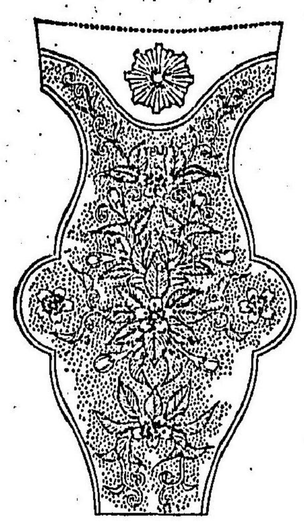
名稱	總	緒	形狀
正緒			
總監	金線 長サ帶共二寸五分 圓徑中央ニテ一寸	金線丸打徑一分五厘 長サ三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス 緒締 金線幅三分五厘圓徑四分五厘	如圖
副總監 警視 警部 消防司令長 消防司令副長	金線 長サ二寸五分 圓徑中央ニテ九分	同	同
警部補 消防司令 消防機關士 消防司令補	銀線 長サ一寸三分 圓徑中央ニテ八分	銀線同上 同上 緒締銀線 同上	同
常緒			
總監	黑絹絲 長サ帶共一寸三分 圓徑中央ニテ八分	黑絹絲 製式ハ各其正緒ノ例ニ同シ	同
副總監 警視 警部 消防司令長 消防司令副長	同	同	同
警部補 消防司令 消防機關士 消防司令補	同	同	同


刀
將官用
刀
將官用
刀
將官用


刀
將官用

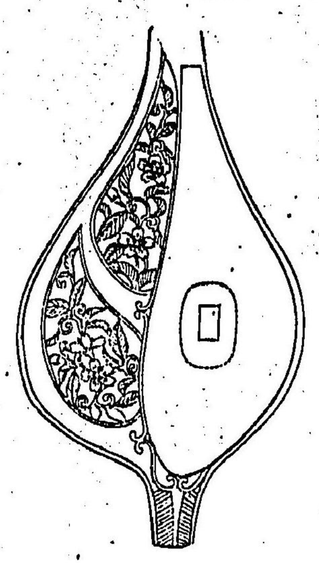
柄

総監　総監副監　総監副監
司令部長　司令部長　司令部長
防司令副長　防司令副長　防司令副長
消防司令副長　消防司令副長　消防司令副長



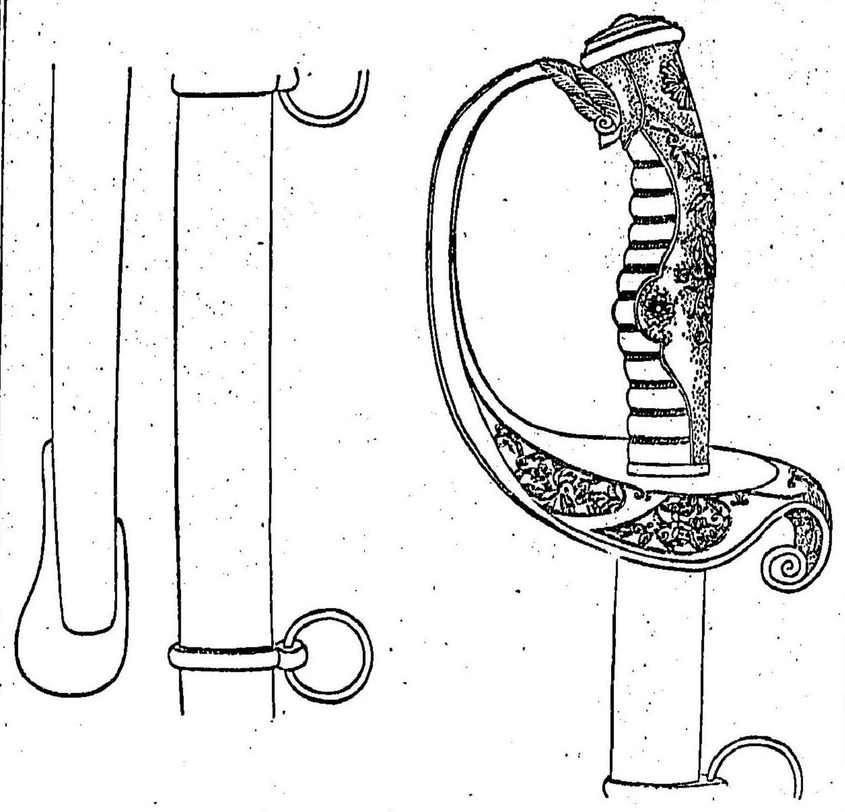
鍔

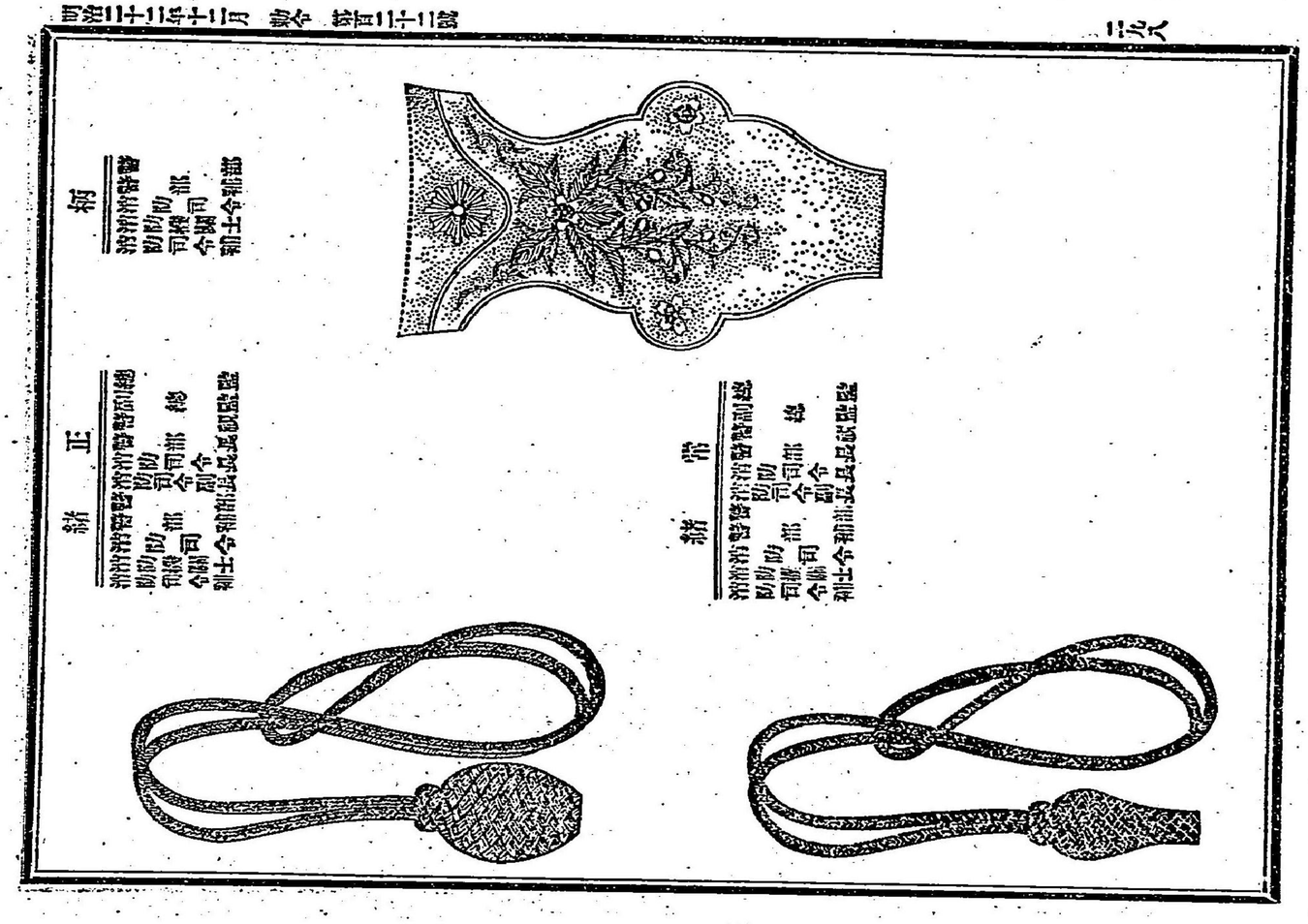
総監　総監副監　総監副監
司令部長　司令部長　司令部長
防司令副長　防司令副長　防司令副長
消防司令副長　消防司令副長　消防司令副長



刀

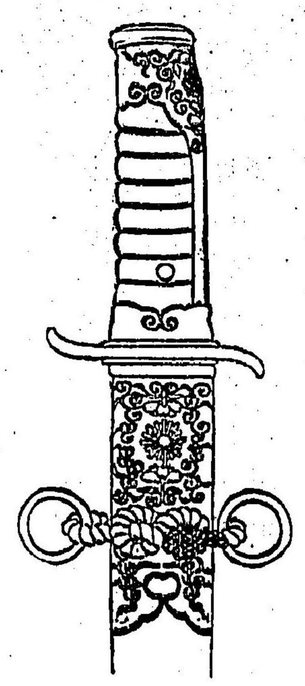
部司令副長　部司令副長　部司令副長
消防司令副長　消防司令副長　消防司令副長




新正
將將將

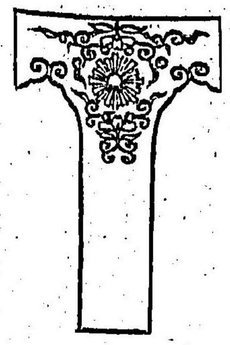
短劍

消防司令長
消防司令副長



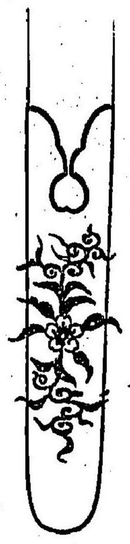
柄

消防司令長
消防司令副長



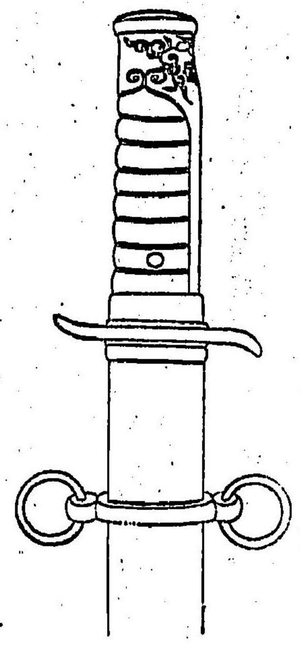
鐺

消防司令長
消防司令副長



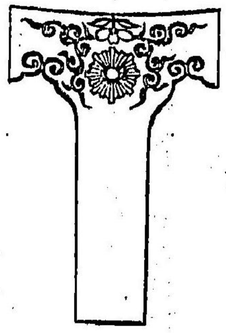
短劍

消防司令
消防機關士
消防司令補



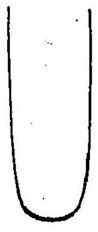
柄

消防司令
消防機關士
消防司令補



鐺

消防司令
消防機關士
消防司令補



○

陸軍乘馬飼裝條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月三日

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第百二十三號（官報十二月四日）

陸軍乘馬飼養條例中左ノ通改正ス

第一條中

七　歩兵隊及屯田兵隊副官

八　近衛師團工兵隊附尉官及教導團工兵中隊長

九　士官學校幼年學校戸山學校砲工學校憲兵司令部陸地測量部副官及屯田兵副官タル尉官

十二　東宮武官タル尉官

第二條中

三　參謀佐官各兵監タル佐官歩兵砲兵聯隊長歩兵騎兵砲兵輜重兵大隊長騎兵隊附尉官乘馬學校長砲兵射的學校長及乘馬學校教官タル佐尉官　二頭

○

朕交際官並領事費用條例中改正ノ件ヲ裁可ス

御名御璽

明治二十二年十二月三日

内閣總理大臣公爵三條實美

勅令第百二十四號（官報十二月四日）

明治十九年七月勅令第四十九號交際官並領事費用條例第一號公使領事以下官員年俸表中領事代理年俸左ノ通改正ス

領事代理上級	六百圓	五百七拾五圓	三千四百圓	二千九百圓	二千五百圓	三千四百圓	二千九百圓	二千五百圓
領事代理中級	五百五拾圓	五百二拾五圓	三千六百圓	二千七百圓	二千三百圓	三千六百圓	二千七百圓	二千三百圓
領事代理下級	五百圓	四百七拾五圓	三千圓	二千五百圓	二千百圓	三千圓	二千五百圓	二千百圓

○

朕陸海軍將校分限令中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月十一日

内閣總理大臣公爵三條實美

陸軍大臣伯爵大山巌

海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第百二十五號（官報十二月十二日）

陸海軍將校分限令第五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

第五　貴族院令第四條ニ依リ貴族院議員ト爲リタルトキ

○

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月十一日

内閣總理大臣公爵三條實美
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第百二十六號（官報十二月十二日）

金庫規則

第一條　金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス

第二條　金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一　中央金庫
第二　本金庫
第三　支金庫

第三條　東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳（東京府ヲ除ク）及北海道札幌函館根室ニ本金庫ヲ置ク
大藏大臣ハ右ノ外必要ト認ル場所ニ支金庫ヲ設置スヘシ

第四條　金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條　中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ所屬ノ支金庫ヲ總轄ス
但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ總轄ス

第六條　中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

第七條　日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置スヘシ

第八條　日本銀行ノ支店長又ハ日本銀行ノ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分掌スヘシ

但代理店ノ支店ニ於テ金庫ノ事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委囑スヘシ

第九條　日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條　大藏大臣ハ檢査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ檢査スルコトヲ得
此場合ニ於テハ日本銀行本支店代理店メル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ檢査スルコトアルヘシ

第十一條　日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有スル所ニ依ル

第十二條　金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ檢査規程ハ大藏大臣ノ定ム

第十三條　本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○

陸軍重症病馬治療所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巌

御名御璽

明治二十二年十二月十七日

勅令第百二十七號（官報十二月十八日）

陸軍重症病馬治療所官制中左ノ通改正ス

第一條　陸軍重症病馬治療所ハ之ヲ東京ニ置キ府下陸軍部内ノ重症病馬ヲ治療シ及ヒ獸醫學術ニ關スル事項ヲ研究實驗スル所トス

第三條　所長ハ一等獸醫ノ内本職アル者ヨリ兼補シ陸軍省總務局獸醫課長ノ管理ニ屬シ所務ヲ整

理ス

○

朕陸軍衛生部現役士官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十日

内閣總理大臣公爵三條實美

陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百二十八號（官報十二月二十一日）

陸軍衛生部現役士官補充條例中左ノ通改正ス

第一條　衛生部現役士官ノ補充ハ左ノ二項ニ據ル

一　醫科大學ノ學生中陸軍出身志願ニシテ才學適當ノ者ヲ選ンテ醫官候補生或ハ藥劑官候補生トナシ陸軍軍醫學校ニ入レ醫科大學ニ通學セシメ卒業ノ上三箇月以上衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシメ衛生部士官選擧會議ニ於テ可決シタル者

二　一年志願兵中醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀及醫科大學若クハ高等中學校醫學部卒業證書ヲ所持シ入隊後六箇月以上軍事上ノ教育ヲ受ケタル者ニシテ志願ニ依リ醫官候補生或ハ藥劑官候補生ヲ命セラレ三箇月以上衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシメ衛生部士官選擧會議ニ於テ可決シタル者

第二條中「考科表」ヲ「履歴書」ト改ム

第三條　衛生部士官候補生ハ志願兵トシテ常備兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム且被服ハ衛生部下士ト同一トナシ袖章側章及定色ノ徽章ヲ除キ袖口ニ鈕ヲ付ス

學資及被服裝具等ハ總テ之ヲ官給ス

衛生部士官候補生中醫科大學學生出身ノ者ハ其候補生ヲ命シタル日直チニ三等看護長又ハ三等調劑手ノ階級ニ進メ本官等ノ上位ニ在ルモノトス

第四條中「衛生部現役」ヲ「第二條ノ」ト改ム

第六條　第二條ノ士官候補生醫科大學ノ修學ヲ卒業シタルトキハ陸軍軍醫學校長其人名書ニ考科表ヲ添ヘ陸軍省醫務局長ニ上申シ醫務局長ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得都督師團長ヲ經テ之ヲ部隊ニ配布シ其部隊ニ在テ衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシム

第七條　一年志願兵ニシテ衛生部士官候補生タランコトヲ志願スル者ハ入隊後三箇月ニ至リ願書ニ履歴書及醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀並卒業證書ノ寫ヲ添ヘ所屬部隊長ニ出シ部隊長ハ本人ノ性質、品行等ヲ調査シテ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ志願者ヘ卒業證書ヲ附與シタル醫科大學長若クハ高等中學校長ニ照會シ學科成績、性質、品行等ニ係ル證明書ヲ得之ヲ該書類ニ添ヘ陸軍省醫務局長ニ上申シ醫務局長ハ之ヲ審査シテ陸軍大臣ニ進達ス陸軍大臣ハ其書類ニ依リ衛生部士官候補生ニ採用スヘキ者ヲ決定シ醫務局長ヲシテ之ニ其候補生ヲ命セシメタル上都督師團長ヲ經テ之ヲ部隊ニ配布セシメ其部隊ニ在テ衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシム

一年志願兵ニシテ衛生部士官候補生ヲ命シタル者ハ其日ヨリ退營セシメ更ニ原隊又ハ他ノ部隊ニ配布セシム

一年志願兵ヨリ衛生部士官候補生ニ採用スヘキ人員ハ毎年二月陸軍省醫務局長之ヲ定メ都督師團長ニ移牒ス

第八條　衛生部士官候補生ヲ部隊ニ配布セシ者ハ一等看護長又ハ一等調劑手ノ階級ニ進メシム其位置ハ一等看護長又ハ一等調劑手ノ上位トス之ヲ見習醫官又ハ見習藥劑官ト云フ

衛生部士官候補生ヲ部隊ニ配布スルハ近衛及師團司令部所在地ニ於テシ醫官候補生ハ各隊ニ藥劑官候補生ハ衛戍病院ニ勤務セシム但定員外トス

第九條　見習醫官見習藥劑官ニハ學資ヲ給セス劒刺繻帶革、脚絆ハ衛生部士官ト同一ノモノヲ給ス

見習醫官見習藥劑官ハ營外ニ居住セシメ士官以上ノ公會ニ於テハ之ニ列席セシムルコトヲ要ス

第十條　衛生部士官候補生ハ陸軍軍醫學校長ノ管理ニ屬ス故ニ部隊ニ配布スルモノト雖モ諸給與ハ陸軍軍醫學校ヨリ所屬部隊ヲ經テ之ヲ給ス

陸軍省醫務局長ハ候補生ヲ部隊ニ配布シメルトキハ其部隊號ト人名トヲ書シテ之ヲ陸軍軍醫學校長ニ下付スヘシ

○

朕陸軍軍醫學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十日

內閣總理大臣公爵三條實美
陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第百二十九號（官報十二月二十一日）

陸軍軍醫學校條例第三條左ノ通改正ス

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　軍醫監　一人
教官　一等軍醫正若クハ二等軍醫正　三人

一等軍醫　二人
監事　一人（教官ヨリ兼任セシム）
教官ハ定員ノ外衛生部士官以上ニシテ本職ヲ兼ルモノヨリ兼職セシムルコトヲ得

○

朕近衛練習艦條例ヲ廢シ高等水兵練習艦條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十一日

內閣總理大臣公爵三條實美
海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第百三十號（官報十二月二十三日）

高等水兵練習艦條例

第一條　高等水兵練習艦ハ横須賀鎭守府ニ屬シ兵曹ト爲ルヘキ水兵ヲ教育スル所トス

第二條　高等水兵練習艦ニ於テ教育スル水兵ヲ高等水兵練習艦練習生ト稱ス

練習生ハ員外乘員トス

練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第三條　高等水兵練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官　大尉　本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第四條　艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第五條　副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

第六條　教官ハ各科ノ教授及試驗ノ事ヲ掌ル

○

朕砲術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十一日

内閣總理大臣公爵三條實美

海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第百三十一號（官報十二月二十三日）

砲術練習艦條例

第一條　砲術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官上等兵曹商船學校生徒ニ砲術ヲ教授シ掌砲兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス

第二條　砲術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

砲術練習生ハ高等水兵練習艦卒業者及掌水雷兵ヨリ採用ス

第三條　砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ハ員外乘員トス

砲術ノ教授ヲ受クル尉官上等兵曹及砲術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第四條　砲術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官　大尉

本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第五條　艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第六條　副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

第七條　教官ハ砲術教授及試驗ノ事ヲ掌ル

○

朕水雷術練習艦條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十一日

内閣總理大臣公爵三條實美

海軍大臣伯爵西郷從道

勅令第百三十二號（官報十二月二十三日）

水雷術練習艦條例

第一條　水雷術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ尉官機關士上等兵曹ニ水雷術ヲ教授シ掌水雷兵ト爲ルヘキ兵曹水兵ヲ教育スル所トス

第二條　水雷術練習艦ニ於テ教育スル兵曹水兵ヲ水雷術練習生ト稱ス

水雷術練習生ハ高等水兵練習艦卒業者及掌砲兵ヨリ採用ス

第三條　水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ハ員外乘員トス

水雷術ノ教授ヲ受クル尉官機關士上等兵曹及水雷術練習生ノ人員ハ海軍大臣毎年之ヲ定ム

第四條　水雷術練習艦ニ軍艦條例第十條ニ掲クル職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教官　大尉

本艦在職ノ者ヲ以テ兼補ス

第五條　艦長ハ軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ軍艦條例第十一條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ統理スルコトヲ掌ル

第六條　副長ハ軍艦條例第十三條ニ掲クルモノヽ外教務ヲ整理スルコトヲ掌ル

第七條　教官ハ水雷術教授及試驗ノ事ヲ掌ル

○

朕傷痍恩給ヲ受ケ文官ニ任シタル者恩給支給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十三日

内閣總理大臣公爵三條實美
大蔵大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百三十三號（官報十二月二十四日）

明治九年十月太政官第九十九號達陸軍恩給令ニ依リ傷痍恩給ヲ受ケタル後文官ニ任シタル者其文官奉職ノ年數ニ依リ恩給ヲ增加スル場合ニ於テハ明治十六年九月太政官第三十七號達陸軍恩給令ニ依リ前ニ受ケタル恩給金額ヲ更正スヘシ

前項恩給ノ增加ハ武官現役年數ト文官奉職年數トヲ通算シテ十五年以上ニ至ル者ニ限ル

前項ニ依リ文官恩給ヲ受ケタル者ノ遺族ニシテ明治十六年九月太政官第三十七號達陸軍恩給令第二十四條第二十六條第二十九條ニ該ル者ハ武官恩給令ニ依リ扶助料ヲ受クルコトヲ得

○

朕海軍懲罰令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十三日

内閣總理大臣公爵三條實美
海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第百三十四號（官報十二月二十四日）

海軍懲罰令

第一條　本令ハ軍人ノ故意疎虞懈怠過失等ノ所爲ニシテ刑法ニ該ラサル者及ヒ素行修マラス軍人ノ體面ヲ汚ス者ヲ懲戒スルノ罰典トス但他ノ法律規則ニ依テ論ス可キ者ハ各其法律規則ニ從フ

第二條　司令官ト稱スルハ鎭守府司令長官軍港司令官要港司令官艦隊司令長官艦隊司令官ヲ謂フ

第三條　艦團隊長ト稱スルハ海軍全般ノ艦船團隊ノ長ヲ謂フ

第四條　各廳長ト稱スルハ海軍大臣ニ直屬スル各廳ノ長司令官ニ直屬スル參謀長部長及ヒ其他ノ長ヲ謂フ

第五條　所轄長ト稱スルハ各廳長ニ屬スル校部所及ヒ監獄等ノ長ヲ謂フ

第六條　司令官艦團隊長及ヒ各廳長ハ部下軍人ノ本令ヲ犯シタル者ヲ處分ス

第七條　艦團隊副長及ヒ所轄長ハ部下ノ准士官十日以內ノ謹愼下士二十日以內ノ禁足卒三十日以內ノ禁足ニ該ル者ヲ處分ス

分隊長及ヒ分隊長ニ同シキ職權ヲ有スル者ハ部下ノ下士十日以內ノ禁足卒二十日以內ノ禁足ニ該ル者ヲ處分ス

第八條　懲罰權ノ全部ヲ有セサル各官部下軍人ノ犯行權限外ノ日數ニ該ルト認ムルトキハ意見ヲ附シテ上官ニ具申シ其處分ヲ請フ可シ

第九條　軍隊本令ヲ犯シタルトキハ軍人ト同シク處分ス海軍所屬ノ生徒乘艦中本令ヲ犯シタルト

キ亦同シ但奏任官ハ將校ト同シク處分シ判任官一等ハ准士官ト同シク處分シ判任官二等以下及ヒ生徒ハ下士ト同シク處分シ其他ハ卒ト同シク處分ス

第十條　罰目左ノ如シ

一　謹慎

二　禁足

謹慎ハ准士官以上ニ科スル罰トシ禁足ハ下士以下ニ科スル罰トス

第十一條　謹慎ハ居宅又ハ艦團隊校內ニ於テス

居宅ニ於テスル者ハ他出及ヒ外人ト接見通信スルヲ禁ス但疾病アレハ醫ヲ延クコトヲ得

艦團隊校內ニ於テスル者ハ外出及ヒ他人ト會集通信スルヲ禁ス

謹慎ハ一日以上三十日以下トス

第十二條　禁足ハ勤務及ヒ演習ノ外艦團隊校若クハ居宅ヲ出ツルコトヲ禁ス

禁足ハ一日以上三十日以下トス

第十三條　軍中合圖ノ地若クハ艦團隊校內ニ在テハ謹慎ニ處セラレタル者ヲシテ勤務ニ服セシムルコトヲ得其勤務日數ハ謹慎日數ニ算入ス

第十一條ノ規則ハ前項ノ場合ニ於テ亦之ヲ適用ス但其勤務ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十四條　犯行二個以上俱ニ發スルトキハ各其罰ヲ科ス但一所爲二個以上ノ犯行ニ關ルヽトキハ其一ヲ科ス

第十五條　本令ニ依リ處分シタル軍屬ノ犯行ハ官吏服務規律ニ關ルヽモ懲戒處分ヲ爲スコトナシ

第十六條　甲所ニ於テ本令ヲ犯シ未タ處分ヲ受スシテ乙所ニ轉シタル者ハ乙所ニ於テ之ヲ處分ス

第十七條　本令ヲ犯シタル者未タ處分ヲ受スシテ現役ヲ離レ若クハ非職ト爲リ若クハ海軍ノ名稱ヲ除カレタルトキハ其罰ヲ科セス

第十八條　犯行ノ科目左ノ如シ

一　擅ニ艦船團隊校ヲ離レ若クハ職役ヲ離レ又ハ勤務ヲ缺キ若クハ之ヲ懈リタル者

二　職務ノ權限ヲ侵シ若クハ之ヲ誤リタル者

三　成規ニ違ヒタル處置ヲ爲シ若クハ命令ヲ怠リ若クハ之ヲ誤リ若クハ之ヲ誤リ傳ヘタル者

四　祕密ノ事件ヲ漏洩シタル者

五　上申下達其他定期アル事件ヲ稽延シタル者

六　服順ノ道ヲ失ヒタル者

七　演習集合ノ期ニ後レ若クハ之ニ會セサル者

八　徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到著ノ期限ニ後レタル者

九　允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期限ニ後レタル者

十　言語所爲詐僞ニ涉ル者

十一　暴行脅迫シタル者

十二　濫ニ銃砲ヲ發シ又ハ劍ヲ拔キタル者

十三　罵詈侮慢若クハ鬪爭シタル者

十四　犯罪アルコトヲ知テ之ヲ隱匿シタル者

十五　人ヲ懲罰ニ陷ル爲メ申告ヲ爲シタル者

十六　疎虞懈怠過失ニ因テ官ノ文書若クハ器具物品ヲ毀損亡失若クハ汚シタル者

十七　圖書計算ヲ誤リタル者

十八　各自擔當ノ鎖鑰ヲ怠リタル者

十九　兵器彈藥器械船具糧餉其他物品ノ調製貯藏運搬若クハ支給ノ法ニ違ヒ若クハ之ヲ誤リ
メル者

二十　故ラニ糧食分配ノ不平均ヲ致シメル者

二十一　官物ヲ濫用若クハ浪費シメル者

二十二　兵器其他物品ノ配置保存法ニ違ヒメル者

二十三　允許ヲ得スシテ官給其他渡付ノ物品ヲ貸借シメル者

二十四　受寄ノ財物若クハ借用物ヲ典却シメル者

二十五　下士卒定數ノ被服ヲ所持セサル者

二十六　守兵ニ對シ濫ニ談話ヲ爲シ又ハ之ニ戲レメル者

二十七　酩酊シテ事ヲ省セサル者

二十八　軍人其態度ヲ失シメル者

二十九　禮節式ニ違ヒメル者

三十　服裝式ニ違ヒ又ハ制規外若クハ命令外ノ服ヲ著レメル者

三十一　法則命令ヲ誹謗シ若クハ之ニ違ヒメル者

三十二　業行修マラサル者

三十三　疎虞懈怠過失ニ因リ艦船若クハ其他ノ物件ヲ毀損シ或ハ艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付
シメル者

三十四　艦船ノ乘員不能ニ因リ其艦船ヲ擱岸坐礁其他危險ニ付シ若クハ之ヲ毀損シメル者

三十五　允許ヲ得サル物品ヲ艦船ニ積載セメル者

三十六　砲具其他凭ル可ラサル場所ニ凭リメル者

三十七　艦船團隊校內ニ於テ巡檢後故ナク寢所ヲ離レメル者

三十八　艦船團隊校內ニ於テ濫ニ他人ノ室ニ入リメル者

三十九　艦船團隊校內ニ於テ濫ニ庖廚ニ入リメル者

四十　艦船團隊校內ニ於テ允許ヲ得スシテ火藥其他破裂スヘキ物品ヲ携帶シメル者

四十一　艦船團隊校內ニ於テ定所外ヨリ物品ヲ出入若クハ投棄シメル者

四十二　艦船團隊校若クハ工場內ニ於テ醜行ヲ爲シメル者

四十三　舷側柵塀牆壁等ニ貼紙又ハ樂書シメル者

四十四　允許ヲ得スシテ艦船團隊校內ニ酒類ヲ入レ又ハ艦船團隊校內ニ於テ酒類ヲ授受若クハ
●賣買シ又ハ工場內ニ於テ飲酒シメル者

四十五　擅ニ艦船團隊校內ニ於テ鳥獸類ヲ蓄ヒ又ハ工場內ニ於テ濫ニ菓實貝藻ヲ採取シ若クハ
樹木花卉ヲ折採シ又ハ魚鳥ヲ捕ル者

四十六　艦船團隊校內ニ於テ濫ニ定所外ニ睡眠シ又ハ工場內ニ於テ就業時間中睡眠シメル者

四十七　濫ニ砲門ヨリ艦內ニ出入シ又ハ柵塀牆壁等ヲ踰越シテ團隊校工場構內ニ出入シメル者

四十八　濫ニ團隊校工場構內ニ立入リ故ナク諸方ヲ徘徊シ又ハ構內海岸ヘ著船シメル者

四十九　艦船團隊校內ニ於テ定所外ニ飲食シ又ハ工場內ニ於テ就業時間中喫飯若クハ喫飯ノ准
備ヲ爲シメル者

五十　艦船團隊校工場內ニ於テ定時限ノ外又ハ禁制ノ場所ニ於テ燈火其他ノ火ヲ用ヒ又ハ火
ノ取扱ヲ疎ニシ若クハ吸烟シメル者

五十一　守所又ハ整列就業中ニ在テ喧噪戲謔若クハ雜話シメル者

五十二　艦船團隊校若クハ工場內ニ於テ定所外ニ屎尿シメル者

五十三　濫ニ裸體ト爲リタル者
五十四　工場内ニ於テ濫ニ禁止ノ場所ニ立入リタル者
五十五　工場内ニ於テ火ノ始末ヲ爲サスシテ退散シ又ハ濫ニ焚火シタル者
五十六　工場内ニ於テ濫ニ遊戯放歌シ又ハ高聲ヲ發シタル者
五十七　工場内ニ於テ賭勝負及ヒ之ニ類スル所爲ヲ爲シタル者
五十八　工場内ニ在テ碁將棋雙六骨牌等ノ戯具ヲ携帶スル者
五十九　就業時間中私用ノ物品ヲ製造シ若シクハ他人ノ依頼ニ應シ之ヲ製造スル者又ハ之ヲ依頼シ及ヒ依頼ヲ紹介シタル者
六十　就業時間中濫ニ他ノ工場ニ至リ若クハ他人ノ工業ヲ妨害シ若クハ自己ノ工業ヲ休止シタル者
六十一　工場内ニ於テ各自使用スヘキ器具材料ヲ整頓セスシテ散亂セシメタル者
六十二　工場内ニ於テ掲示標札其他諸報告榜標等ヲ毀損シタル者
六十三　工場内ニ於テ瓦礫等ヲ抛チタル者
六十四　工場内ニ於テ故ラニ職札ヲ毀損シ或ハ紛失セシメ又ハ札場ニ於テ投擲シタル者
六十五　工場内ニ於テ職札ノ掛ケ外シヲ他人ニ依頼シタル者及ヒ之ヲ承諾シテ掛ケ外シヲ爲シタル者
第十九條　練習所病院監獄ニ於テ犯行ノ者ハ盤團校内ニ於ケル犯行ト同シク處分ス

○

朕茲ニ内閣官制ヲ裁可ス

御名御璽

明治二十二年十二月二十四日

勅令第百三十五號

内閣官制

第一條　内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織ス
第二條　内閣總理大臣ハ各大臣ノ首班トシテ機務ヲ奏宣シ旨ヲ承ケテ行政各部ノ統一ヲ保持ス
第三條　内閣總理大臣ハ須要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止セシメ勅裁ヲ待ツコトヲ得
第四條　凡ソ法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署スヘシ勅令ノ各省專任ノ行政事務ニ屬スル者ハ主任ノ各省大臣之ニ副署スヘシ
第五條　左ノ各件ハ閣議ヲ經ヘシ
一　法律案及豫算決算案

内閣總理大臣公爵三條實美
内務大臣伯爵山縣有朋
海軍大臣伯爵西郷從道
司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巌
文部大臣子爵榎本武揚
逓信大臣伯爵後藤象二郎

二　外國條約及重要ナル國際條件
三　官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令
四　諸省ノ間主管權限ノ爭議
五　天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
六　豫算外ノ支出
七　勅任官及地方長官ノ任命及進退
其ノ他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事體稍重キ者ハ總テ閣議ヲ經ヘシ

第六條　主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハス內閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得

第七條　事ノ軍機軍令ニ係リ奏上スルモノハ天皇ノ旨ニ依リ之ヲ內閣ニ下付セラルヽノ件ヲ除ク外陸軍大臣海軍大臣ヨリ內閣總理大臣ニ報告スヘシ

第八條　內閣總理大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ代理スヘシ

第九條　各省大臣故障アルトキハ他ノ大臣臨時擬任シ又ハ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ管理スヘシ

第十條　各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ內閣員ニ列セシメラルヽコトアルヘシ

○

朕地方官官制中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十五日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵山縣有朋

勅令第百三十六號（官報十二月二十六日）

地方官官制第二十八條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但京都府大阪府及開港場師團控訴院アル縣ノ警部長ハ奏任二等ニ陞ルコトヲ得

○

朕札幌農學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十五日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第百三十七號（官報十二月二十六日）

札幌農學校農學科及工學科卒業生ハ高等試驗ヲ要セス共修メタル學科ニ關スル行政官試補ニ採用スルコトヲ得

○

朕東宮武官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十六日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第百三十八號（官報十二月二十七日）

東宮武官官制

第一條　東宮ニ武官ヲ置ク共定員左ノ如シ

陸軍佐官　一人

陸軍尉官　三人

第二條　東宮武官ハ　皇太子殿下ニ常侍奉仕シ且軍務ヲ輔翼シ儀仗警衛ヲ率助シ觀兵演習行啓其他祭儀禮典宴會謁見等ニ扈從スルヲ任トス

第三條　東宮武官前條勤務上ニ於テハ宮內省ノ規則ヲ遵奉スヘシ

第四條　高級武官ハ武官ノ勤務細則ヲ規定ス

○

朕公文式中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵山縣有朋
海軍大臣伯爵西鄕從道
司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巖
文部大臣子爵榎本武揚
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第百三十九號（官報十二月三十日）

公文式第三條左ノ通改正ス

法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ內閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任大臣ト俱ニ之ニ副署ス其各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

○

朕各省官制通則中改正ノ件ヲ裁可ス

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

外務大臣子爵青木周藏
農商務大臣　岩村通俊

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
內務大臣伯爵山縣有朋
海軍大臣伯爵西鄕從道
司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巖
文部大臣子爵榎本武揚
遞信大臣伯爵後藤象二郎
外務大臣子爵青木周藏

勅令第百四十號（官報　十二月三十日）

各省官制通則第十二條左ノ通改正ス

各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ之ヲ奏聞宣行シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

府縣書記官、警部長、島司、郡長ノ進退ハ內務大臣收稅長ノ進退ハ大藏大臣之ヲ奏聞宣行ス

農商務大臣　岩村通俊

○

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

內閣總理大臣伯爵山縣有朋

大藏大臣伯爵松方正義

明治二十二年十二月二十八日

勅令第百四十一號（官報　十二月三十日）

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條　納稅人ハ稅金（沖繩縣酒類出港稅ヲ除ク）ヲ金庫ニ拂込ミ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條　國稅品ハ納稅人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條　前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

○

朕警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

陸軍大臣伯爵大山巖

明治二十二年十二月二十八日

勅令第百四十二號（官報　十二月三十日）

警備隊區司令部條例

第一條　警備隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官　中佐若クハ少佐一名

副官　大尉若クハ中尉一名

書記　下士二名

第二條　警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條　警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區內徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條　警備隊區司令官ハ警備隊區內ニ現在スル豫備後備將校同相當官ノ身上異動其他願屆ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　警備隊區司令官ハ警備隊區內ニ現在スル豫備後備下士兵卒ヲ管轄シ歸休兵ヲ監視ス

第六條　警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條　警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條　警備隊區司令部位置ハ警備隊常屯ノ地トス

○

陸軍豫備後備將校服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山巌

勅令第百四十三號（官報十二月三十日）

陸軍豫備後備將校服役條例

第一條　陸軍豫備後備將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第二條　豫備後備將校ハ職時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條　豫備後備將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其他厳アル宴會ニ列スル時ニ限リ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレタル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外文官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第四條　豫備後備將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ掌スル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其開會中亦同シ

餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ掌スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ內閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ本人所管ノ師團長ニ通報ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第五條　豫備後備將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第六條　豫備後備將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用ヰスシテ豫備ハ後備ニ後備ハ退役ニ入ル者トス

豫備後備滿期後引續キ服役セントスルトキハ年數ヲ定メ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第七條　豫備後備將校傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ申請ス可シ

第八條　豫備後備將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フ可シ

第九條　豫備後備將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ所管師團長ノ許可ヲ請フ可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地ノ師團長ニ屆出可シ

第十條　現役ヨリ豫備若クハ後備ニ入ル將校歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ一箇月以上滯在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸鄉旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ屆出ヲ爲ス可シ

第十一條　豫備後備將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ但師管外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ屆出可シ

第十二條　豫備後備將校十四日以上ノ旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ師團長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十三條　豫備後備將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ師團長ニ屆出可シ

第十四條　豫備後備將校ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ屆出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十五條　豫備後備將校重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ屆出可シ

第十六條　豫備後備將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校ヨリ師團長ニ差出ス願屆書ハ大隊區司令官（豫備隊區ニ在テハ隊司令官以下同シ）及旅團長ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ大隊區司令官旅團長及師團長ヲ經由ス可シ

第十七條　本條例ハ豫備後備ノ將校相當官ニ適用ス

第十八條　第十條第十一條第十二條第十三條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條　第十條第十二條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

○

朕陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第百四十四號（官報十二月三十日）

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例

第一條　陸軍豫備後備下士兵卒ハ本籍師管ノ兵籍ニ編入シ大隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第二條　豫備後備下士ハ職時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閲點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集スルコトアル可シ

第三條　豫備後備下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習簡閲點呼ノ爲メ召集スルコトナシ（法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者共開會中亦同シ）餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ內閣ニ具狀シ認可ヲ請ケ本人所管ノ大隊區司令官ニ通報ス可シ其事故止ミタルトキ亦同シ

第四條　豫備後備下士兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用ヰスシテ豫備ハ後備ニ後備ハ國民兵役ニ入ルモノトス但下士ニ在テ後備滿期ニ至リタルトキハ其官消滅スルモノトス

第五條　豫備後備下士及下士適任證書ヲ所持スル者滿期後引續キ服役セントス欲スルトキハ年數ヲ定メ市町村長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ）及監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ願出可シ

第六條　豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閲點呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ其願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス可シ

第七條　豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其地ニ於テ簡閲點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上師管（歩兵ニ在テハ旅管）外ニ寄留スル者ハ願ニ由リ寄留地師管又ハ旅管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ本籍市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ監視區長ヲ經テ大隊區司令官ニ差出ス

可シ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到著後（寄留後出願ノ者ハ指令書受領後）三日以内ニ其由ヲ寄留地ノ監視區長ニ屆出可シ

第八條　現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士兵卒ハ十四日以内ニ衛戍地又ハ從前ノ在職地ヲ出發シ一日行程十里餘ヨリ尠ナカラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

衛戍地又ハ從前ノ在職地若クハ其他ノ地ニ十五日以上滯在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日内ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但歸郷シタルトキハ前項ノ屆出ヲ爲ス可シ

第九條　豫備後備下士兵卒傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト認定スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十條　豫備後備下士兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第十一條　豫備後備下士兵卒十四日以上ノ旅行或ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

外國ニ旅行中又ハ寄留中ハ勤務演習簡閲點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但對馬警備隊區ニ在テ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スル者ハ此限ニアラス

第十二條　豫備後備下士兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル團會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十三條　豫備後備下士兵卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ失踪ノ者歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十四條　豫備後備下士兵卒重罪輕罪（罰金ナル刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ）

第十五條　本條例中兵卒ト稱スルハ雜卒職工ヲ包含ス

第十六條　第七條第三項但書第八條第十條第十一條第十二條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條　第八條第十一條ノ通報ハ正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十八條　豫備後備下士兵卒正當ノ事由ナクシテ簡閲點呼ニ會セサル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十九條　本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區ニ於テハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附則

第二十條　市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戸長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○

陸軍軍醫休兵條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山　巌

勅令第百四十五號（官報　十二月三十日）

陸軍歸休兵條例

第一條　陸軍現役兵中徵兵令第十三條ニ依リ歸休ヲ命ス可キ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限リ警備隊諸兵ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル

第二條　歸休ヲ命ス可キ人員ハ其都度陸軍大臣上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第三條　歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス平常ト雖モ演習ノ爲メ又ハ原隊ニ於テ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキハ之ヲ召集ス

第四條　歸休兵在鄉中ハ大隊區司令官ノ監視ニ屬ス

第五條　歸休兵在鄉中現役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ入ルモノトス

第六條　歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ

第七條　歸休兵ハ退營後七日以內ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十里餘ヨリ遲ナカラサル日數間ニ歸鄉シ著後七日以內ニ市町村長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フ）ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

退營後衛戍地若クハ其他ノ地ニ八日以上滯在若クハ寄留セント欲スルトキハ本條ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ前項ノ屆出ヲ爲ス可シ

第八條　歸休兵在鄉中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷

證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第九條　歸休兵在鄉中兵籍上異動ヲ生シタルトキハ七日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但監視區外ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ監視區長ニ屆出可シ

第十條　歸休兵在鄉中七日以上ノ旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ召集ノ命アルトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ但歸鄉シタルトキハ七日以內ニ市町村長ヲ經テ其由ヲ監視區長ニ屆出可シ

第十一條　歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス

對馬警備隊區ニ在テハ朝鮮國釜山ニ旅行又ハ寄留スルコトヲ得但此場合ニ於テハ第十條ノ例ニ依ル可シ

第十二條　歸休兵在鄉中死亡又ハ失踪シタル者アルトキハ其親族ヨリ七日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ失踪ノ者歸鄉シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

第十三條　歸休兵在鄉中重罪輕罪罰金ナノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其親族ヨリ七日以內ニ市町村長ヲ經テ監視區長ニ屆出可シ

第十四條　歸休兵召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痍疾病其他ノ事故ニテ歸營シ難キトキハ傷痍疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ監視區長ニ屆出可シ

第十五條　本條例中兵ト稱スルハ徵兵令ニ依リ徵集シタル雜卒職工ヲ包含ス

第十六條　警備隊諸兵ニシテ定期退營シ又ハ輜重輸卒ニシテ退營シ尙ホ現役中ニ在ル者ハ總テ本條例ニ依ル

第十七條　第七條第九條第十條及第十一條第二項ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五錢以上一圓九十五錢以

下ノ料料ニ處ス

第十八條　第七條第十條ノ通報人ニシテ正當ノ事由ナク召集ノ命ヲ通報セス若クハ其通報ヲ遲緩シタル者及第十一條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十九條　本條例中大隊區司令官トアルハ警備隊區司令官監視區長トアルハ警備隊區副官監視區トアルハ警備隊區トス

附則

第二十條　市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フ可シ

○

朕海軍將校同相當官豫備後備服役年期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十二年十二月二十八日

海軍大臣伯爵西鄕從道

勅令第百四十六號（官報十二月三十日）

海軍將校及其相當官ノ豫備服役年期ハ現役ニ於テ定メタル年齡定限迄トス

海軍將校及其相當官ノ後備服役年期ハ五箇年トス

法令全書

閣令

○閣令第一號（官報一月二十二日）

明治二十二年四月一日ヨリ鹿兒島縣島司所轄區域中熊毛郡諸ノ二郡ヲ除ク

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二號

明治二十二年一月一日

明治十九年五月閣令第十二號中愛媛大林區署管轄區域愛媛縣ノ下ニ「香川縣」ノ三字ヲ追加ス

明治二十二年一月二十三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第三號（官報一月二十六日）

北海道廳ノ郡區長ハ當分ノ内三箇年以上北海道廳ノ官務ニ從事シ判任官五等以上ニ敍セラレ現ニ在官セル者ニ限リ試驗ヲ要セス郡區長試驗委員長ノ詮衡ヲ經テ郡區長ニ任スルコトヲ得

明治二十二年一月二十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第四號

文具支給規則ヲ定メ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

明治二十二年二月七日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

各官廳

文具支給規則

第一條　此規則ニ於テ文具ト稱スルハ左ノ物品ヲ總稱ス

筆　ペン　ペン軸　鉛筆　墨

朱墨　インキ　檢印用印肉　卷紙　押紙

硯石　硯箱　インキ壺　字消護謨　簿記用海綿

小刀　錐　鋏　糊壺　水入

文鎭　檢印用肉池　定木　尺度　机拂用ブラッシュ

綴金及留針　烏口　コンパス　紙挾　火熨斗

第二條　官吏及傭員ニ給スル文具ハ現品ヲ以テ給セス一箇月金貳拾五錢以内適宜等級ヲ分テ其支給額ヲ定メ代料ヲ以テ給スヘシ

第三條　職掌上高價ノ文具ヲ要スルモノアルトキハ各省大臣大藏大臣ト協議シ特ニ現品ヲ以テ支給スルコトヲ得

第四條　各省大臣ハ第二條ニ依リ定メタル文具代料ノ等級金額ヲ大藏大臣竝ニ會計檢査院ニ通知スヘシ

○閣令第五號（官報二月二十六日）

外務省派遣清國留學生卒業者ニシテ在清國公使館領事館又ハ在香港領事館附屬學生ト爲リ事務ヲ

練習シタル者ハ直ニ同省判任官ニ任スルコトヲ得

明治二十二年二月二十五日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

各官廳

○閣令第六號

明治二十二年法律第一號徴兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ率スル官吏ハ

豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

明治二十二年二月二十七日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第七號（官報三月二日）

明治十九年四月閣令第七號中錦織綱場官制ヲ廢ス

明治二十二年三月一日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

各官廳

○閣令第八號

非職官吏ノ俸給ハ明治二十二年度以降共所屬廳ニ於テ下渡ス可シ但明治二十二年三月三十一日マテニ非職ヲ命セラレタル官吏ノ俸給ハ從前ノ通大藏省ニ於テ下渡ス可シ

明治二十二年三月二十一日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第九號（官報三月二十二日）

勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十二年三月二十一日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

勳章還納手續

第一條　同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ一週間以内ニ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

第二條　同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ送達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

第三條　外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ

第四條　公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

第五條　勳章還納ニ關スル費用ハ受章者ノ自辨トス又官廳ヨリ賞勳局ヘ送付スルモノハ其官廳ニ

於テ支辨スヘシ

附則

一從前同種勳章ニ進叙シタル者ハ東京ハ二週間以内各地方ハ三十日以内ニ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ我國在留ノ外國人亦同シ其外國ニ在ル者ハ手續第五條ニ依ルヘシ

但進級者既ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十號（官報三月二十二日）

高等商業學校主計事務修科ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試驗ヲ要セス各官廳判任官見習ヲ命スルコトヲ得

明治二十二年三月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十一號（官報三月二十六日）

試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得

但服役時日ハ實務練習ノ期限ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

明治二十二年三月二十五日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十二號

各官廳

歲入歲出豫算概定順序

第一條　歲入ノ事務管理廳ハ毎年度歲入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條　歲入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ增減ノ理由ヲ說明スヘシ

第三條　各省大臣ハ毎年度歲出概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條　歲出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ增減ノ理由ヲ說明スヘシ

第五條　大藏大臣ハ各廳ノ歲入概算書及歲出概算書ヲ檢案シ歲入出ヲ對照調理シ歲入出總概算書ヲ調製シ前年度四月十五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第六條　歲入出總概算書ハ歲入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ增減ノ理由ヲ說明スヘシ

第七條　内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歲入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條　各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條　歲入概算書及歲出概算書ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條　明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

明治二十二年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十三號（官報四月一日）

明治十九年四月閣令第六號佐渡生野兩鑛山局官制ヲ廢ス

明治二十二年三月三十一日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十四號（官報四月二日）　　各官廳

明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則第四條ニ據リ官船若クハ各廳ニ於テ借入傭入ノ船舶ニ乘込出張スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲナサヽルトキハ左ノ食卓料ヲ支給ス

親任官	一日	金壹圓七拾錢
勅任官	一日	金壹圓五拾錢
奏任官	一日	金壹圓弐拾錢
判任官	一日	金九拾錢

明治二十二年四月一日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第十五號　　各官廳

明治十年十月太政官達第七十七號同十一年四月同第十三號ヲ廢ス

明治二十二年四月十七日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

（參照）太政官達第七十七號（明治十年十月二十四日）

諸官員華族ヨリ圖書及諸器物等獻納ノ節賞與ノ儀ハ其願ニ於テ取扱來候處自今官員職務上ニ係ル賞與ヲ除クノ外内務省ニ於テ取扱候條其時々同省ヘ通知可致右獻金ハ獻品領受ノ節ヨリ可支出尤勅奏任官並華族ノ儀ハ内務省ヨリ上申太政官ニ於テ達方可取計候此旨相達候事

但自己ノ著作譯書等別段ノ賞與相成度見込ノ分ハ其旨併テ同省ヘ通知可致事

太政官達第十三號（明治十一年四月十七日）

諸官員華族ヨリ圖書及諸器物等獻納ノ節賞與ノ儀ニ付十年第七十七號ヲ以相達置候處其他一般人民ノ儀モ同樣内務省ヘ通知可致此旨更ニ相達候事

○閣令第十六號

明治十三年二月第十五號太政官達ヲ廢ス

明治二十二年五月二十二日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

（參照）明治十三年十二月二日第十五號太政官達ハ後備平服員條例ナリ

○閣令第十七號（官報　五月二十九日）

明治二十一年八月閣令第十四號東京市區改正委員會組織權限第四條左ノ通改正ス

明治二十二年五月二十八日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

第四條　書記ハ委員長之ヲ命ス上官ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○閣令第十八號

府縣會規則第十三條市制町村制第十五條衆議院議員選擧法第九條第十條ニ記載シタル官吏ハ在職者ノミニ限ルモノトス

非職者休職者ニシテ議員又ハ市町村ノ吏員タラントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

明治二十二年六月四日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

各　省

○閣令第十九號

豫定經費算出概則

第一條　經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條　經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條　一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各〻其據ル所ヲ示スヘシ

第四條　一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價額ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條　給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時備入及解備ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條　物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條　國債償還ノ金額（定期アルモノヲ除ク）ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手數料ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條　常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滯在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條　法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

第十條　前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

明治二十二年六月十日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十號（官報六月二十九日）

明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條左ノ通改正ス

第十條　素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

明治二十二年六月二十八日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十一號（官報七月三日）

明治二十年七月閣令第十八號文官試驗試補及見習規則ニ關スル細則第一條第二項司法官以下科目ヲ定ムマテノ六十六字及第二條ヲ削除シ第十條中「總員」ヲ「半數以上」ニ改ム

明治二十二年七月二日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十二號

明治十五年十二月太政官第六十二號達但書ヲ廢ス

明治二十二年七月二十四日　　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十三號（官報　八月三十一日）

大林區署名稱位置及管轄區域中左ノ通改正ス

明治二十二年八月三十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

松本大林區署　位置　信濃國松本

管轄區域　長野縣（西筑摩、上下伊那、諏訪ノ四郡ヲ除ク）

石川大林區署　位置　加賀國金澤

管轄區域　石川縣　富山縣　福井縣　岐阜縣ノ内飛騨國大野、吉城ノ二郡

靜岡岐阜愛知ノ三大林區署名稱位置及管轄區域（削除ス

○閣令第二十四號

明治十九年五月閣令第十二號大林區署名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス

明治二十二年九月二十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

名稱	位置	管轄區域
宮城大林區署	陸前國仙臺	宮城縣　山形縣
秋田大林區署	羽後國秋田	秋田縣
青森大林區署	陸奥國青森	青森縣
盛岡大林區署	陸中國盛岡	盛岡縣
栃木大林區署	下野國宇都宮	栃木縣　福島縣
東京大林區署	武藏國東京	東京府（小笠原島及伊豆七島ヲ除ク）　埼玉縣　千葉縣　安房縣　群馬縣
長野大林區署	信濃國長野	長野縣（信濃國筑摩、上下伊那、諏訪ノ四郡ヲ除ク）　新潟縣
石川大林區署	加賀國金澤	石川縣　富山縣　福井縣　岐阜縣ノ内非常國大野吉城ノ二郡
大阪大林區署	攝津國大阪	大阪府　京都府　滋賀縣　三重縣　和歌山縣　奈良縣
兵庫大林區署	攝津國神戸	兵庫縣　鳥取縣　岡山縣
廣島大林區署	安藝國廣島	廣島縣　島根縣　山口縣
高知大林區署	土佐國高知	高知縣
愛媛大林區署	伊豫國松山	愛媛縣　徳島縣　香川縣
福岡大林區署	筑前國福岡	福岡縣　佐賀縣　長崎縣

熊本大林區署	熊本縣　大分縣
鹿兒島大林區署	鹿兒島縣　宮崎縣

○閣令第二十五號

明治十三年十月太政官達第五十六號同年十二月同第六十五號巡査制帽制服表服地ノ欄紺ノ下ニ「羅紗又ハ」ノ四字ヲ追加ス

明治二十二年九月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十六號（官報十月十四日）

文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試驗ヲ要セス各官廳判任官見習ヲ命スルコトヲ得

明治二十二年十月十二日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

○閣令第二十七號

明治八年一月太政官達第十五號ヲ廢ス

明治二十二年十一月七日

内閣總理大臣公爵三條實美

（參照）太政官達第十五號（明治八年一月二十五日）

金圓海岸輸來ノ砲器陸軍省所轄ヲ除クノ外追々取崩政ハ開港等致候向有之候追テ金圓防禦綿密定マリハ從來ノ儀存在可致此旨相達候事

○閣令第二十八號

明治二十一年八月閣令第十二號第一項ノ割注ヲ削除ス

明治二十二年十一月十六日

内閣總理大臣公爵三條實美

○勅令第二十九號（官報十二月十七日）

明治二十年三月勅令第七號北海道鐵道特別會計ニ關スル件ヲ廢ス

明治二十二年十二月十六日

内閣總理大臣公爵　三條實美

法令全書

省令

○農商務省令第一號

特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

明治二十二年一月四日　農商務大臣伯爵井上馨

（別冊）

特許條例施行細則

第一條　特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　發明ノ目的及性質ノ要領

三　圖面アルトキハ其略解

四　發明ノ詳細説明

五　改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別

六　特許請求ノ區域

第三條　圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラシムルニ必要ナル發明ノ部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ

第四條　特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ late キ明細書圖面ハ願

書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

第五條　特許條例第八條ニ依リ改良發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條　特許條例第二十六條ニ依リ特許證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ現特許證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依リ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第七條　特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第八條　願書ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第九條　特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ順號ヲ附シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ順號ヲ記入スヘシ

第十條　特許願書ニ順號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査部ニ配付スヘシ

審査部ニ於テハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定メ位キ願書ノ順號ニ從ヒ其審査ニ着手スヘキモノトス

第十一條　左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先チ處分ニ着手スヘキモノトス

一　特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書

二　同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書

三　此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條　審査官ニ於テ明細書圖面ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正圖面ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十三條　審査官ニ於テ發明ノ雛形若クハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ適當ノ雛形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ雛形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノヽ訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外之ヲ許サス

第十五條　特許條例第十三條ノ抵觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部擅著スルトキニ限リ生スルモノトス

一　二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ抵觸スルトキ

二　特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

三　二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

四　改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ抵觸スルトキ

第十六條　抵觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其抵觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

第十七條　特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面雛形又ハ見本等ニ作リタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス

第十八條　前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ期限内ニ始末書ヲ差出サヽルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ以前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ爭フコトヲ得ス

第十九條　關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辨書ニ其事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ差出サシムヘシ

對手人答辨書ヲ差出シタル後審査官ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尚ホ答辨ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條　關係人始末書又ハ答辨書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辨書ヲ差出シタル後ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外其請求ヲ許サス

第二十一條　審査官ニ於テ始末書又ハ答辨書ニ不明瞭ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第二十二條　前二條ニ依リ始末書又ハ答辨書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第二十三條　發明ノ抵觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又ハ特許證若クハ改訂願書ノ

取消又ハ其發明ノ抵觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其抵觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第二十四條　發明抵觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ抵觸シタル特許願書又ハ特許證若クハ改訂願書ニ對シテ再ヒ抵觸ノ審査ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條　審判ハ書類及口頭ノ二種トシ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

口頭審判ハ關係人ノ一方又ハ雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ

第二十六條　審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點、理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

第二十七條　審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ特許局長ハ之ヲ審判部ニ配付シ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辨書ヲ差出サシムヘシ

對手人答辨書ヲ差出シタル後尚ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辨ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條　審判請求書又ハ答辨書ヲ差出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第二十九條　審判請求書又ハ答辨書ヲ差出シタル者其請求書又ハ答辨書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辨書ヲ差出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外其請求ヲ許サス

第三十條　審判請求書又ハ答辨書ニ不明瞭ノ廉アリト認メタルトキハ審判長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第三十一條　審判請求書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第三十二條　審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書並ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第三十三條　口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス

第三十四條　審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尚ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第三十五條　審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サント欲スルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第三十六條　審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス

第三十七條　特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十日トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十八條　特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第三十九條　出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ特許原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

第四十條　特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サシムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ

其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登錄ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第四十一條　特許證ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

特許條例第二十五條又ハ第二十六條ノ場合ニ於テ特許證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第四十二條　出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ特許證ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登錄ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條　特許條例第二十二條ニ依リ變與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登錄シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第四十四條　特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人ノ住所、氏名、明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ

審判請求書、始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書及訂正書ニハ對手人ノ住所、氏名ヲモ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第四十五條　前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ挿入又ハ削除シ若クハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方廳ヲ經由セス直ニ特許局ニ差出スヘシ

第四十六條　特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十七條　特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シタルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ

第四十八條　出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ

代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ

第四十九條　特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サヽルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

第五十條　已ヲ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ雛形ヲ差出シ又ハ出頭シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得

前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ

第五十一條　特許證主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第五十二條　特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第五十三條　特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許證主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第五十四條　特許ヲ與ヘタルトキ、特許證ノ改訂又ハ明細書ノ削除ヲ許可シタルトキ、特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

特許願式用紙奨激紙十三行二十五字詰

第一號特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ關レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年月日　發明者　氏名印

二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

本籍（及現住所）

農商務大臣氏名殿

第二號發明者他人ト連名ノ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ關レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某ヲ連記スト連名ニテ下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）

年月日　發明者　氏名印

農商務大臣氏名殿

第三號發明者他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ私（私共）ノ發明ニ有之特許條例ニ關レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某ヲ記スヘシノ記名ニテ下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）

年月日　發明者　氏名印

農商務大臣氏名殿

第四號他人ノ特許發明ヲ改良シ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々ノ改良原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有ノ何號特許證ノ何々ノ名稱ノ發明ニ就キ私（私共）ニ於テ改良ヲ加ヘ候モノニシテ特許條例ニ關レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書（特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書）ヲ添ヘ此段相願候也

本籍（及現住所）

年月日　發明者　氏名印

農商務大臣氏名殿

第五號　相續者ヨリ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々ヲ發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ亡何某ノ發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械製造品、合成物）ニシテ特許條例ニ關レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
發明者　亡何某相續者
特許願人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第六號　特許證ノ再下付ヲ願出ルトキ

特許證再下付願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱

一發明者氏名

右私（私共）所有特許證何々事由ヲ記スヘシ ニ依リ毀損（亡失）候ニ付特許證再下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）
特許證主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第七號　特許證ノ改訂ヲ願出ルトキ

特許證改訂願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私（私共）所有特許證附屬ノ明細書（圖面）中何々事由ヲ記スヘシ ノ爲メ特許ノ效力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂特許證下付相成度別紙改訂明細書（改訂圖面）並ニ現特許證及附屬明細書（圖面）相添此段相願候也

本籍（及現住所）
特許證主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第八號　明細書ノ削除ヲ願出ルトキ

明細書削除願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私（私共）所有特許證附屬ノ明細書ニ於テ私（私共）儲記發明者）ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ請求區域中ニ記載シタルコトヲ發見候間明細書中第何頁何行目何ノ字ヨリ何ノ字ニ至ル若干字ヲ削除致度此段相願候也

本籍（及現住所）
特許證主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第九號　特許證書式

第何號

特許證（改訂特許證）

本籍（及現住所）
何々（發明ノ名稱）　氏　名

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印
特許局長　氏　名　印

表

何年何月何日
何々下付ノ事出

年　月　日　特許局長　氏　名　印

裏

第十號　特許ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ

特許賣與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私（私共）所有特許證ハ何々約定書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍（及現住所）
特許證主　氏　名　印

年月日

本籍（及現住所）
買受（讓受、共有書入受）人　氏　名　印

特許局長氏名殿

第十一號　書入中ノ特許ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ

特許賣與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私（私共）所有特許ハ何年何月何日付ノ約定書ニ依リ何某ニ新タニ書入致置候處今般別紙約定書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度約定書相添此段請求候

也

年月日　　特許願者　　氏名印

本籍（及現住所）

願受（願受共有）人　氏名印

特許局長氏名殿

明細書文例

（備考）

一　明細書ハ樂漉紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三　明細書ハ其發明ニ關スル學術又ハ事業ニ熟練ナル者ノ之ニ由リテ其發明ヲ實施シ得ル樣詳細正確ニ認ムルヲ要ス

四　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ横線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

五　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

（備考）

一　圖面ハ噴水引ノ純白ナル樂漉紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

二　圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ竪ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ竪横混合シテ用フヘカラス

三　圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス

四　發明ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス

五　圖面ハ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス

六　圖ノ離レタルモノハ一箇條ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ坊ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ

七　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分メケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

八　縱斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三匹ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又縱斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ異ヒタル斜線ヲ用フヘシ

九　圖面ノ凹凸ヲ明瞭ナラシムル爲メ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ附影ハ成ルヘク編スヘカラス

第一　機械ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

肉類細切器

此發明ハ上下スル庖丁ト旋轉スル俎ト相須テ作用スル肉類細切器ニ加ヘタル改良ニ係リ其目的トスル所三アリ、第一、俎ヲ支撐スル裏面ニ油ノ斷エサル樣ニシ其旋轉ヲ常ニ滑利ナラシムルコト、第二、二箇ノ庖丁ノ位置ヲ各別々ニ調節シ以テ其刃ト俎ノ裏面トノ關係ヲ適切ニナスコトヲ自在ナラシムルコト、第三、庖丁ヲ上下スル桿ノ廢撓ヲ減少スルコトナリ、

別紙圖面ニ於テ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示ス、其第一圖ハ全器ノ垂直斷面、第二圖ハ全器ノ中間ヨリ俎ト庖丁トヲ除キ去リテ上ヨリ之ヲ觀タル圖、第三圖ハ第二圖ニ示セル部分ヲ第一圖中(二二)線ニ就テ縱斷シタル垂直斷面、第四圖ハ上下スル丁字架ト之ニ接附シタル庖丁トヲ細ニ示シタル斜面圖ナリ

右諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

蓋い、其脚ろろ及ヒ蓋ノ裏面ニ取リ着ケタル軸用ほゾ以テ水器ノ樽嵌トス、軸用ほゾハ軸輪ほゾ（ヘツシンホゾ）ノ軸ニヲ通ス、此軸輪ノ穀ナル曲柄串ハ連桿ゑヲ以テ丁字架とノ串ニ連ネ、丁字架とニハ桿ちヲ取リ着ケ、此桿ノ上端ニハ丁字架てヲ取リ着ケ、丁字架てニハ下文ニ解明スル如ク自在ニ調節シ得ヘキ庖丁ぬぬヲ裝附シタリ

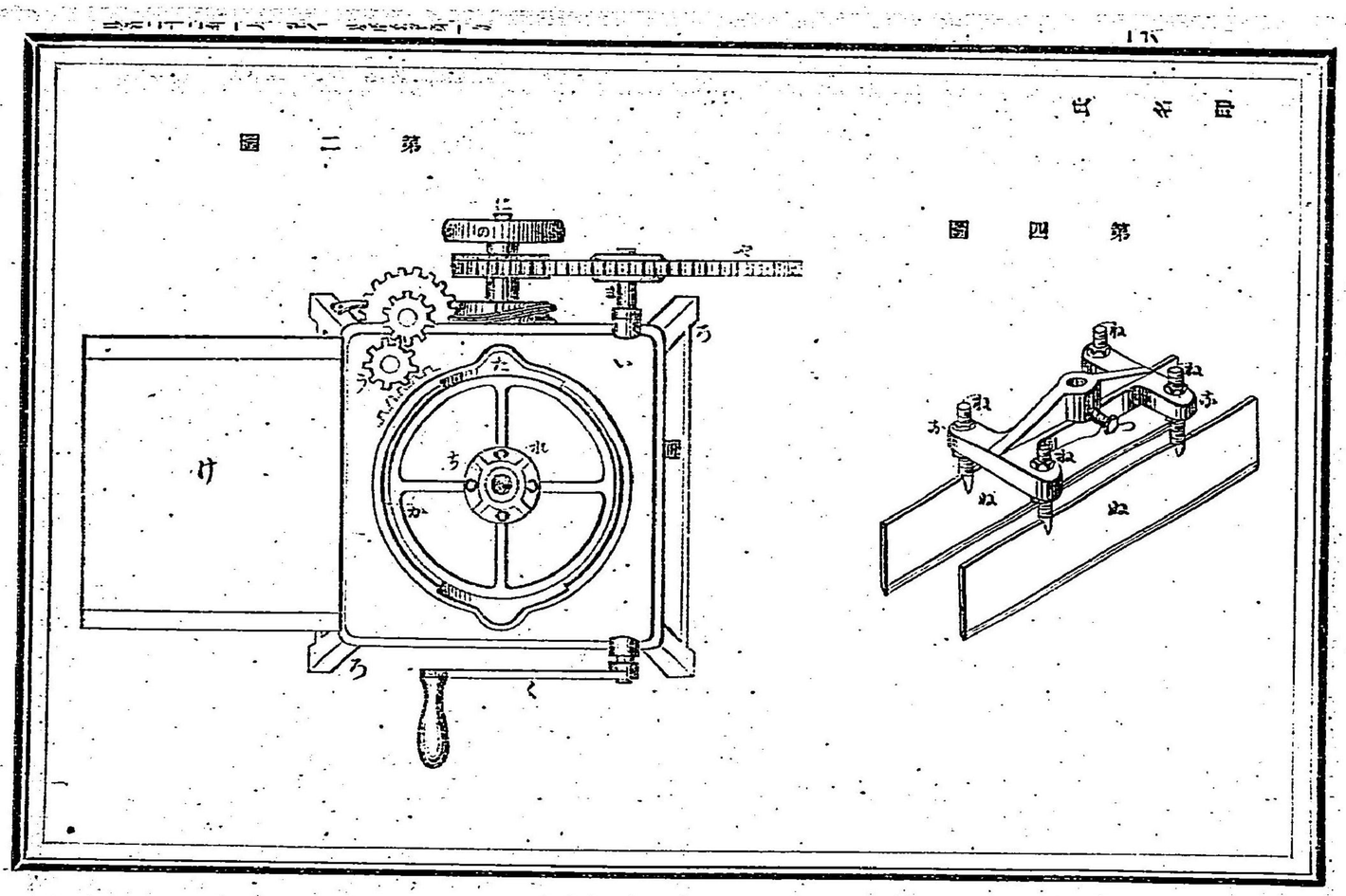
軸にノ推引スル丁字架とニハ蓋いノ裏面ニ取リ着ケタル導桿ををニ適應スル減阻轉子ろろヲ具フ、是レ此丁字架上下ノ際摩擦抵阻ヲ極メテ少クセンカ爲メナリ

水道ノ俎わノ下面ニハ、蓋いノ上面ニ設ケタル環狀（リング）ノ溝ヘニ適應シテ之ニ支撐セラルヘキ環狀ノ凸起よヲ具フ、環溝ハノ深サハ一樣ナラス一箇所以上（茲ニハ假ニ二箇所トス）ニ於テ較〻深キ窪たた有リテ之ニ油ヲ貯フ、而シテ凸起よハ此油ニ潤レテ旋轉スルヲ以テ凸起ト溝トノ間ニハ常ニ油ノ斷エルコトナク甚タ滑利ナルコトヲ得ルナリ、桿ちハ中央ノ架れヲ貫通シ之ニ制導セラル、該架ノ下端ハ蓋いニ取着ケ其上部ハ俎わニ穿レスシテ俎ノ中央ナル孔ヲ貫キテ上方ニ突出シ蓋そニ覆ハル、此蓋ハ俎ニ取着ケ其中央ノ孔ニ陶片ノ落ツルヲ防クモノナリ、

前ニモ掲ケ且第四圖ニ委シク示セル丁字架てハ桿ちニ貫カレ其位置ハ桿ちニ從ヒ垂直ノ方向ニ於テ任意ニ之ヲ移

同　名　印

第一圖に記せる如く圓盤の中心に設けたる軸に一端に設けたる軸に一端に設けたる軸に一端



第二図ニ於テハ刷毛ヲ用ヒタル部分ヲ大略等シキ長サヲ有シ其幅廣面ハ凹ナル形ノ側版ニほヲ具ヘ刷毛面ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ヲ其ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉動ヲナサシムルナリ

刷毛面ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ヲ大略等シキ長サヲ有シ其幅廣面ハ凹ナル形ノ側版ニほヲ具ヘ刷毛面ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ヲ其ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉スルモノトス

此機械ハ柄ノ頭部ノ四方ニ刷毛ヲ具ヘ柄ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉シ以テ極ク小川ヲナス極刷ニ係リ其目的トスル所ハ刷毛ヲシテ推進ノ力向ニ伸ス毫ノ力向ニ作用セシメ以テ毫ノ或面ヲ摺擦スルノ効用ヲ完全ナラシムルニ在リ

則第一図ハ此旋轉刷ノ全體ノ対面図、第二図ハ刷毛面ヲ開キタル図、第三図ハ柄ノ頭部、第四図ハ推引サルヘキ鍵子ヲ示ス、此等諸図ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

柄いハ金屬、木材、竹等ノ如キ固形ノ材料ヲ以テ之ヲ造リテ可ナリ、然レトモ竹ヲ用スルトキハ其強ダシテ最モ適ナラサルヲ得ス、其形ハ圓錐狀トナスヲ可トス、其圓錐ニハ二三回之ニ螺旋スル螺溝ノ狀ニ於テ溝ヲ穿ツ、此溝ノ各頭部ニハ四方ニ刷毛ヲ列植シ、此刷毛ヲ植タル部分ノ各端ハ柄ノ軸ニ於テ約ソ二分ヲ相距テ一環線ヲ成ス、其四分ノ一ハ溝ヲ穿チタル部分ニハ鍵子ヲ推引制動スルモノトス、柄ノ溝ヲ穿チタル部分ニハ鍵子ハ柄ト同シ材料ニテ造ルヲ適利トス推引制動スルナリ、此鍵子ハ柄ノ溝ニ適合シ推引サレテ柄ヲ旋轉スルモノトス

此機械ハ刷毛ヲ具ヘ柄ノ頭部ヲ旋轉シテ刷毛面ヲ摺擦スルモノトナシ、其形狀ハ柄ノ外周ニ於テ八角形其他適當ノ形トナシ内側ハ柄ノ軸ニ適スル形トナシ且つ溝ヲ具フ、故ニ此鍵子ヲ柄ノ溝ニ推引スルトキハ柄ノ頭部ニ植タル刷毛面ヲ旋轉動ヲナサシムルナリ

刷毛面ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ヲ大略等シキ長サヲ有シ其幅廣面ハ凹ナル形ノ側版ニほヲ具ヘ刷毛面ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ヲ其ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉スルモノトス

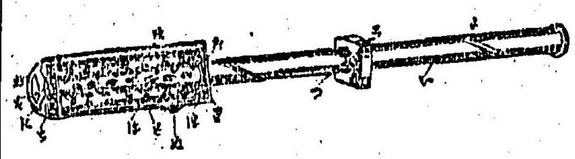
此機械ハ柄ノ頭部ノ四方ニ刷毛ヲ具ヘ柄ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉シ以テ極ク小川ヲナス極刷ニ係リ其目的トスル所ハ刷毛ヲシテ推進ノ力向ニ伸ス毫ノ力向ニ作用セシメ以テ毫ノ或面ヲ摺擦スルノ効用ヲ完全ナラシムルニ在リ

則第一図ハ此旋轉刷ノ全體ノ対面図、第二図ハ刷毛面ヲ開キタル図、第三図ハ柄ノ頭部、第四図ハ推引サルヘキ鍵子ヲ示ス、此等諸図ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス

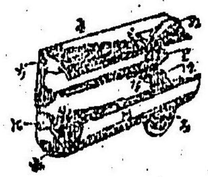
柄いハ金屬、木材、竹等ノ如キ固形ノ材料ヲ以テ之ヲ造リテ可ナリ、然レトモ竹ヲ用スルトキハ其強ダシテ最モ適ナラサルヲ得ス、其形ハ圓錐狀トナスヲ可トス、其圓錐ニハ二三回之ニ螺旋スル螺溝ノ狀ニ於テ溝ヲ穿ツ、此溝ノ各頭部ニハ四方ニ刷毛ヲ列植シ、此刷毛ヲ植タル部分ノ各端ハ柄ノ軸ニ於テ約ソ二分ヲ相距テ一環線ヲ成ス、其四分ノ一ハ溝ヲ穿チタル部分ニハ鍵子ハ柄ト同シ材料ニテ造ルヲ適利トス推引制動スルナリ、此鍵子ハ柄ノ溝ニ適合シ推引サレテ柄ヲ

フル軸子トヨリ成ル旋轉齒刷
二旋轉齒刷中、擂子附キノ盤ヲ蝶鉸シタル擂子附キノ刷毛函ト、之ニ軸頸ヲ委スル旋轉スヘキ刷毛ト、此刷毛ヲ旋轉セシムル柄トノ組合
三旋轉齒刷中、凹處ヲ具ヘ之ニ刷毛ノ軸頸ヲ入レ盤ノ側版ノ凹處ト相須テ刷毛ノ軸架ヲ形成スヘキ側版ヲ有スル函ト、螺絲狀ノ擂子及ヒ此擂子ニ適合シ推引

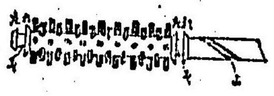
第一圖



第二圖



第三圖



第四圖

氏名印

サレタ旋轉動ヲ生スヘキ鈕子ヲ具フル柄トノ組合
四旋轉齒刷中、一面開放セル刷毛函ニ軸頸ヲ委スル刷毛ト、此刷毛ニ固著シテ同一體ヲ成シ且ツ裏面ニ螺絲狀ノ溝ヲ穿チタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シテ刷毛ヲ操作スヘキ舌ヲ具フル鈕子トノ組合

氏名印

第三工術ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

軟鐵及鋼鐵製造方

此發明ノ目的ハ熔解シタル粗鐵ヨリ燐ト硫黄トヲ除去スルニ在リ、其方法ハ鹽基性物即チ硅酸ヲ含有セサル物料ヲ内面ニ塗布シタル爐回爐ニ鐵ヲ投入シ、硅素ヲ奪除セシカ爲メニ大氣ヲ吹キ入レテ之ニ作用セシメ、從テ化生スル所ノ含硅熔滓ヲ爐壁ヨリ放排シ、然ル後燐ト硫黄トヲ奪除セシカ爲メニ大氣ト螢石即チ弗化カルシウムトヲ爐中ノ鐵ニ加ヘテ之ニ作用セシムルニ在リ

此發明ヲ施行スルニハ、先ツ熔鐵ヲ熔鑄爐ヨリ爐回爐ニ移注シ、爐回爐ノ底若クハ側部ヨリ吹キ入ル大氣ヲ之ニ加ヘ、奪硅作用ノ全ク終ルニ至リテ大氣ノ吹入即チ衝風ヲ斷チ、次ニ爐回爐ヲ傾斜シテ其熔滓ヲ流放シ、次ニ又衝風ヲ吹キ入レ且ツ爐回爐ヲ直立ノ地位ニ復セシメテ後直チニ螢石ヲ之ニ入ル、但シ其入レ方ハ之ヲ細粉トナシテ衝風ト共ニ熔鐵中ニ吹キ入ルヽヲ可トス亦熔滓ヲ去リタル後爐回爐ノ口部ヨリ其小塊ヲ投入スルモ可ナリ、斯クシテ入レタル螢石ハ熱ノ爲メニ分解シ弗素ト石灰トヲ化生シテ以テ硫黄ト燐トヲ蒸氣及ヒ熔滓トナシテ除去スル（硅素ノ殘留スルモノアルトキハ亦之ヲ去ル）カ故ニ爐中ノ鐵ハ豫炭作用完カラサルトキハ化シテ鋼鐵トナリ、其作用完キトキハ軟鐵トナルナリ

爐回爐ノ壁ノ内面ニ塗附スルニハ石灰若クハ苦土質石灰ヲ用フルヲ良シトス、然レトモ亦他ノ適當ナル石灰質ノ鹽類料ヲ用フルモ妨ナシ

上文ノ粗鐵ハ普通ノベッセマー法ニ於テ通常用フルモノ即チ百分中硅素二分、炭素三乃至四分ヲ含有シ且ツ之ニ若干ノ螢石ヲ加フルニアラサレハ良質ノ鋼鐵ヲ成ス能ハサル程ニ過量ノ燐ヲ含有スルモノニテ可ナリ

粗鐵中ニ多量ノ滿俺存スルトキハ其含有スル硅素ノ量減ハ較ヽ少カルヘシ（然レトモ較ヽ多量ノ硅素ヲ含有スルモ敢テ害ナシ）予ハ百分中三分乃至五分ノ滿俺ヲ含有スル粗鐵ヲ用フルヲ良シトス爾ル時ハ衝風吹入ノ終リニ當リテ滿俺ヲ加フルコトヲ要セス、然レトモ若シ粗鐵ニ滿俺ヲ含有セサルトキハ奪硅作用終リテ直チニ一分乃至一分半ノ鏡鐵（スピーゲルアイゼン）ヲ投入スルヲ可トス是レ予ハ奪炭作用ノ間ニ滿俺存在スルトキハ其鐵ノ質ヲシテ良好ナラシムルノ效著大ナルコトヲ之ヲ後ニ至リテ加フルノ比ニアラサルコトヲ發見シタルニ由ル、然リト雖モ鐵ヲ精製スル間ニ滿俺ノ存スルト否トハ必スシモ鋼鐵ノ生成ニ須要ナリトセス何トナレハ衝風ヲ吹入ルヽノ際滿俺アリタルト否トニ關セス衝風ヲ止ムルニ臨テ滿俺ヲ入ルヽモ亦可ナレハナリ

爐中ニ加フヘキ螢石ノ量ハ總ニ粗鐵中ニ含有スル硅素ト燐ト硫黄トノ目方ノ三乃至五倍タルヘシ

石灰若クハ酸化鐵ヲ螢石ト混和シテ爐中ニ入ルヽモ可ナリ、亦螢石奪硅作用ヲ施ス前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ爐ニ投入スルモ可ナリ、然レトモ斯ク石灰若クハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊要ノ事ナリトセス、

螢石ヲ奪硅作用ノ前ニ用ヒスシテ之ヲ其後ニ用フルノ利益タル所以ハ他ナシ、若シベッセマー法ノ始メニ當テ之

ヲ用フルトキハ先ニ熔鐵ヲ冷却シ從テ之ヲ流放シ雖カラシメ且少個ホ燃ニ多量ノ鑛石ヲ製スルノ便アルヲ以テナリ、夢硅作用後直チニ含硅熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ他ナシ、之ヲ去ルトキハ鑛石ヲシテ之ヲ中和セシカ爲メニ費セシムルノ要ナケレハナリ若シ否セスシテ之ヲ久シク爐中ニ留滯セシムルトキハ鑛石ノ多量ハ無益ニ熔滓ト粗化合スヘシ

ベッセマー法ニ於テ鑄鐵ヨリ燐ヲ夢除センカ爲メニ鑛石ト大紙トヲ使用スルコトハ予カ既ニ何年何月何日附ヲ以テ第何號特許ヲ得タル所ナルヲ以テ今汎ク斯ノ如キ方法ヲ取テ水發明ノ權利ヲ請求スル區域ト爲サス、邪道水發明ハ右ノ方法ニ加ヘタル改良ニシテ其主眼トスル所ハ小量ノ鑛石ヲ費シテ以テ鐵ヲ精製スルコトヲ得ルニ在リ

特許條例ニ依リ水發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

本書ニ附記シタル炭鐵及鋼鐵製造方ニ加ヘタル改良、即チ適當ナル鹽基性物ヲ以テ內面ヲ塗被シタル順間爐內ニ於テ先ツ粗鐵ヨリ硅素ヲ夢除センカ爲メニ之ニ酸風ヲ加ヘ、次ニ生成シタル含硅熔滓ヲ流放シ、又次ニ鐵中ノ硫黃ト燐トヲ夢除センカ爲メニ鑛石若クハ之ニ齊シキ作用ヲナスヘキ鹽基性物ヲ加フルヨリ成ル方法

氏名印

第四　合成物ノ特許ヲ願ヒシタル一例

明細書

肥毛媒助劑

此發明ハ毛皮ヲ變化スルニ先チ強メ其毛ト脂肪トヲ除去スルニ供用スヘキ合成劑ニ係ル

此合成劑ハ左記ノ資料ヲ左記ノ割合ニ合セテ成ル

清水　拾貳石五斗

生石灰　八斗

炭酸曹達　拾貳貫目

硝石　貳貫四百目

硫黃花　壹貫貳百目

以上ノ資料ヲ善ク攪拌シテ混和セシムルナリ

此合成劑ノ用方ハ先ツ毛皮ヲ水中ニ漬スコト　生皮ナレハ一日間、枯乾シタル皮ナレハ八日間ニシテ其毛皮ニ存スル鹽類及ヒ汚物ヲ惡ク除去シ以テ之ヲ清淨ニシ次ニ之ヲ此合成劑ノ液中ニ漬スコト四十八時間ニシテ之ヲ取出シ爾ル後適當ノ力ニ縛リテ其毛ヲ脫除スルニ在リ

此合成劑ヲ毛皮ニ施ストキハ忽チ其毛ヲシテ極メテ脫除シ易カラシメ且ツ皮中ニ存スル脂肪其外糅化ヲ妨クヘキ有害ノ物質ハ悉ク之ヲ去リ而シテ其化シテ革ト成ルヘキ精良ノ物質ニ至テハ能ク之ヲ留存スルナリ

炭酸曹達ト水ト石灰ト硫黃トヨリ成ル合成劑ヲ上文ニ同シキ目的ニ供スルコト並ニ硝石ヲ脫毛劑ニ用フルコトハ世人ノ既ニ知ル所ナルハ予之ヲ知レリ然レトモ予ノ合成劑ノ資料ヲ惡ク用ヒ且ツ之ヲ混合スルニ前記ノ割合ヲ以テシタルハ予ノ求タ知ラサル所ナリ

左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

毛皮ノ毛ヲ脫除シ易カラシメ及ヒ該皮ヲシテ糅化スルニ適切ナラシムルノ目的ニ供用スヘキ水ト生石灰ト炭酸曹達ト硝石ト硫黃花トヨリ前記ノ割合ニテ成ル合成劑

氏名印

○農商務省令第二號

意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

明治二十二年一月四日

農商務大臣伯爵井上馨

（別冊）

意匠條例施行細則

第一條　意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面二通ヲ添フヘシ

一　意匠ノ名稱

二　意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱

三　意匠ノ詳細說明

四　專用權請求ノ區域

第三條　圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條　意匠登錄願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類每ニ各別ニ差出スヘシ

第五條　意匠登錄願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條　意匠條例第十六條ニ依リ意匠登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添ヘ現意匠登錄證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第十條及第十一條ノ手續ニ依リ改訂意匠登錄證

ヲ送付スヘシ

第七條　審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正圖面ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第八條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登錄通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノヽ訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外之ヲ許サス

第九條　再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條　意匠ノ登錄ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登錄料納付用紙ヲ添ヘテ登錄通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條　出願人登錄料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登錄證ヲ送付スヘシ

第十二條　意匠登錄證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

意匠條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ意匠登錄證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十三條　出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登錄證ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登錄ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條　意匠條例第十三條ニ依リ賈與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキハ第九號及第十號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登錄シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條　登錄意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登錄意匠ノ四字意匠登錄證ノ日附及專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條　意匠專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登錄意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第十七條　意匠ノ登錄又ハ意匠登錄證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ登錄ヲ無効トシタルトキ其他登錄意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條　意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　衣服

衣裝、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類　頭飾、服飾、帽子

櫛、簪、根掛等○胸飾、腕環、指環、釦鈕等○各種ノ帽子

第三類　時計及其附屬品

袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類　傘、杖及履物類

各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等

第五類　携帯品

烟具、扇、懐中物、手提等

第六類　家具

棚、箪笥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類　敷物

段通、油圓、花莚其他各種ノ敷物

第八類　煖爐及其附屬品

火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類　點燈器

行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等

第十類　建築附屬品

障戸、扉、柵、欄間、欄干等

第十一類　織物及他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、卓被等

第十二類　他類ニ屬セサル編物、組物

レース、打紐、飾緒等

第十三類　他類ニ屬セサル漆器（假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス）

飲食器、手箱、香合等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器（煉化石、瓦等モ之ニ屬ス）

飲食器、花瓶、香爐等

第十五類　他類ニ屬セサル玻璃

飲食器、紋樣玻璃等

第十六類　他類ニ屬セサル七寶

花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類　他類ニ屬セサル金屬製品

貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品

第十八類　他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ各種製品

第十九類　他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籃、籠、筷、柱聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等

第二十類　紙及他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、擬革紙、漆紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙箱等○書簡筒、文匣、一閑張等

第二十一類　皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋革○文匣、馬具等

第二十二類　他類ニ屬セサル物品

第十九條　特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

第一號　意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ付之意匠條例ニ爾レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

年　月　日

按出者　氏　名　印

（二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル）

本籍（及現住所）

農商務大臣氏名殿

第二號　意匠按出者他人ト連名ノ意匠登錄證ヲ受クントシテ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ付之意匠條例ニ爾レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度光登錄證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日

按出者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第三號　意匠按出者他人ノ記名ニテ意匠登錄證ヲ受クントシテ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ按出候モノニ付之意匠條例ニ爾レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度光登錄證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシノ記名ニテ下付相成度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日

按出者　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第四號　相續者ヨリ意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ亡何某ノ按出ニ係リ私相續候處別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ意匠條例ニ爾レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

按出者亡何某相續者

年　月　日

登錄願人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第五號　他人ノ按出ニ係ル意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共、當會社、當組合）ヨリ何某本籍ヲモ記スヘシ託シ按出セシメタルモノニ付之意匠條例ニ爾レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）

年　月　日

登錄願人　氏　名　印

又ハ所在地

登錄願人　會社（組合）名社印

社（組）長又ハ職役

氏　名　印

會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第六號　意匠登錄證ノ再下付ヲ願出ルトキ

意匠登錄證再下付願

一第何號意匠登錄證

一何々登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

右私（私共）所有意匠登錄證何々事由ヲ記ニ依リ毀損（亡失）候ニ付意匠登錄證再下付相成度此段相願候也

年　月　日

登錄意匠主　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第七號　意匠登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキ

意匠登錄證改訂願

一第何號意匠登錄證

一何々意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一按出者氏名

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

右私（私共）所有意匠登錄證附屬ノ明細書（圖面又ハ寫眞）中何々事由ヲ記ノ爲メ登錄ノ效力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂意匠登錄證下付相成度別紙改訂明細書（改訂圖面又ハ寫眞）並ニ現意匠登錄證及附屬明細書（圖面又ハ寫眞）相添此段相願候也

本籍（及現住所）

年　月　日

登錄意匠主　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

第八號　意匠登錄證書式

第何號

意匠登錄證（改訂意匠登錄證）

表

何々（意匠ノ名稱）

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登錄シ本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間專用權ヲ與フルモノ也

年　月　日　　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

裏

何々下付ノ年月日

特許局長　氏　名　印

第九號　登錄意匠ノ賣與（讓與、共有又ハ書入）登錄ヲ請求スルトキ

登錄意匠賣與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一　第何號意匠登錄証

一　何々登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一　按出者氏名

右私（私共）所有登錄意匠ヲ別紙約定書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度請求候也

本籍（及現住所）　氏　名

年月日　登錄意匠主　氏　名　印

本籍（及現住所）

買受（讓受、共有書入受）人　氏　名　印

特許局長氏名殿

第十號　書入中ノ登錄意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ

登錄意匠賣與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一　第何號意匠登錄証

一　何々登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一　按出者氏名

右私（私共）所有登錄意匠ヲ別紙約定書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍（及現住所）

年月日　登錄意匠主　氏　名　印

本籍（及現住所）

買受（讓受、共有書入受）人　氏　名　印

特許局長氏名殿

又ハ書入）候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍（及現住所）

年月日　登錄意匠主　氏　名　印

本籍（及現住所）

買受（讓受、共有書入受）人　氏　名　印

特許局長氏名殿

明細書文例

（備考）

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ縱行ノ内ヲ以テ十三行二十五字間ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲クタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ朝付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縱線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

四　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

（備考）

一　圖面ハ墨水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

二　圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ竪ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ竪横混合シテ用フヘカラス

三　圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス

四　意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス

五　圖面ハ色彩ニ係ルモノヽ外一切着色スヘカラス

六　圖ノ離レタルモノハ一箇所ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又ハ部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣適當ニテ明瞭ニ記スヘシ

七　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分タヽ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

八　截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ逆ヒタル斜線ヲ用フヘシ

九　活版ニ應用スヘキ文字及記號ノ形狀ニ係ル意匠ノ圖面ヲ製スルニハ左ノ心得ニ依ルヘシ

一、片假名平假名數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限アル文字等ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形等ノ全體ヲ示スヘシ

一、漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形ノ全體ヲ示スヲ要セス唯之ヲ構成スル部分即チ偏、旁、冠、構等ノ各種類ヲ取ケテ其形狀ヲ示スヘシ若シ又偏、旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難キ文字全體ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其全體ヲ推知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ

一、文字ノ全體又ハ偏、旁等ニ關セス唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之ヲ以テ組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

第一形狀ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

燒爐ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第八類中砲狀燒爐トス

此意匠ハ別紙圖面ニ示シ且ツ左ニ逐一記載スル如キ新規ナル各部ト其組合トヲ包括ス

一部ヲ即イノ裝飾方トス即チ四狀ノ通風版ニト下部兩隅ノ菊花形ほト上部兩隅ノ葉形ゐト中間ナル四分菊花形ノ裝飾とトヨリ成ルモノナリ

一部ハ燒爐中ろナル部分ノ形狀ト裝飾方トニ係リ與縁ちト上ニ向テ漸ク狹小スル凸曲面ヲ有シ且ツ上端ニ鋸齒狀ノ模樣ヲ附シタル帶ぬヲ具フル部分てト裁頭圓錐狀ノ環るト四分圓狀凹曲面ヲ有スル環をト半圓狀菊花形ヲ並列シタル環わト四分圓狀凸曲面ヲ有スル環かト弧版よトヨリ成ル

一部ハ燒爐ノ脚ノ形狀ト裝飾方トニ在リ即チ葉形れヲ有シ且ツ相倚シテ角ヲ成ス所ノ上部側版つト菊花形及ヒ葉形ノ裝飾らヲ有スル下部なトヨリ成ル

燒爐ノ體部ニ屬スル意匠ハ別紙圖面ニ示シタル如キ形狀ト裝飾トヲ具フルろは兩部分ヨリ成リ其ハナル部分ハたれそノ階部分ヲ有ス

本意匠ノ全體ハ即イトろは兩部分ト脚トヲ包含ス但シ此等階部分ノ形狀及ヒ裝飾方ハ燒爐ノ全體ヲシテ恰モ別紙圖面ニ示シタル瓶ヲ呈セシムル如クスルモノトス

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一燒爐ノ意匠中別紙圖面ニ示ス如ク通風版ニト菊花形ほト葉形ゐト四分菊花形とトヨリ成ル即イノ裝飾方

二燒爐ノ意匠中前記ノ如クちてぬるをわかよノ階部分ヨリ成ル部分ろノ形狀及ヒ裝飾方

三燒爐ノ意匠中別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キつれならノ階部分ヨリ成ル脚ノ形狀及ヒ裝飾方

四前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スルろは兩部分ヨリ成ル燒爐ノ體部ノ意匠

五前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スル即イトろは兩部分ト脚トヨリ成ル全體ノ意匠

氏名印

又ハ

會社(組合)名社印

社(組)長又ハ重役

氏名印

會社又ハ組合ヨリ登出ス明細書及圖面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

第二機樣ノ意匠ヲ記載シタル一例

氏名印

明細書

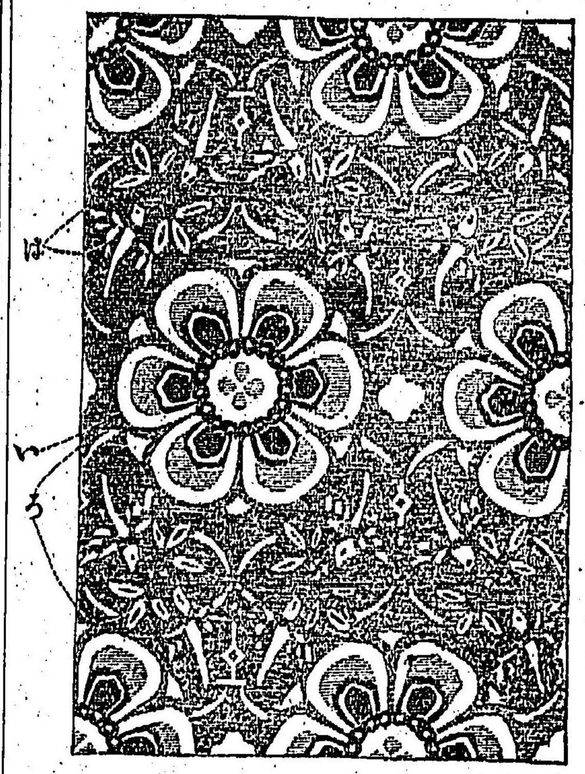
織物機樣ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中一切ノ織物トス

此機樣ハ別紙圖面ニ示ス如ク形狀相同シク且ツ大イサ相等シキ二重六瓣ノ花紋いノ縦列スル距離ヲ其横列スル距離ノ二倍トシ相隣接セル四花毎ニ菱形ヲ爲スノ位置ニ之ヲ配リ唐草模樣ろ及ヒ一瓣ツヽ斜メニ向ヒ合ヒタル島模樣はニテ之ヲ繋キ更ニ水瓜形ニヲ横列セル花紋ノ間ニ位キテ成ルモノニ係ル

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一則紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キ唐草ろト島はトヨリ成ル繋キ模樣



氏名印

二前記ノ二種六箇花紋ハヲ前項ノ模樣ニテ繋キ且ツ模列セル花紋ノ間ニ水瓜形ニヲ拡キテ成ル全體ノ意匠

氏名印

第三蒔繪ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

蒔繪ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十三類中香合トス

此蒔繪ハ丸香合ノ表蓋ニ施スモノニシテ拾遺和歌集ニ載スル所ノ貫之ノ歌「おもひかねいもがりゆけハ冬の夜の川かぜさむみちどりなくなり」ノ意ヲ畫ト文字トニテ表ハシタルモノニ係ル

此圖樣ハ蓋ノ表面(通常黑漆地)ニ蒔繪(通常金ノ平蒔繪)ニテ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ則紙圖面中いいノ如ク描キ其下ニ蒔繪(通常金ノ研出シ)ニテ小波ヲ圖中ろノ如ク顯ハシ其直上ニ右歌ノ中ノ句「冬の夜」ノ三字ヲ(通常平蒔ノ銀金具ニテ)圖中はノ如ク嵌入シテ成ル又蓋ノ裏面ニハ表面ノ千鳥ト同一ノ蒔繪ニテ二羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ圖中ニノ如ク描クナリ

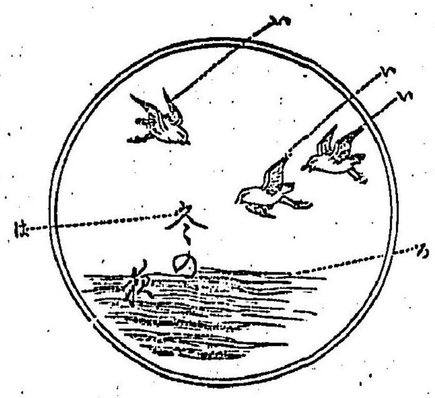
此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク香合ノ蓋ノ表面ニ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キ其下ニ小波ヲ顯ハシ小波ノ直上ニ「冬の夜」ノ三字ヲ記シタル圖樣

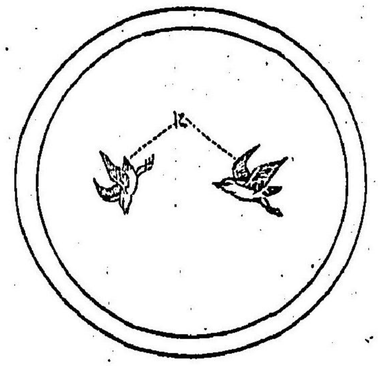
二第一項ノ意匠ヲ施シタル香合ノ蓋ノ裏面ニ前記ノ如ク二羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キタル圖樣

氏名印

第一圖



第二圖



氏名印

第四色彩ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

織物色彩ノ意匠

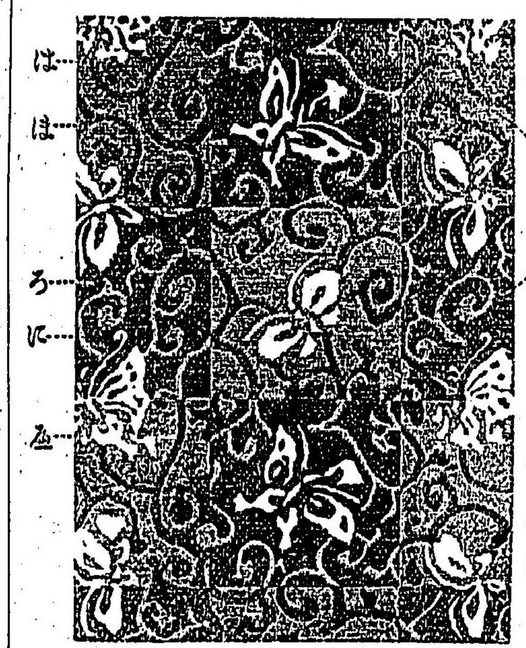
此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中絹織物、綿織物及ヒ交織物トス

此意匠ハ市松形ノ上ニ唐草ト蝶トヲ附シタル在來ノ摸様ヲ用ヒテ之ニ新規ノ色彩ヲ施シタルモノニ係リ其色ノ配合ハ別紙圖面ニ示ス如ク市松形ハ一ツ會キニ淡藍ろト白茶はトノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ニハ唐草にヲほニ同シキ白茶ニテ出シ白茶地ノ所ニハ唐草はヲろニ同シキ淡藍ニテ出シ又唐草ノ間ニ在ル蝶摸様ハ總テ黄色ニスルモノトス

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク市松形ヲ一ツ會キニ淡藍ト白茶トノ二色ニ分チ其淡藍地ノ所ハ唐草ヲ白茶ニ白茶地ノ所ハ唐草ヲ淡藍ニ出シテ唐草ノ間ニ在ル蝶摸様ヲ黄色ニシタル全體ノ色彩

氏名印



氏名印

第五字形ノ意匠ヲ記載シタル一例

明細書

平假名文字ノ意匠

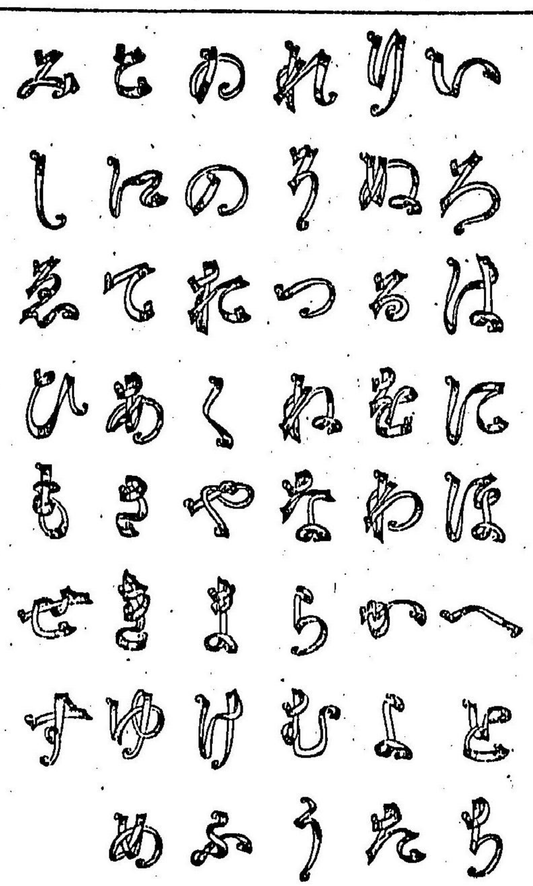
此意匠ヲ應用スル物品ハ第二十二類中活版トス

此意匠ハ別紙圖面ニ示ス如ク一條ノ不規ヲ屈曲シテ各字體ヲ形成セシメ更ニ其首尾ノ兩端ヲ搖キタル狀ノモノニ陰ヲ施シテ成ルモノナリ

此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

一前記ノ如ク平假名文字ノ意匠ニ陰ヲ施シテ成ル平假名文字ノ意匠

氏名印



氏名印

○農商務省令第三號

商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年六月太政官第十三號布達商標登錄願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス

明治二十二年一月四日

農商務大臣伯爵井上馨

（別冊）

商標條例施行細則

第一條　商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ

一　商標全部構造ノ詳細説明

二　商標ノ要部

三　商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四　商標使用ノ方法

第三條　商標登錄願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第四條　商標登錄願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條　商標條例第十六條ニ依リ商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ見本二箇ヲ添ヘ現商標登錄證並ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手續ニ依リ改訂商標登錄證ヲ送付スヘシ

第六條　審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書又ハ訂正見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第七條　出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登錄通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノヽ訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノヽ外之ヲ許サス

第八條　再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第九條　商標ノ登錄ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登錄料納付用紙ヲ添ヘテ登錄通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サヽルトキハ出願ヲ無効トス

第十條　出願人登錄料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登錄證ヲ送付スヘシ

第十一條　商標登錄證ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス

商標條例第十五條又ハ第十六條ノ場合ニ於テ商標登錄證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ

第十二條　商標條例第十二條ニ依リ賣與、讓與又ハ共有ノ登錄ヲ請求スルトキハ第七號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出

スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登錄シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條　商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登錄商標主氏名ヲ變換シ若クハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以內ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第十四條　商標ノ登錄又ハ商標登錄證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標ノ登錄ヲ無効トシタルトキ其他登錄商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條　特許局ニ差出シタル商標ノ印版不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其請取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以內ニ請取方ヲ爲サヽルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

第十六條　商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　化學品及藥劑

酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、鞣劑、膠、燐、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒヲ、丁幾劑、舍利別、商劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類　染料及顏料

藍玉、藍澱、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋紫、白粉、胡粉、藤黃等

第三類　塗料

漆、假漆、油漆、油靴墨等

第四類　香料及燻料（ワニンバンキ）

香油、髮膏、香袋、香水、炷香、線香、煉香等

第五類　金屬及其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類　金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品及編物等

第七類　利器及尖刃器

鋸、鑢、鑿、錐、鏨、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、鑷等

第八類　貴金屬及其製品（アルミニウム金、ニッケル銀ノ製品モ之ニ屬ス）

黃金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品、彫鏤品、モール等

第九類　珠玉及其彫鏤品

珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其摸造品

第十類　鑛物類（但石炭ハ第五十一類ニ屬ス）

第十一類　石材及其製品並彫鏤品

版石、大理石、砥石、石器等及其摸造品

第十二類　漆喰類

漆喰、セメント、石膏等

第十三類　陶磁器類

諸種ノ陶磁器、土器、甘堝、瓦、煉化石等

第十四類　七寶燒

第十五類　玻璃及其製品

玻璃壜、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類　機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機其他諸製造機械、汽機、汽罐等

第十七類　農工器具

犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、繩墨等

第十八類　學術上ノ器械

理化學、醫術及測量等ノ器械

第十九類　度、量、權衡

第二十類　運送用ノ車類

荷車、馬車、人力車、自轉車等

第二十一類　樂器

琴、三味線、胡弓、笛等

第二十二類　時計及其附屬品

第二十三類　銃砲、彈丸、火藥、烟火等

第二十四類　蠶種紙、繭

第二十五類　真綿及木棉綿

第二十六類　生絲、絹絲及天蠶絲（琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス）

第二十七類　綿絲

第二十八類　毛絲

第二十九類　麻絲

第三十類　絹織物

第三十一類　木綿織物

第三十二類　毛織物

第三十三類　麻織物

第三十四類　絹、綿、麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物

第三十五類　絲類ノ編物及組物

レース、打紐、網等

第三十六類　被服

諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等

第三十七類　醸造物及飲料

諸種ノ酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等

第三十八類　砂糖類

諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第三十九類　菓子及麺包類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、飴、砂糖漬等

第四十類　茶及咖啡類

第四十一類　烟草類

第四十二類　穀、菜、種子及菓物類

五穀、蔬菜、菓、菓實、種子、根球、麹種モヤシ等

第四十三類　挽粉、澱粉及其製品

諸種ノ挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十四類　味噌、醬物及漬物類

第四十五類　貯藏食品

經節、鰹、乾鮑、海苔、昆布、仙叉、鏑詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等

第四十六類　牛乳製品

凝乳（コンデンスミルク）、乳油（バター）、乳餅、乳粉等

第四十七類　烟具及袋物

諸種ノ烟管、烟袋、烟管筒、懷中物等

第四十八類　紙及其製品

諸種ノ紙、色紙、短冊、擬革紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等

第四十九類　筆、墨類

筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等

第五十類　皮革及其製品

馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等

第五十一類（カバン）　燃料類

諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等

第五十二類　油、蠟類

諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十三類　肥料

干鰯、鯡粕、油粕、骨粉等

第五十四類　木竹材

第五十五類　木、竹、籐製品及其漆塗、蒔繪品類

指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等

第五十六類　角、甲、牙類ノ製品

第五十七類　藁及草ノ製品

疊表、莚、編笠、繩、麥藁細工等

第五十八類　傘、杖及履物

諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等

第五十九類　扇子及團扇

第六十類　提燈及ランプ類

第六十一類　齒磨及洗粉

第六十二類　刷子及毬類

第六十三類　玩具類

花毬、鞠、將棋、人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等

第六十四類　錦繪及寫眞類

第六十五類　書籍新聞紙雜誌類

第六十六類　他類ニ屬セサル商品

第十七條　特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第弐用紙洋紙十三行二十五字詰

第一號　商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ關レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

營業名　出願商標ヲ使用スル營業名以下此例ニ依ル

登錄願人　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第二號　會社又ハ組合ヨリ商標ノ登錄ヲ願出ルトキ

商標登錄願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ關レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

所在地

營業名

登錄願人　會社(組合)名　社印

社(組)長又ハ重役　氏　名　印

會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名力ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第三號　登錄商標ノ縮用ヲ願出ルトキ

登錄商標縮用登錄願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄證

右私所有登錄商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之處尚ホ引續キ專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第四號　商標登錄證ノ再下付ヲ願出ルトキ

商標登錄證再下付願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登錄證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第五號　商標登錄證改訂ヲ願出ルトキ

商標登錄證改訂願

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號商標登錄證

右私所有商標登錄證附圖ノ明細書(見本)中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間改訂商標登錄證下付相成度別紙改訂明細書(改訂見本)並ニ現商標登錄證及附圖明細書(見本)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第六號　商標登錄證書式

第何號

商標登錄證(改訂商標登錄證)

本籍(及現住所)

營業名

氏　名

商標條例ニ據リ本證附圖明細書ニ記載ノ商標ヲ登錄シ右記名ノ者ニ二十年間專用權ヲ與フルモノ也

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

第七號　登錄商標ノ廢與(讓與又ハ共有)ノ登錄ヲ請求スルトキ

登錄商標廢與(讓與又ハ共有)登錄請求書

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一第何號商標ヲ登錄證

右私所有登錄商標ヲ別紙約定書之通營業ト共ニ廢與(讓與又ハ共有)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

登錄商標主　氏　名　印

年　月　日

裏

何々事由ノ下付ノ

年　月　日

特許局長　氏　名　印

裏

商標登錄證

年　月　日　農商務大臣　氏　名　印

特許局長　氏　名　印

本籍(及現住所)
買受(譲受)人(共有)　氏　名　印

特許局長氏名殿

明細書文例

(備考)

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ除シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

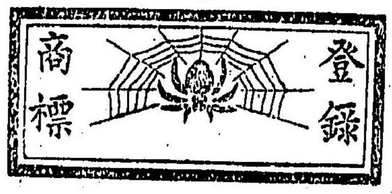
二　明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル證件ノ外必要ナワサル事項ヲ記載スヘカラス

三　明細書ニ見本ヲ掲クルニハ其商標全部ノ畫形ヲ模寫シ又ハ印刷シ又ハ模寫若クハ印刷セルモノヲ貼附スヘシ但シ之ヲ貼附シタルトキハ商標ト明細書用紙トニ驗ケテ捺印スヘシ

四　明細書ハ書損ナキ樣認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縱線ヲ引キ其字傍ヲ存スヘシ

五　明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及署名ハ之ヲ記載スヘカラス

商標見本



一　此商標ハ子蜘蛛ヲ以テ横長方形ノ圖ヲ設ケ其正中ニ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ヲ畫キ其右側ニ登錄左側ニ商標ト楷書ニテ記シタルモノナリ

一　此商標ノ要部ハ蜘ノ巣中ニ栖メル圖ナリ

一　此商標ハ商標條例施行細則第十六條第三十類ノ絹織物ニ使用ス

一　此商標ハ厚紙ノ小牌ニ印刷シテ絹織物ニ結ヒ附ケ又ハ絹織物ノ上包ニ印刷シテ使用ス

又ハ　氏　名　印
會社(組合)名　社印
社(組)長又ハ代表
氏　名　印

○農商務省令第四號

明治二十一年一月農商務省令第一號特許局分掌規程第四條中「審査官ノ査定ニ對スル不服事件ノ」ノ十五字ヲ刪除ス

明治二十二年一月八日　農商務大臣伯爵井上馨

○文部省令第一號

明治十九年五月文部省令第十號第九條尋常師範學校生徒員數表中德島縣ノ次ニ香川縣ヲ挿入シ其生徒員數ヲ百二十名トシ愛媛縣ノ生徒員數ヲ百四十名ト改ム

明治二十二年一月十日　文部大臣子爵森有禮

○内務省令第一號

第一條　從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財産ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條　前條ノ財産ニシテ地方税又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ別ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條　公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ニ據ルノ限ニ在ラス

明治二十二年一月二十四日　内務大臣伯爵松方正義

○大藏省令第一號

年額又ハ月額ノ手當金ハ毎月年額ノモノハ之ヲ十二分シ末日休日ニ當ル時ハ繰上ケ之ヲ支給シ任轉免等ノ場合ハ其月ノ現日數ニ由リ日割ヲ以テ計算ス

但明治十六年當省達第五十七號ハ廢止ス

明治二十二年一月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

（參照）大藏省達第五十七號（明治十六年九月六日）

交際費支給方ノ儀ハ月割ヲ以テ毎月交付シ且任免轉任等ノ月モ各其月割額ヲ給シ自然定額不足ヲ生スル節ハ他ノ細科目ヨリ流用支辦候儀ト可相心得此旨相達候事

○大藏省令第二號

明治十六年五月第十五號布達造幣規則中左ノ通改正明治二十二年四月一日ヨリ實施ス

明治二十二年一月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

第一條　末項「九月一日ヨリ十月三十一日マテヲ三月十六日ヨリ三月三十一日マテト改ム

第三條　輸入ノ金銀地金ハ左ノ高以上ニ非サレハ受取ラサルヘシ但一口ノ輸入高五額ニシテ工程ニ超過シ第十條期日ニ代リ貨幣ヲ拂渡シ得サルトキハ輸入人ト商議ノ上更ニ拂渡ノ期日ヲ定メ受入ルヘシ

第十條　但期日前以下ヲ「但シ期日前貨幣拂渡ヲ望ム者ハ造幣局或貨拂渡證書ニ對シ其證書面ニ指定シタル日本銀行本店又ハ大阪支店ニ於テ年四歩ノ歩合ヲ以テ割引スヘシ」ト改ム

第十三條　初行「權濱」ノ下ニ「神戸」ノ二字ヲ加フ

第十五條　第一項中「補助銀銅貨幣量目ニ制限ナシ無手數料」ノ十七字並第二項ヲ削除ス

○外務省令第一號

明治十九年七月當省令第一號交際官並領事費用條例細則中左ノ通改正刪補ス

明治二十二年一月二十五日

外務大臣伯爵大隈重信

交際官並領事費用條例細則

第一條ヘ左ノ一項ヲ追加ス

公使領事以下官員赴任ノ際在勤年俸ノ内其幾分ヲ本邦ニテ請取ランコトヲ出願スルトキハ外務大臣ニ於テ其事情不得已モノト認定スル場合ニ限リ在勤年俸三箇月以内ヲ前渡スルコトアルヘシ

第七條中「公使館ハ一箇年六百圓又」ノ下「領事館書記生」ノ六字ヲ削リ左ノ七字ヲ挿入ス

副領事書記生等

第八條中「副領事」ノ下ヘ左ノ四字ヲ挿入ス

書記生等

第二十五條中「乙號表ニ照ラシ」ノ下左ノ割註ヲ加フ

（臨時代理公使ハ代理公使ノ給額ニ準ス）

第三十二條ヘ左ノ但書及一項ヲ加フ

但其遞送本邦ヘ回送スルトキハ埋葬料ヲ給セス其地ヨリ本邦マテノ旅費ノ金額ヲ手當トシテ支給スヘシ

公使領事以下官員許可ヲ得テ携行ノ妻海外ニ於テ死亡シ遺骸本邦ヘ回送スルトキハ甲號表ニ照シ其地ヨリ本邦マテノ旅費ノ金額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第五十九條中「無遲滯外務省ヘ報告スヘシ」ノ下刪除ス

第六十條中「經費金等殘餘ヲ生スルトキハ」ノ下左ノ通改正

其館ニ於テ之ヲ管守シ大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

乙號表中書記生ノ上位ヘ左ノ一欄ヲ加フ

領事代理	歐米	亞細亞	
	英貨一磅	銀貨四圓五十錢	但一日分
	朝鮮國		
領事代理	金三圓	但一日分	

同表中判任ノ上位ヘ左ノ一欄ヲ加フ

但副領事ニテ領事代理ノ節ハ奏任ノ額ヲ給ス

○遞信省令第一號

明治二十一年遞信省令第四號鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱細則第二條ヘ左ノ但書ヲ追加ス

遞信大臣子爵榎本武揚

明治二十二年二月一日

但特ニ指定スル電信又ハ電話取扱所ニ於テハ區域ヲ限リ配達ヲ爲シ又ハ別使配達若クハ將船配達ヲ爲スヘシ

○大藏省令第三號

流通不便ノ金銀銅貨ハ本年四月一日以後當省金庫局及同局大阪出張所ニ於テ左ノ區別ヲ以テ交換スヘシ但手數料ハ徵收セス

一量目減少セサル者　全額

一量目減少セル者　現存價格

明治二十二年二月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令第一號

徵兵事務條例施行細則左ノ通定ム

明治二十二年二月二十八日

陸軍大臣伯爵大山巖

徵兵事務條例施行細則

第一條　條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附錄第一樣式ニ依リ之ヲ作リ一市一町村ヲ一册ト爲シ册尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條　徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作リ壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條　條例第二十五條ノ徴兵署及徴兵檢査所巡回日割ヲ定ムル爲メ島司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條　大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵檢査所ハ島司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設ス可シ

徴兵檢査所ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ヲ經テ師管徴兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概ネ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條　大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵檢査所巡回日割既ニ定マルトキハ島司郡市長ハ其徴募區内ニ於テ毎日檢査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引纏メ徴兵署又ハ徴兵檢査所ニ出頭セシム可シ

第六條　壯丁ノ身體檢査ヲ行フトキハ島廳附府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徴兵檢査規則ニ依リ身體ヲ檢査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徴集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第七條　身體檢査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條　身體檢査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徴兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其具況書ヲ添ヘ旅管徴兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徴兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條　身體檢査終ルノ後大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシ

メ其人名ヲ旅管徴兵官ニ報告ス可シ

第十條　徴兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徴集延期ニ屬シ第二十一條ニ依リ徴集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署ニ於テ附錄第二樣式ニ依リ徴集延期證書徴集猶豫證書ヲ作リ市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徴兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條　陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

一　歩兵ハ身體强健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者

二　騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

三　砲兵ハ體力强大ニシテ視力清明ナル者

四　工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ膂力アル者

五　輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且膂力アル者

六　職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者

近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ

第十二條　海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ

一　海員免狀ヲ受ケシ海員ノ業ニ從事スル者

二　汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

三　現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者

四　舟夫

五　漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第十三條　條例第二十九條ノ徴兵檢査名簿徴集延期名簿及徴集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徴兵檢査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官署名押印シ旅管徴兵官ニ差出ス可シ

第十四條　大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサル壯丁ハ徴集延期名簿ニ一年志願公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徴集スルコト能ハサル壯丁ハ徴集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徴集猶豫名簿ニ編入シ其事由ヲ記スルモノトス

第十五條　徴兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ルヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十六條　徴兵令第二十一條ニ當ル者ハ徴集猶豫ノ期限間身體ノ檢査ヲ行ハス

第十七條　疾病傷痍又ハ犯罪等ノ爲メ身體檢査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徴募區ノ大隊區徴兵署又ハ警備隊區徴兵署若クハ徴兵檢査所若クハ旅管徴兵署ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ檢査ニ回ス可シ但疾病傷痍ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ檢査ス可シ

第十八條　旅管徴兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到著ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條　抽籤施行ニ先タチ旅管徴兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徴募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條　籤札ハ附錄第三樣式ニ依リ之ヲ作リ籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徴兵委員大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島嶼附府縣屬郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ヒ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條　條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク每ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條　抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ヒ其籤札ヲ島嶼附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島嶼附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人每ニ之ヲ截チ切リ總代人ニ交付ス可シ

第二十三條　檢査合格者ハ左ニ掲クル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徴員ニ編入ス

一　甲種合格者ニシテ徴兵令第二十八條ニ當ル者（二人以上ナルトキハ年齡ノ順序（同年齡ノ者ハ誕生月日ノ順序）ニ從フ第二項第三項第五項第六項亦同シ）

二　甲種合格者ニシテ徴兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徴集スル者

三　甲種合格者ニシテ現役志願ノ者

四　甲種合格者ニシテ抽籤ノ者（番號ノ順序ニ從フ第七項亦同シ）

五　乙種合格者ニシテ徴兵令第二十八條ニ當ル者

六　乙種合格者ニシテ徴兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徴集スル者

七　乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條　抽籤終ルトキハ旅管徴兵署ニ於テ附錄第四第五第六第七樣式ニ依リ新兵證書豫備徴員證書國民兵證書及免役證書ヲ作リ市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徴兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徴集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作リ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條　條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徴員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徴兵檢査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徴兵官署名押印ス可シ

第二十六條　旅管徴兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徴員監視名簿ヲ作リ各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條　條例第三十八條ノ徴兵表ハ附錄第八樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條　壯丁名簿進達後檢査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徴募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ但檢査後抽籤前ニ係ルモノハ島司又ハ郡長ヲ經テ旅管徴兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ檢査名簿進達後抽籤前前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徴兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備徴員ノ名簿ニ關スル異動（轉入籍ヲ除ク）ハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條　檢査後抽籤前徴募區外ニ轉籍スル者アルトキハ島司郡市長ヨリ檢査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

共異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徴集ス

第三十條　徴兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徴集延期若クハ徴集猶豫中名

簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡長ニ報告ス可シ

他ノ徴募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徴集延期名簿若クハ徴集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條　徴兵令第二十六條ニ依リ他ノ徴募區ニ於テ徴集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徴集延期若クハ徴集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徴募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徴集ニ應シ度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルトキハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徴集延期名簿若クハ徴集猶豫名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條　徴兵令第二十五條ノ屆出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作リ島司又ハ郡長ニ送出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作リ大隊區徴兵署又ハ旅管徴兵署ニ提出ス可シ

第三十三條　新兵入營ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島市又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條　條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ

新兵五人以上五十人迄　下士若クハ上卒（海軍ハ一等卒以下之ニ倣フ）一名兵卒一名乃至三名

新兵五十一人以上百五十人迄　中少尉（海軍ニ在テハ大尉以下之ニ倣フ）一名下士若クハ上卒兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名

新兵百五十一人以上三百人迄　中少尉一名下士若クハ上卒兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名

新兵三百一人以上　大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

第三十五條　條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河

第三師管ハ四日市、沼津

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣島、呉、丸亀

第六師管ハ長崎、佐世保、大分

第三十六條　近衛、海軍新兵入營ノ期ニ先メテ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到著ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

第三十七條　條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛、海軍新兵受領委員ニ其由ヲ通知ス可シ

第三十八條　條例第五十一條ニ依リ豫備徴員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條　徴兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

第四十條　新兵入營前罹疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ營備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

第四十一條　條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛郷督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

第四十二條　新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ

第四十三條　新兵豫備徴員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徴員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條　新兵證書豫備徴員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

第一樣式（壯丁名簿）

用紙英濃紙半葉（△印及罫印ハ孰モ朱）

| 明治何年壯丁名簿 | | |